

〔第六十七條〕

- 元金ノ辨濟期ニ於テ一度ニ支拂ハルヘキ利息及ヒ債務不履行ニ因ル損害金ハ民法第百六十九條ノ短期時效ニ因リ消滅スヘキ債權ニ非スシテ同第百六十七條第一項ニ從ヒ十年ノ時效ニ因リテ消滅スヘキモノナリ
- 債務者カ不法行為ニ原因セル債務ノ辨濟ヲ怠リタルニ因リテ生シタル損害ノ賠償ヲ請求スル場合ニハ民法第七百二十四條ノ時效規定ヲ適用スヘキモノニ非スシテ同第百六十七條第一項ヲ適用スヘキモノトス
- 民法第百六十七條第一項ハ嚴格ナル意義ニ於ケル債權ノミナラス再賣買ノ豫約者ノ相手方カ賣買完結ノ意思ヲ表示シ賣買ヲ成立セシムル權利ノ如キ所謂形成權ニ對シテモ其適用アルモノトス
- 所有權確認ノ請求權ハ目的物ニ對スル第三者ノ取得時效ノ完成ニ因リ消滅スルコトアルヘキモノ十年ノ消滅時效ニ因リ消滅スルコトナキモノトス
- 賣買ニ因ル所有權移轉ノ登記ハ買主ヲシテ所有權ノ取得ヲ完全ナラシムル爲メ其移轉ノ事實ニ伴ヒ必ス存セサルヘカラサルモノナレハ買主ノ登記請求權ハ獨立シテ消滅時效ニ罹ルヘキモノニ非ス
- 甲乙共同シテ負擔シタル連帶債務ノ因テ生シタル行為カ甲ノ爲メニ商行爲タルモ乙ノ爲メニハ然ラサル場合ニ於ケル時效ニ付テハ甲ニ對シテハ商法ノ規定ヲ適用シ乙ニ對シテハ民法ノ規定ヲ適用スヘキモノトス從テ甲ニ對シ時效完成シ乙ニ對シ未タ完成セサルトキハ乙ハ民法第四百三十九條ニ依リ單ニ甲ノ負擔部分ニ付テノミ其義務ヲ免ルルモノトス
- 辨濟期ニ至リタル利息債權ハ元本債權ニ對シテ獨立ナル性質ヲ有スルモノナレハ元本債權ト獨立シテ時效ニ罹ルモノトス
- 如上ノ理論ハ利息カ約定利息ナルト法定利息ナルト又元本債權カ民法上ノ債權ナルト手形債權ナルトニ依リテ異ナルモノニ非サレハ手形債權ノ滿期日以後ノ法定利息ハ手形債權ト獨立シテ時效ニ罹ルモノトス
- 賣主甲カ賣買ノ目的物タル不動産ヲ丙ニ贈與シ且登記ヲ爲シタルカ爲メ買主タル乙ニ對スル賣買登記及ヒ引渡義務ノ履行ヲ不能ナラシメタルコトヲ原因トスル損害賠償ノ請求ニ付テハ一般普通ノ債權ニ關スル時效ノ適用ヲ除外スヘキ何等特殊ノ理由ヲ存セサレハ消滅時效ニ關スル民法第百六十七條ヲ適用スヘキモノトス
- 債務不履行ニ基ク遲延利息ハ民法第百六十七條第一項ニ依リ十年ノ時效ニ因リテ消滅スヘキ債權ニシテ同第百六十九條ニ依リ五年ノ時效ニ

四
四
四
四
五
四
四
五

八五二
四九
一三八
一九〇三
六七四

- 辨濟期ニ至リタル利息債權ハ元本債權ニ對シテ獨立ナル性質ヲ有スルモノナレハ元本債權ト獨立シテ時效ニ罹ルモノトス
- 如上ノ理論ハ利息カ約定利息ナルト法定利息ナルト又元本債權カ民法上ノ債權ナルト手形債權ナルトニ依リテ異ナルモノニ非サレハ手形債權ノ滿期日以後ノ法定利息ハ手形債權ト獨立シテ時效ニ罹ルモノトス
- 賣主甲カ賣買ノ目的物タル不動産ヲ丙ニ贈與シ且登記ヲ爲シタルカ爲メ買主タル乙ニ對スル賣買登記及ヒ引渡義務ノ履行ヲ不能ナラシメタルコトヲ原因トスル損害賠償ノ請求ニ付テハ一般普通ノ債權ニ關スル時效ノ適用ヲ除外スヘキ何等特殊ノ理由ヲ存セサレハ消滅時效ニ關スル民法第百六十七條ヲ適用スヘキモノトス
- 債務不履行ニ基ク遲延利息ハ民法第百六十七條第一項ニ依リ十年ノ時效ニ因リテ消滅スヘキ債權ニシテ同第百六十九條ニ依リ五年ノ時效ニ

七
六
六
五
六
六
七

九五七
一五八
一五六
二六四

因リテ消滅スヘキモノニ非ス

(同三言)

債務不履行ニ因ル損害賠償權ハ民法第六十九條ノ短期時效ニ屬ルモノニ非スシテ同第六十七條第一項所定ノ十年ノ時效ニ屬ルモノトス

運延利息ノ請求權ハ民法第六十九條所掲ノ債權ニ屬セサルヲ以テ十年ノ時效ニ因リ消滅スルモノトス

○解約權ハ常ニ基本契約ニ伴ヒ之ト運命ヲ共ニスヘキモノニシテ基本契約ノ存續スルニ拘ハラズ獨リ時効ニ因リ消滅スルモノニ非ス

○所有權ニ基ク所有物ノ返還請求權ハ其所有權ノ一作用ニシテ之ヨリ生スル獨立ノ權利ニ非サレハ所有權自體ト同シク消滅時効ニ因リテ消滅スルコトナシ

(第六十八條)

『第六十八條』

○民法第六十八條ノ定期金ノ債權トハ定期毎ニ若干ツツノ金錢又ハ其他ノ物ノ給付ヲ受クヘキ基本ノ權利ヲ指稱セルモノトス從テ消費貸借ニ基ク債權ノ如キハ縱令時期ヲ定メテ數回若クハ數十回ニ之ヲ辨濟スルコトト爲スモ同條ニ所謂定期金ノ債權ニ非ス

(第六十九條)

『第六十九條』

○民法第六十九條ニ所謂年又ハ之ヨリ短キ時期ヲ以テ定メタル金錢其他ノ物ノ給付ヲ目的トスル債權トハ終身定期金利息等ノ如ク一定ノ法律關係ヨリ遞次ニ發生スル債權ヲ指稱セルモノニシテ年ヨリ短キ時期ヲ以テ分割辨濟ノ期限ヲ定メタル債權ノ如キハ之ヲ包含セス

(同三言)

民法第六十九條ハ基本タル債權アリ其效果トシテ或短期毎ニ金錢等ノ給付ヲ爲サシムル債權ニノミ適用セラルヘキモノニ非ス養料若クハ終身年金其他教師雇人等ノ謝金給料ニ關スルモノノ如ク基本タル債權ナク年以下ノ短期ニ於テ時時發生スヘキ單一ノ債權ニ付テモ亦適用セラルヘキモ債權關係ハ一時ニ發生シ單二年又ハ之ヨリ短キ時期ニ於テ分割辨濟スヘキコトヲ定メタル場合ニハ之ヲ適用スヘキモノニ非ス

民法第六十九條ニ所謂年又ハ之ヨリ短キ時期ヲ以テ定メタル金錢其他ノ物ノ給付ヲ目的トスル債權トハ利息貸貸給料等ノ如キ毎時期ニ支拂フヘキ債權ヲ指稱スルモノニシテ借用金自體ニ適用スヘキ規定ニ非ス

民法第六十九條ニ所謂債權ハ年以下ノ期間ヲ以テ定メタル金錢其他ノ物ノ給付ヲ目的トスルモノニシテ其期間毎ニ發生スヘキ債權ナラサルヘカラス而シテ貸借上ノ債權ノ如キハ其貸借ノ成立ト同時ニ發生スルモノナレハ其返還期限ノ一年以内タルト否トナ問ハス同條ノ規定ヲ適用スヘキ限ニ在ラス

民法第六十九條ノ規定ハ時ノ經過ニ由リ遞次ニ發生スヘキモノニシテ年又ハ之ヨリ短キ時期毎ニ支拂フヘキコトヲ目的トスル債權ニ適用スヘキモノニシテ一時ニ發生シタル債務ノ分割辨濟ノ如キ場合ニ於ケル債權ニ適用スヘキモノニ非ス

七 一八六

六 一二五

七 二九六

五 二六一

四〇 六三

三七 三五

三五 二 四九

三六 八〇二

三六 一〇三

三六 二四〇

○元金ノ辨濟期ニ於テ一度ニ支拂ハルヘキ利息及ヒ債務不履行ニ因ル損害金ハ民法第六十九條ノ短期時效ニ因リ消滅スヘキ債權ニ非スシテ同第六十七條第一項ニ從ヒ十年ノ時效ニ因リ消滅スヘキモノナリ

○債務不履行ニ基ク遅延利息ハ民法第六十七條第一項ニ依リ十年ノ時效ニ因リテ消滅スヘキ債權ニシテ同第六十九條ニ依リ五年ノ時效ニ因リテ消滅スヘキモノニ非ス

(同主旨)

債務不履行ニ因ル損害要債權ハ民法第六十九條ノ短期時效ニ罹ルモノニ非スシテ同第六十七條第一項所定ノ十年ノ時效ニ罹ルモノトス

遅延利息ノ請求權ハ民法第六十九條所掲ノ債權ニ屬セサルヲ以テ十年ノ時效ニ因リ消滅スルモノトス

『第七十二條』

○辯護士公證人及ヒ執達吏ノ職務ニ關スル債權ニ付キ特ニ辨濟期ヲ定メタル場合ニ於テハ其原因タル事件ノ終了セルト否トニ拘ハラズ期限到來シタル時ヨリ時效進行スルモノトス

○辯護士カ委任者ニ對シテ主張スル債權ニ付キ民法第七十二條ヲ適用スルニハ先ツ其原因タル行爲ハ裁判所ニ於テ之ヲ行フモノナルコトヲ確定セサルヘカラス

(第七十二條)

(第七十三條)

『第七十三條』

○民法第七十三條第一號ハ生産者及ヒ商人カ獨リ消費者ニ對シ賣却シタル產物及ヒ商品ノ代價ニ付テノミ適用スヘキ規定ニ非スシテ卸賣商人カ轉賣ヲ目的トスル者ニ對シ賣却シタル商品ノ代價ニ付テモ均シク適用スヘキ規定ナリトス

○問屋ハ他人ノ爲メニ物品ノ販賣又ハ買入ヲ爲スヲ業トスル者ニシテ自己ノ爲メニ之ヲ爲スモノニ非サレハ民法第七十三條第一號ニ所謂卸賣商人又ハ小賣商人ニ非ス

第一編 物權

○物權ハ特定物ニ非サレハ發生スヘキモノニ非ス從テ金錢ノ如キ融通物ニシテ特定セサルモノハ交付ヲ受ケサル間ハ之ヲ請求スヘキ債權ヲ有スルニ過キス

○行政處分ニ依リ公有ニ屬スル堤防敷地使用ノ權ヲ得タル者ハ使用命令ノ旨趣ニ從ヒ其範圍内ニ於テ該敷地ヲ自己ノ私用ニ供シ之ヲ使用シ得ルニ過キサレハ其權利ハ私權ニシテ而モ一種ノ財產權タルニ止マリ之ヲ以テ一ノ物權又ハ債權ナリト云フヲ得ス

民法 物權

三七	三三	四	三六	四〇	四〇	六	四二	七	四三
一五五	九三	三六	四〇	四九	二八	一七五	五三	一八六	八五

(參照)

墓地ハ普通民事上ノ財産ト其性質ヲ異ニスル所アルヲ以テ之ニ附着セル立木ノ如キモ亦通常ノ共有立木ト同一視スルヲ得ス

一箇ノ土地ニ對シ前後二箇ノ權利者アリ何レモ相當ノ手續ヲ爲シ共ニ懈怠又ハ過失ナク兩立シ難キトキハ先キニ著手シタルモノヲ保護セサルヘカラス

何人ト雖モ自己ノ有セサル權利ヲ他人ニ移スコトヲ得ス

鑛泉採酌權ノ設定カ土地ノ使用權若クハ賃借權等ノ如ク直ニ其地上ニ權利ヲ有スルモノナラシニハ物權ヲ以テ論スルヲ得ルト雖モ其地ノ所有他ニ移轉シタル場合ニ於テ原判決カ採酌權ハ鑛泉ノ上ニ有スル物權ナリト論定シタルノミニテ該權ノ設定ハ如何ナル契約ニ因リ成立セシモノナルヤ又該權ノ其土地ニ於ケル關係ハ如何ナル事實ナリヤノ點ニ付テ毫モ説明スル所アラサレハ其採酌權ハ單ニ鑛泉ヲ酌取ルノ權利ト認メ論定シタルモノト見ルノ外ナキヲ以テ物權タルノ性格ヲ有セス則チ原判決ハ不法ノ裁判タルヲ免レス

鑛泉採酌權ハ物權ナリ

鑛物採掘ノ特許ヲ得タル者ハ鑛物其物ノ所有權ヲ獲得シタルニ非スシテ單ニ其鑛物ヲ採掘スルノ權利ヲ獲得シタルニ過キス故ニ之ヲ以テ不動産ヲ獲得シタルモノト云フヲ得ス

第一章 總則

(第百七十五條)

『第百七十五條』

土地所有者ヲシテ其所有地内ニ井泉ヲ穿ツコトヲ得サラシムル權利ハ

現行法上土地役權ノ設定ニ依リテ之ヲ創設シ得ルノ外物權トシテ法律ノ保護ヲ受クヘキモノニ非ス又此種ノ慣習ハ其效力ヲ有セス

○一箇ノ土地ニ付キ所有權以外ニ上土權ナル地表ノミノ所有權ヲ認ムルコトヲ得スシテ土地ノ上ニ建物ヲ所有スル爲メ其土地ヲ使用スル權利

ハ民法ニ所謂地上權ニ外ナラサルモノトス

(參照)

所有主即チ官ノ許可ヲ受ケ多年其地ノ生産物ヲ收用シ來リシトテ之カ爲メ別ニ一箇獨立ノ物上權ヲ設定セリト云フヲ得ス

(第百七十六條)

『第百七十六條』

○當事者カ或物權ヲ設定スルニ當リ取得者ノ權利ノ安全ヲ期シ其登記手續ヲ完了シタル後ニ非サレハ設定契約ノ完結セサルヘキコトヲ特約スルハ違法ニ非ス

○特定物ヲ目的トスル賣買ハ特ニ將來其物ノ所有權ヲ移轉スヘキ約旨ニ出テサル限ハ即時ニ其物ノ所有權ヲ移轉スル意思表示ニ外ナラサルヲ以テ民法第百七十六條ノ規定ニ依リ直ニ所有權移轉ノ效力ヲ生スルモノトス

○立木ニ關スル法律ニ依リ所有權ノ保存登記ヲ爲ササル樹木ハ獨立ノ不

三七	二五	二
四二九	三	八五七
一三六	四	
一三〇九		

二五	二五	二五
二	五	一〇五
二	六	五三
二六	二	四〇三
二八	八	七四

○動産ナリト云フヲ得サレトモ其樹木ノミヲ土地ト分離シテ讓渡ノ目的ト爲スコトヲ妨ケス而シテ其之ヲ立木トシテ地上ニ生立セシムル目的ヲ以テ讓渡シタル場合ナルト伐採ノ目的ヲ以テ之ヲ讓渡シタル場合ナルトヲ問ハス當事者間ニ於テハ樹木ノ所有權ハ讓渡ノ意思表示ニ依リ讓受人ニ歸屬シ單ニ引渡ノ債權關係ノミヲ發生スルニ止マラサルモノトス

○遺贈ハ遺言ヲ以テ受遺者ニ財産上ノ利益ヲ與フル遺言者ノ意思表示ニ外ナラサレハ遺言カ表意者ノ死亡ニ因リテ其效力ヲ生スルト同時ニ遺贈ノ目的タル財産ハ其遺贈カ包括遺贈ナルト特定遺贈ナルトヲ問ハス民法第七十六條所定ノ如ク物權的效力ヲ生シ直接ニ受遺者ニ移轉スルモノトス

(第七十七條)

『第七十七條』

○民法第七十七條ハ不動産ニ關スル物權ノ得喪及ヒ變更ニ關スル規定ニシテ從來保有スル所有權ニ適用スヘキモノニ非ス

○登記法發布以前公賣處分ニ因リ地所ヲ買受ケタル者カ地券ノ書換ヲ怠リ地券臺帳及ヒ土地臺帳面所有名義ノ變更ナカリシ爲メ其賣主ニ於テ所有權ノ登記ヲ爲シ更ニ其地所ヲ第三者ニ賣渡シタルトキハ買主ハ右

ノ第三者ニ對シ取戻ヲ請求スルコトヲ得ス

○民法第七十七條ハ第三者ノ意思ノ善惡如何ヲ問ハサルノ律意ナルカ故ニ縱令第三者ノ爲シタル不動産ノ賣買及ヒ登記カ當事者一方ノ先賣買ヲ無効ナラシムルアリトスルモ其先賣買ニシテ登記セラレサル限り債權ノ詐害行爲ニ關スル民法第四百二十四條ヲ援用シテ之カ取消ヲ請求スルヲ得ス

○不動産所有者ノ意思ニ反シ擅ニ自己ノ名義ニ登録シタル者ノ債務ニ對シ其不動産ヲ差押ヘタル者ハ右不動産所有者ニ對シ民法第七十七條ニ所謂第三者ニ非ス

○賣買ニ依リ不動産ヲ取得スルモ登記ヲ經サルモノハ其效力單ニ賣買當事者間ノ關係ニ止マリ之ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得サルモノトス

○民法第七十七條及ヒ第七十八條ニ規定スル所ハ獨リ同一物件ニ關シテ設定シタル數人ノ權利牴觸スル場合ノミニ限ラス所有權利ノ輾轉シタル場合ニ於テハ最初ノ所有者ト轉得者トノ間ノ關係ニ付テモ亦同シク適用セララルモノトス

○曾テ債務者ヨリ不動産ノ所有權ヲ取得シタル者カ其登記ヲ怠リ且其不

三三 二 八

三二 一〇 四

五 二〇六

五 七九

三三 七 三二

三四 二 四

三四 二 一〇一

三四 四 五

○動産ノ競落許可ノ決定後マテ異議ナク經過シタルトキハ其取得者ノ競落人及ヒ競賣ニ付テノ利害關係人ニ對シ所有權ヲ對抗スルコトヲ得サルモノトス

三

九

三三

○明治十九年八月法律第一號登記法實施以前ニ於ケル建物ノ賣買ニシテ明治八年九月第四百四十八號布告建物賣買讓渡規則ニ從ヒ公證ヲ受ケス又其後登記法ニ依リ所有權ノ登記ヲモ爲ササルニ於テハ買主ハ其賣主ノ所有ナリトシテ差押ヘタル賣主ノ債權者ニ對シテ所有權取得ノ對抗ヲ爲スコトヲ得ス

三五

七

六〇

○民法第七十七條ハ登記法ニ列記シタル物權ニ付テハ登記ヲ爲スニ非サレハ第三者ニ對抗シ得サルコトヲ規定シタルニ過キスシテ登記ナキ物權ハ絶對ニ對抗力ナシトノ法意ニ非ス

三六

七五

(刑) ○民法第七十七條ニ所謂「第三者」トハ不動産其物ノ上ニ行ハルル特種ノ權利ヲ有スルカ爲メ不動産上物權ノ得喪變更ニ付キ利害關係ヲ有スル者ノミヲ指稱スルモノトス從テ不動産其物ニ付キ何等ノ權利ヲ有セサル者ハ同條ニ所謂第三者ノ中ニ包含セス

三六

七五

○地所ノ買得者ハ所有權ニ付テハ前所有者ノ承繼人タルモ其地所ノ地上權關係ニ於テ之ヲ承認セサルヘカラサル責任ナキトキハ地上權者ニ對シ

シ第三者ノ地位ニ在ルモノトス

三七

三九一

○民法第七十七條ノ規定ハ別異ノ法律行為ニ因リ同一不動産ニ付キ利害相反スル權利ヲ取得セシ當事者數名アル場合ニ適用セラレヘキモノトス從テ唯一ノ法律行為ニ於ケル真正ノ當事者ハ何人ナルカノ爭アル場合ニハ同條ノ規定ヲ適用スヘキモノニ非ス

三六

二四二

○民法第七十七條ニ所謂第三者トハ物權上ノ法律關係ヲ有スル者ノ外不動産ヲ債務者ノ所有トシテ差押ヘタル債權者ヲモ包含スルモノトス

三六

六四七

○土地ヲ立木ト共ニ買受ケテ土地賣買ノ登記ヲ經タル者ハ單ニ其土地ノ取得ヲ以テ登記ヲ經サル第三者ニ對抗シ得ルノミナラス立木ノ取得ニ付テモ亦之ニ對抗シ得ヘキ場合アルモノトス

三六

七四

○建家ノ實際ノ坪數カ其登記セラレタル坪數ニ符合セサルモ該登記ニシテ建家ヲ表示セルモノナル以上ハ其所有者ハ建家ニ關スル權利ヲ主張スルコトヲ得從テ後日同一ノ建家ニ付キ實際ノ坪數ニ恰當セル登記ヲ以テ前所有者ヨリ買受ケタル第三者アリトモ之ニ對抗シ得ルモノトス

三六

九〇六

○民法第七十七條ハ不動産上ノ物權ノ得喪ヲ生セシメタル法律行為カ犯罪ニ原因シタルト否ト又第三者ノ善意ナルト惡意ナルトヲ區別セサレハ苟モ其法律行為ニシテ當然無効ナラサル以上ハ該規定ノ適用ヲ妨

タルコトナシ

(同主旨)

民法第七十七條ニハ不動産ニ關スル物權ノ讓渡ノ際犯罪所爲ノ牽連セル場合ヲ除外シタル規定ナキヲ以テ他ニ先チテ不動産ヲ買受ケタリトモ之カ登記ヲ爲ササル間ニ同一ノ不動産ニ付キ抵當權ヲ設定シテ抵當權者カ買主ニ先チテ登記ヲ爲シタル場合ニ於テ買主ノ買主ニ對スル所爲カ犯罪タルト否トナ問ハス右法條ノ適用ヲ受ケ抵當權ノ設定ハ有效ナリトス

(聯) ○民法第七十七條ノ規定ハ地上權者カ其權利ノ讓渡ニ因リ物權ヲ喪失シタルコトヲ以テ第三者ニ對抗スル場合ニモ亦之ヲ適用スヘキモノトス

(聯) ○地上權者ニシテ工作物ヲ所有スル者カ其工作物ノ所有權ヲ他ニ移轉シタル場合ニ於テハ反對ノ意思表示ナケレハ地上權ハ工作物ノ所有權ト共ニ新所有者ニ移轉シタルモノト推定スヘキモノナルモ建物所有權ノ移轉登記ヲ爲スモ地上權ノ移轉登記ヲ爲ササル以上ハ地上權移轉ノ效力ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

○不動産上ノ物權ヲ有スル者カ二人以上ノ者ニ對シ各別ニ權利ヲ移轉シタル場合ニ於テ其移付者ニ冒認販賣ノ如キ犯罪ヲ構成スルコトアルモ之カ爲メ登記簿上所有者ト爲リタル者ノ權利ニ何等ノ消長ヲ來スコトナシ

(同主旨)

不動産ノ所有者カ他人ニ其不動産ヲ賣却シ未タ登記ヲ經サル間ニ更ニ之ヲ他人ニ賣却シテ登記ヲ經タルトキハ後ノ買受人ハ其所有權ノ取得ヲ前ノ買取人ニ對抗シ得ルモノトス

○民法第七十七條ハ第三者ニ對シテ不動産上ノ權利ヲ主張スルニハ先ツ登記簿上其權利ノ登記アルコトヲ要スト謂フニ過キスシテ登記簿上不動産ニ關スル權利ノ登記ヲ爲シタル者ハ其取得以前ニ遡リテ之ヲ第三者ニ對抗シ得サルノ趣意ニ非ス

○民法第七十七條ハ第三者カ對抗ノ權利ヲ拋棄スルトキハ物權ノ得喪變更ハ其者ニ對シ當然效力アルコトヲ示シタルモノトス而シテ第三者ハ其意思表示ノミニテ對抗ノ權利ヲ拋棄スルモ將タ特ニ物權ノ得喪變更ニ付キ利害關係ヲ有スル者ト契約ヲ締結シテ之ヲ承認スルモ妨ナシ

○明治十九年法律第一號登記法發布以前賣買ニ因リテ山林ヲ取得シタルモ地券名義書換ノ手續ヲ怠リ地券臺帳及ヒ土地臺帳上所有名義ノ變更ナカリシ爲メ賣主ニ於テ所有權保存登記ヲ爲シ更ニ該山林ノ立木ヲ第三者ニ賣渡シ且地上權ヲ設定シテ之カ登記ヲ受ケタルトキハ買主ハ其第三者ニ對シ自己ノ所有權ヲ對抗シテ立木ノ賣買及ヒ地上權ノ設定ヲ無効トスルヲ得ス

三六

一三四

三五

九

三

三九

一七四

三九

一七四

三九

一七四

三六

一七四

三元

一七四

三元

一三九

三元

一五七〇

○不動産上ノ權利ノ讓受人ハ同一不動産ニ付キ利害ノ關係ヲ有スル第三者ニ對シテハ先ツ自己ノ權利ノ登記ヲ爲スニ非サレハ其取得ヲ對抗シ得サルモノトス而シテ第三者カ讓渡人ト爲シタル行爲ノ眞實ナルヤ否ヤハ問フ所ニ非ス

四〇

一八八

(聯) ○地上權者カ其權利ヲ他人ニ讓渡シタルニ因リ物權ノ得喪ヲ來シタル場合ニ於テハ地上權讓渡ノ法律行爲ノ當事者ニ非サル者ハ總テ民法第七十七條ニ所謂第三者ナリトス

三九

二七四

(同主旨)

民法第七十七條ニ所謂第三者トハ地上權者カ其權利ヲ他人ニ讓渡シタルニ因リ物權ノ得喪ヲ來シタル場合ニ於テハ地上權讓渡行爲ノ當事者ニ非サル者ヲ指稱シ土地所有者モ亦之ニ包含スルモノトス

四〇

七七二

(反對)

地上權ヲ讓受ケタル者ハ前地上權者ノ承繼人ナルカ故ニ其地上權ヲ以テ土地所有者ニ對抗スルニハ登記ヲ爲スコトヲ要セス從テ其土地所有者ハ民法第七十七條ニ所謂第三者ニ非ス

三六

二五四

○民法第七十七條ニ所謂第三者トハ物權得喪ノ原因タル行爲ノ當事者及ヒ其一般承繼人以外及ヒ其一般承繼人以外ノ者ヲ總稱シ第三取得者タルト否トハ問フ所ニ非ス

四〇

二七四

(同主旨)

民法第七十七條ニ所謂第三者トハ物權得喪ノ原因タル行爲ノ當事者及ヒ其一般承繼人以外ノ者ヲ總稱シ第三取得者タルト普通債權者タルトハ問フ所ニ非ス

四〇

八三五

○適法ノ原因ニ基カサル登記ハ唯形式上ニ於テ存在スルニ止マリ實體上ニ於テハ物權ノ得喪變更ノ效ヲ生スルモノニ非ス

四一

一〇七

○登記簿上不動産ノ所有名義人タルモ本來所有權ヲ有セサル者ヨリ之ヲ買受ケタルトキハ所有權移轉ノ效果ヲ生セサルコト勿論ナレハ買受人カ所有權移轉ノ登記ヲ爲シタルト其賣渡人ノ所有者ナラサルコトヲ知ラスシテ買受ケタルトニ拘ハラズ眞正ノ所有者ハ其權利ヲ以テ之ニ對抗シ得ルモノトス

四一

一〇五

(聯) ○民法第七十七條ニ所謂第三者トハ當事者若クハ其包括承繼人ニ非スシテ不動産物權ノ得喪及ヒ變更ノ登記欠缺ヲ主張スル正當ノ利益ヲ有スル者ヲ指稱ス

四一

二七六

○甲者カ乙者ヨリ不動産ヲ買受ケタルニ拘ハラズ甲乙兩者及ヒ丙者ト通謀シタル虚偽ノ意思表示ニ因リ丙者ノ所有名義ニ登記シタルトキハ其乙丙間ノ賣買ハ民法第九十四條第一項ノ規定ニ從ヒ當然無効ナリトス故ニ丁者カ惡意ヲ以テ丙者ヨリ該不動産ヲ買受ケタルトキハ縱令其登記ヲ爲スモ何等實體上ノ權利ナク唯登記面上所有名義ヲ有スルニ過キ

サレハ民法第七十七條ノ所謂第三者ニ該當セス
○債權者カ質物タル不動産ノ占有ヲ取得スルニ先チ質權設定ノ登記ヲ爲シタル場合ニ於テハ縱シヤ爾後質物ノ占有ヲ取得シタリトスルモ之カ爲メ其登記ハ遡テ有效ト爲ルヘキモノニ非ス

(刑) ○當事者カ不動産ノ賣買ヲ解除シタル場合ニ於テ其所有權前賣主ニ歸屬シタル事實ヲ登記セサル以上ハ縱令買主カ登記簿上其所有名義ノ自己ニ存スルヲ奇貨トシ之ヲ他ニ讓渡シ又ハ該不動産ニ付キ抵當權ヲ設定スルモ前賣主ハ第二ノ買得者若クハ抵當債權者ニ對シテ自己ノ權利ヲ對抗スルコトヲ得ス

○不動産ニ關スル物權ノ得喪ハ其登記ヲ爲スニ非サレハ該不動産ニ付キ未タ登記ヲ爲ササル第三者ニ對シテモ之ヲ主張スルコトヲ得ス

○正當ノ權原ナキ占有者ハ其占有物ノ所有權ヲ取得シタル者ニ對シ引渡若クハ登記ノ欠缺ヲ主張スル正當ノ利益ヲ有スルモノニ非サレハ民法第七十七條及ヒ第七十八條ノ所謂第三者ニ該當セス

○土地ノ所有者カ他人ニ其土地ヲ賣渡シタル後更ニ同地所ノ一部及ヒ立木ヲ他人ニ賣却シテ其代金ヲ受取リタルトキハ物權得喪ノ登記欠缺ヲ主張スルニ付キ正當ノ利益ヲ有スルモノニ非サレハ縱令最初ノ買主ヨ

四三

二六

四二

八六七

四二

一四三三

四三

一

四三

一三三

リ該土地ヲ讓受ケタル者カ其所有權取得ノ登記ヲ爲ササルモ民法第七十七條ヲ適用スヘキ限ニ在ラス

○債權者カ民法第四百二十三條ニ依リ債務者タル不動産賣主ニ代リテ買戻權ヲ行使シタルトキハ買主ハ該賣主ニ對シテ有スル一切ノ抗辯ヲ以テ之ニ對抗シ得ルモノトス從テ其債權者ハ民法第七十七條ニ所謂第三者ニ非ス

○不動産ノ取得時効ノ完成シタル後ニ保存登記ヲ爲シタル前所有者ヨリ其不動産ヲ買得シテ所有權ノ取得登記ヲ爲シタル者ハ取得時効ニ因ル取得登記ノ欠缺ヲ主張スルヲ得ス

○民法第七十七條ハ物權取得者カ登記ヲ爲ササルニ付キ過失アリヤ否ヤニ因リ其對抗力ニ區別ヲ爲ササルヲ以テ苟モ登記ヲ爲ササル者ハ其過失ニ出テタルト否トヲ問ハス總テ其物權取得ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得サルモノトス

○不動産ニ關スル物權ノ得喪變更ハ登記ヲ爲スニ非サレハ第三者ノ意思ノ善惡ニ拘ハラズ之ニ對抗スルコトヲ得サルモノトス

(同左)

(刑)

抵當權設定前ニ於テ其目的タル土地ヲ買得シタルモ之カ登記ヲ爲ササリシ者ハ抵當權者カ其

四三

五三七

四三

五四七

四三

七六四

四四

八七一

四五

五六九

賣買ノ事實ヲ知リタルト否トニ拘ハラズ該地所ニ對スル所有權ヲ以テ之ニ對抗シ得サルモノトス

○民法第七十七條ハ不動産ニ關スル物權ノ得喪變更アリタル場合ニ其登記ノ欠缺ヲ主張スル正當ノ利益ヲ有スル第三者ヲ保護スル規定ナレハ右第三者ハ同條ノ保護ヲ受ケント欲スル旨趣ヲ主張スルニ非サレハ同條ノ適用ヲ受クルコトヲ得サルモノトス

○登記名義人タル家督相續人ヨリ不動産ヲ買受ケタリトスルモ其不動産カ既ニ被相續人ニ於テ贈與シタルモノナルトキハ買受人ハ民法第七十七條ニ所謂第三者中ニ包含セサルヲ以テ受贈者タル眞ノ所有者ハ所有權取得ノ登記ナシト雖モ之ヲ以テ右買受人ニ對抗スルコトヲ得ルモノトス

(同主旨)

不動産賣渡人ノ相續人カ該不動産ヲ相續セサル事實確定セルニ拘ハラズ其相續登記ヲ爲スモ無原因ノモノナルヲ以テ斯ル不正登記ノ名義人ヨリ之ヲ買受ケタル者ハ民法第七十七條ニ所謂第三者ト云フヲ得ス

相續人カ不動産ノ遺產相續ヲ爲ス以前ニ於テ既ニ他人カ該所有權ヲ取得セル場合ニ在テハ相續人ノ爲セル相續ニ因ル所有權取得ノ登記ハ無原因ノモノナルヲ以テ右相續人ヨリ物權ヲ取得シタル者ハ他人ノ所有權取得ニ付キ登記ノ欠缺ヲ主張スル利益ヲ有スル者ニ非ス

四三	一八二
四五	六七〇
元	七三三
四四	五一
四四	七六九

○不動産ニ關スル物權ノ得喪變更ニシテ實體上存スル以上ハ縱令其登記ヲ缺クモ之ト相牴觸スル得喪變更ニ付キ之ヲ生スヘキ法律上ノ原因ナクシテ登記ヲ經タル第三者ニ對シテハ其得喪變更ヲ對抗シ得ヘキモノトス

(刑)

○民法第七十七條ハ眞實不動産ニ關スル物權ノ得喪變更アリタル場合ニ於テ其登記ノ欠缺ヲ主張スルニ付キ正當ノ利益ヲ有スル所ノ第三者ニ對抗スル要件ヲ定メタルモノトス

(同主旨)

民法第七十七條ハ眞實不動産ニ關スル物權ノ得喪變更アリタル場合ニ於テ其登記ノ欠缺ヲ主張スルニ付キ正當ノ利益ヲ有スル所ノ第三者ニ對抗スル要件ヲ定メタルモノトス故ニ虛偽ノ意思表示ノ無效ヲ以テ惡意ノ第三者ニ對抗シ得ル場合ハ同條ノ規定ヲ適用スヘキ限ニ在ラズ

○甲者ノ遺產トシテ不動産ヲ相續シタリト稱スル乙者カ債權者丙ノ爲メ其不動産上ニ抵當權ヲ設定シタル場合ニ於テ該財產カ曩ニ甲者ノ隱居ニ因リ家督相續人丁者ニ移轉シ甲者ノ所有ニ屬セサルトキハ其抵當權設定ハ無効ナルカ故ニ丙者ハ丁者ノ相續ニ因ル所有權移轉ノ登記ナキコトヲ主張スルニ付キ正當ノ利益ヲ有スルモノニ非サレハ民法第七十七條ニ所謂第三者ニ該當セス

三	七七一
四二	七七七
三	三〇九
二	一五八

○相續缺格者カ事實上相續ヲ爲シ相續財産ヲ善意無過失ノ第三者ニ賣渡シタル場合ニ於テハ其賣買モ亦初ヨリ當然無効ニシテ第三者ハ之ニ因リテ毫モ財産權ヲ取得スルコト能ハス從テ其財産ニ關スル登記ノ欠缺ヲ主張スルニ付キ正當ノ利益ヲ有スルモノニ非サレハ民法第七十七條ノ所謂第三者ニ該當セス

(同義)

登記簿上家督相續ニ因ル所有權取得ノ登記アル場合ト雖モ其名義人相續權ナキトキハ縱令之ト賣買ヲ爲シ移轉登記ヲ受クルモ買主ハ所有權ヲ取得スルコト能ハサルヲ以テ民法第七十七條ハ此場合ニ適用スヘキ限ニ在ラス

○債權者カ債務者所有ノ不動産ニ對シ假差押ヲ爲シ其假差押命令ノ登記簿ニ記入セラレタル場合ニ於テ其以前他ノ債權者カ該不動産ニ付キ抵當權ヲ取得シタルモ假差押後其登記ヲ爲シタルトキハ對抗條件欠缺ノ爲メ其抵當權ヲ假差押債權者ニ對抗スルコトヲ得スト雖モ之ヲ以テ該登記後ニ配當要求ヲ爲シタル債權者ニ對抗シ得ルモノトス

○民法第七百九十二條ニ於ケル夫婦間ノ契約取消ノ效果ハ其契約ヲシテ初ヨリ無効ナリシモノト看做サシムルニ在リ從テ夫カ賣買名義ヲ以テ妻ニ對シ或不動産ノ權利移轉ノ手續ヲ爲シタル後其契約ヲ取消シタル

トキハ妻ハ最初ヨリ該不動産ニ付キ何等ノ權利ヲ有セザリシモノト看做サルルカ故ニ其取消後同人ヨリ之カ贈與ヲ受ケタル者ハ民法第七十七條ノ所謂第三者ニ該當セス

(刑)
○他人ノ家屋ヲ横領シタル者ハ縱令之カ保存登記ヲ爲スモ何等ノ效力ヲ生セス故ニ第三者ニ於テ其登記簿上ノ記載ヲ信賴シ適式ニ抵當權ヲ取得スルモ真正ノ所有者ニ對スル關係ニ於テ民法第七十七條ニ所謂第三者ナリト云フヲ得ス

○甲乙間ニ賣買アリタル不動産ノ買戻權行使ノ結果買主乙ヨリ賣主甲ニ所有權ノ移轉アリタルモ未タ其登記ヲ爲ササル間ニ於テ乙更ニ同一不動産ヲ丙ニ賣却シ其賣買ニ因ル所有權移轉ノ登記ヲ爲シタルトキハ乙ハ乙甲間ノ所有權移轉ヲ以テ第三者タル丙ニ對抗スルコトヲ得ス從テ又乙ハ丙ニ對シ他人甲ノ所有ニ屬スル不動産ヲ賣却シタルモノナリト主張シテ民法第五百六十二條ニ依リ賣買ヲ解除スルコト能ハサルモノトス

○未タ差押又ハ配當加入ヲ爲シタルニ非スシテ單ニ債權者タルニ過キサ
ル者ハ民法第七十七條ニ所謂第三者ニ非ス

○甲所有ノ不動産ニ對スル乙名義ノ所有權移轉登記カ不法ノ原因ニ基キ

三 一〇九

四三 三二四

三 二六六

三 二七六

三 一七一

四 二七五

四 二二六

○無効ナル結果家督相續人丙カ甲ノ隱居相續ニ因リ其所有權ヲ取得シタル場合ト雖モ甲ニ登記名義ノ復舊シタル後迄モ丙ニ於テ之カ登記ヲ爲ササル以上ハ其所有權取得ヲ以テ其後更ニ相續前ノ所有者ニシテ登記名義人タル甲ヨリ適法ニ所有權ヲ取得シ且登記ヲ經タル乙ニ對抗スルコトヲ得サルモノトス

○隱居者カ留保セサル不動産ト雖モ相續人カ之ニ對シ相續登記ヲ爲ササルニ先チ隱居者カ之ヲ他人ニ贈與シ他人カ其所有權取得ノ登記ヲ爲シタルトキハ其他人ハ民法第七十七條ニ所謂第三者ニ該當スルモノトス

○甲乙兩者カ共ニ丙隱居者ノ遺產相續人ナルモ家督相續開始後遺產相續開始前甲カ丙ヨリ贈與セラレタル不動産ニ對シ乙カ家督相續ニ因リテ取得シタルモノナルコトヲ甲ニ對抗スルコトヲ得ルヤ否ヤノ事案ニ付テハ甲ハ丙ノ遺產相續人タルノ故ヲ以テ民法第七十七條ニ所謂第三者ニ非スト謂フヲ得サルモノトス

○不動産ノ所有者ヨリ管理ノ爲メニ登記簿上所有名義ヲ移轉セラレタル者及ヒ其相續人ハ民法第七十七條ニ所謂第三者ニ該當セス

○甲所有ノ建物ヲ乙ニ賣渡シタルモ乙未タ其登記ヲ爲ササル場合ニ於テ甲自ラ該建物ノ保存登記ヲ爲シ更ニ丙ニ對シ抵當權ヲ設定シ丙其登記ヲ爲シタルトキハ丙ハ甲乙間ノ賣買ニ對シテハ民法第七十七條ニ所謂第三者ニ該當スルモノトス

○前項ノ場合ニ於テハ乙ハ丙ノ抵當權ノ登記有效ナルノ結果其基本タル所有權保存登記ノ抹消ヲ請求スルノ權ナキモノトス

○地上權ノ設定契約ニ於テ地代ニ關スル定アルニ拘ハラズ之カ登記ヲ爲サザリシ場合ト雖モ地上權者ハ第三者ニ非サルカ故ニ土地所有權ヲ讓受ケタル者ハ其定アルコトヲ以テ之ニ對抗シ得ヘキモノトス

○原告甲ヨリ被告乙ニ對スル建家賃貸料請求事件ニ付キ裁判所カ甲ニ於テ係爭家屋ノ所有權者タル訴外丙ヨリ之ヲ買受ケ其所有權ヲ取得シタル事實ヲ確定スル以上ハ乙カ賃借權ヲ有シ其他登記欠缺ヲ主張スル正當ノ利益ヲ有スル第三者ニ該當スルコトヲ判斷スルニ非サレハ單ニ原告ノ右所有權取得ニ付キ移轉登記ノ存在セサル事實ヲ確定スルノミニ依リ其請求ヲ排斥シ得ヘキモノニ非ス

○相續開始前ノ所有者ニシテ登記名義人タル被相續人ハ第三者ニ對シ有效ニ不動産ヲ處分シ得ヘキ地位ニ在ルヲ以テ被相續人ト第三者トノ賣買カ假裝ニ非サル以上ハ縱令其賣買カ相續人トノ關係ニ於テ權利侵害

四 一五四一
四 一八〇六
四 一八〇六
四 一八〇六
四 一八〇六

四 一九七七
四 一九七七
五 二八九
五 二八九
五 二八四三

行為ト爲ルト雖モ相續人ハ所有權侵害ヲ以テ其第三者ニ對抗スルコトヲ得サルモノトス

○民法第七十七條ハ第三者ニ抗辯權ヲ與フル旨趣ニ非ス苟モ登記ナシトノ事實アル以上第三者ニ對シ權利ノ得喪變更ヲ主張スルヲ得サル旨趣ナリトス

○民法第七十七條ハ不動産ニ關スル物權ノ得喪變更アリタル場合ニ其登記ノ欠缺ヲ主張スルコトヲ得ヘキ正當ノ利益ヲ有スル第三者ヲ保護スル規定ナレハ苟モ不動産ニ關スル物權ノ得喪變更ニシテ實體上存セサル以上ハ縱令其登記ヲ爲スモ之ニ依リ其得喪變更ヲ生スルモノニ非ス

(同主旨)

民法第七十七條ハ登記ニ因リ不動産ニ關スル物權ノ得喪變更ヲ生スト爲シタルモノニ非サルヲ以テ苟モ不動産ニ關スル物權ノ得喪變更ニシテ實體上存セサル以上ハ縱令其登記アリトモ之方爲メ其得喪變更ヲ生シ得ヘキモノニ非ス

(聯)

○民法第七十七條ノ規定ハ不動産ニ關スル物權ノ得喪及ヒ變史カ當事者ノ意思表示ニ因リテ生シタル場合ノミナラス家督相續ノ如キ法律ノ規定ニ因リテ生シタル場合ニモ亦適用セラルヘキモノトス

(同主旨)

隱居相續開始シタル場合ニ於テ被相續人ト相續人トノ間ニ在リテハ相續財產タル不動産ハ相續ニ因リ相續人ニ移轉スヘキモ未タ其旨ノ登記ナキ以上ハ右ノ移轉ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得サル結果第三者ハ隱居者ヲ以テ依然該不動産ノ所有權者ト看做スコトヲ得ルモノナレハ隱居者ヨリ真正ニ之ヲ買受ケ且所要ノ登記ヲ經タル第三者ハ其所有權ノ移轉ヲ受クルモノトス

隱居ニ因ル家督相續ノ場合ニ於テモ登記法ノ定ムル所ニ依リ相續登記ヲ爲スニ非サレハ民法第七十七條ニ依リ相續不動産ノ所有權取得ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得サルモノトス

(反對)

民法第七十七條ハ不動産ニ關スル物權カ當事者ノ意思ニ因リテ發生移轉スル場合ヲ規定シタルモノトス從テ相續ニ因リ不動産上ノ物權ヲ取得シタル場合ハ同條ノ適用ヲ受クルコトナシ

民法第七十七條ノ規定ハ不動産上ノ物權ノ移轉カ當事者ノ意思表示ニ因ル場合ノ如ク取得者ニ於テ之ヲ了知セル時ニ適用スヘキモノトス從テ相續ニ因リ不動産ヲ取得シタル者ハ其登記ヲ爲ササルモ第三者ニ對抗スルコトヲ得

民法第七十七條ノ規定ハ不動産ニ關スル物權カ當事者ノ意思表示ニ因リテ移轉セラルル場合ニノミ適用スヘキモノトス從テ相續ニ因リ不動産所有權ノ移轉スル場合ハ同條ノ適用ヲ受クルコトナシ

○民法第七十七條ハ未登記ノ不動産ヲ取得シタル場合ヲ除外スルモノニ非ス

五	五	五	六	六	六	六	六
二三四	二五〇四	七五八	二五八	二七三六	九一	一〇五八	八八七

(同主旨)

未登記ノ不動産ヲ取得シタル者ハ其取得ノ登記ヲ爲スニ非サレハ第三者ニ對抗シ得サルモノトス
未登記ノ建物ヲ買得シタル者ハ其移轉ニ關スル登記ヲ爲スニ非サレハ之ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス
建物ト否トチ問ハス未登記不動産ニ付キ所有權ヲ取得シタル買主ハ既登記不動産ノ買主ト同シク賣買ニ因ル所有權取得ノ登記ヲ爲スニ非サレハ其取得ヲ以テ第三者ニ對抗シ得サルモノトス

○民法第七十七條ハ不動産ニ關スル物權ノ得喪又ハ變更アルモ其登記ヲ爲スニ非サレハ之ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得サル旨ノ規定ニシテ登記ヲ爲ササル限り得喪又ハ變更ナシトスルモノニ非ス
○建物ヲ所有スル爲メ地所ヲ賃借セル者カ其建物ヲ他人ニ賣買シタルモ其登記ヲ爲ササルトキハ其賣買ニ因ル所有權移轉ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得サルハ勿論ナリト雖モ賣買ノ成立ナキモノト謂フヲ得ス
○入會權ハ不動産ニ關スル物權ナリト雖モ其權利ノ性質上登記ナクシテ當然第三者ニ對抗スルコトヲ得ルモノトス

(同主旨)

民法ニ於テ既ニ入會權ヲ物權ト認メタル以上ハ其權利ノ性質上登記ナキモ當然第三者ニ對抗スルヲ得ヘキモノトス

○時効ニ因ル不動産所有權ノ取得ハ原始取得ナルヲ以テ法律行爲ニ於ケル意義ノ當事者ナルモノナシト雖モ不動産ノ占有者カ時効ニ因リ其所有權ヲ取得スルハ時効完成ノ時期ニ在リテ一方ニ於テ占有者カ所有權ヲ取得スルノ結果他方ニ於テ目的タル不動産ノ所有者タリシ者ノ所有權消滅スルモノナレハ時効完成當時ノ所有者ハ取得者ニ對スル關係ニ於テハ恰モ傳來取得ニ於ケル當事者タル地位ニ在ルモノトス

○時効ニ因ル不動産所有權ノ取得ニ付キ之ヲ以テ第三者ニ對抗スルニハ登記ヲ必要ナルモノトスルモ時効完成ノ時期ニ於ケル所有者タリシ者ニ對シテハ完全ニ所有權ヲ取得スルモノニシテ敢テ登記ヲ必要トセサルモノトス

○民法第七十七條ニ登記法ノ定ムル所ニ從ヒ其登記ヲ爲ストアルハ登記簿ニ記載スルコトヲ指稱スルモノニシテ登記官吏カ登記申請ヲ受理シ且登記濟證ヲ下付スルコトヲ謂フモノニ非ス

○不動産ノ賣買ニ付キ其登記ヲ爲ストキハ買主ハ其所有權取得ヲ第三者ニ對抗スルコトヲ得ヘク其引渡ヲ受クル以前ニ在テモ之ヲ處分スルコトヲ得ルモノナレハ賣買ノ目的物タル土地ノ境界カ判然セサル等ノ如キ特別ノ事情又ハ特約ノ存セサル限ハ賣買ノ登記ヲ爲スト同時ニ買主

三六	六四七
四三	一
五	七四
六	二六四
六	二六四
六	二六四
六	二〇一八

七	四三
七	四三
七	六九〇

ハ代金ノ支拂ヲ爲スヘキモノニシテ賣主カ目的物ヲ引渡ササルコトヲ理由トシテ之ヲ拒ムコトヲ得サルモノトス

○物ノ公用ニ供セラレルコトハ所有權ノ官ニ屬スルト否トニ拘ハラサルヲ以テ係爭地カ道路敷ニシテ公用物タルコトハ係爭地取得者ノ爲メ所有權ヲ對抗シ得ヘキ事由ト爲ラス從テ該取得者ハ登記ヲ爲スニ非サルハ所有權ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得サルモノトス

(參照)

登記法施行前ニ於テ戸長カ抵當ノ公證ヲ爲スハ第三者ニ抵當ヲ公示スル方法ナルヲ以テ公證簿中ニ抵當ト爲シタル地所反別及ヒ貸借人ノ姓名等ヲ記載セサルトキハ縱令當事者間ニ於テ抵當權ノ設定適法有效ナルモ第三者ニ對シテ優先權ナシ

乙者カ某地ヲ借受ケタルコト甲者カ某地ノ登記ヲ經テ抵當權ヲ取得シタル後ニ係ルトキハ乙者ハ其既ニ抵當地タルコトヲ知テ之ヲ借受ケタルモノト認定セサルヘカラス然ルニ甲者ヨリ登記ヲ經テ抵當權ヲ取得シタル事實ヲ證明シタルニモ拘ハラズ原院カ乙者ニ於テ某地借受契約ヲ爲スノ際丙者ト甲者トノ間ニ地所抵當ノ契約アル事實ヲ知りタル證據ナシト判斷シタルハ探證ノ法則ヲ適用セサル違法ノ裁判タルヲ免レス何トナレハ登記ハ公示ノ方法ナルヲ以テ物權ナル借地權ヲ設定スルモノハ該抵當ノ登記ヲ認知シタルモノト看做ササルヘカラスナリ

優先權ヲ有スル體裁ノ證書カ債權者ノ手裡ニ存在シ債務者モ亦其債務ヲ認ムルモ公示ノ法式ニ必要ナル公證簿ニ其公證カ存在セサルニ於テハ公式ニ缺ケル所アルヲ以テ善意ノ第三者ニ對シ其效チ有セス

七	七	二四	二六
一六〇	一三〇	一	二
二六〇	一五三	二	四五
二四一	一五三		

(刑)

對シ其效チ有セス

賣渡證書ヲ受領シ居タルモ當時地券名義ノ書換ヲ爲サス戸長ノ與印並ニ戸長役場ノ割印番號具備スルモ之ニ照應スヘキ割印番號帳存在セサルニ於テハ第三者ニ對シ優先權ヲ主張スルヲ得ス

登記ハ實體上ノ權利關係ヲ確保スルモノニ非ス第三者ニ對シ或事實ヲ公示スルノ方法ニ過キサルモ既ニ登記シタル事實ハ當事者一方ノ陳述ノミニ依據シ之ヲ無視スルコトヲ得ス

公證簿ノ登錄ハ公示方法ニ外ナラスシテ所有權移轉ニ要スル法式ニ非ス故ニ公證簿ノ登錄ヲ受ケサルモ地所ノ所有權ハ讓與ノ契約ニ依リ讓受人ニ移轉ス

地所ノ抵當權ハ其當事者間ニ如何ナル特種ノ契約アルモ又ハ契約ノ前後ニ區別アルモ登記簿ニ登記ヲ爲ササルハ其取得ノ權利ハ第三者ニ對シ效力ナシ

登記ハ第三者ニ對スル公示方法ニシテ當事者間ニ於ケル所有權移轉ノ方法ニ非ス

登記ハ第三者ヲシテ土地ニ關スル狀況ヲ知悉セシムル爲メノ公示方法ニシテ所有權移轉ニ要スル方式ニ非ス(同一判例三一年七卷一頁)

適法ニ登記ヲ受ケ公示セラレタル權利ハ爾後更ニ適法ナル消滅原因ノ生スルニ非サレハ之ヲ喪失スヘキ理ナク隨テ其所謂既得權ハ正當ノ理由ナクシテ他人ノ爲メニ左右セラレヘキ理ナシ

一日適法ニ登記ヲ受ケタル抵當權者ハ縱令其登記カ他人ノ犯罪行爲ニ因リテ取消サルルモ自己ニ過失ノ責ナキニ依リ爾後善意ヲ以テ同物件上ニ權利ヲ取得セル者カ登記ヲ受ケ又均シク過失ノ責ナキ場合ニ於テモ自己ノ既得權ヲ失却スルコトナシ

登記ハ不動産ニ關スル狀態ヲ第三者ニ知悉セシムル爲メノ公示方法ニシテ實體上ノ權利關係

二七	二七	二九	二九	三〇	三二	三二	三三
一三〇	一五三	八	六	五	三	四	三
一五三	一五三	八	六	五	三	四	三
一五三	一五三	八	六	五	三	四	三
一五三	一五三	八	六	五	三	四	三
一五三	一五三	八	六	五	三	四	三

ヲ確保スルモノニ非ス故ニ縱令不動産上適法ノ登記アルモ反對ノ證據ニ依リ其效力ヲ滅却セシムルヲ得ヘキモノトス

府縣ノ告示ニ依リ或期限内ニ公證判印簿籍雜ニ付キ更正セシムルヲ以テ關係ノ者ハ申出ツヘク期限經過ノ上ハ一切關係ナキモノトシ他ハ公證セシムヘキ旨ヲ達セラレタルトキ之カ申出ヲ爲ササリシ者ハ其期限ノ經過後登記ヲ受ケタル善意ノ第三者ニ對シ公證ノ效力ヲ主張スルヲ得サルモノトス

形式上戸長ノ公證アルモ無効ノ抵當ニ對スルモノハ實體上公證タル效力ナシ

舊公證ノ旨趣タル公簿上其地所又ハ建物カ賣主又ハ抵當置主ニ屬スル等ニ付キ事實相違ナキコトヲ保證スルニ止マリテ契約當事者ノ身分迄ヲ證明スルモノニ非ス

〔第七十八條〕

○民法第七十七條及ヒ第七十八條ニ規定スル所ハ獨リ同一物件ニ關シテ設定シタル數人ノ權利牴觸スル場合ノミニ限ラス所有權利ノ輾轉シタル場合ニ於テハ最初ノ所有者ト轉得者トノ間ノ關係ニ付テモ亦同シク適用セララルルモノトス

○民法第七十八條ハ第三者カ自ラ權利ヲ有シ讓渡ノ目的物タル動産ニ付キ利害ノ關係アル場合ニ限り適用スヘキモノニシテ單ニ物ノ寄託ヲ受ケ寄託者ノ爲メニ之ヲ保管スル者ノ如キハ返還ノ時期ヲ定メタルト否トヲ問ハス請求次第何時ニテモ之ヲ返還スル義務ヲ負擔シ其寄託物

三	六	二四
三	一八	四九
三	二一	四五
三	九	二八
三	四	五

ニ付キ何等ノ利害關係ヲ有セサルヲ以テ同法條ニ所謂第三者ト稱スヘキモノニ非ス

○民法第七十八條ニ所謂第三者トハ動産ニ對シ所有權其他ノ物權ヲ有スルモノノミナラス動産ノ所有者タル債務者ニ對スル一般ノ債權者ヲモ包含スルノ法意ナリ

○民法第七十八條ハ動産ニ關スル物權ノ讓渡ヲ以テ第三者ニ對抗スル要件ヲ規定シタルモノニシテ所謂第三者トハ讓渡ノ當事者及ヒ其一般承繼人以外ノ者ヲ指稱ス

〔同法條〕

民法第七十八條ニ所謂第三者トハ廣ク物權ノ讓渡人讓受人及ヒ其一般承繼人以外ノ者ヲ包括シ獨リ讓渡ノ目的物ニ付キ直接ニ權利ヲ取得セル者ノミヲ指稱スルニ非ス故ニ讓渡人ノ債權者ノ如キモ亦右規定ノ第三者ニ該當ス

○動産ニ關スル物權ノ讓渡ヲ以テ對抗セントスル者ニ對シ第三者ヨリ對抗スル要件ニ付テハ民法中別ニ定ムル所ナキヲ以テ其第三者ハ必スシテ物權ノ取得ヲ主張スル者ニ對抗シ得ヘキ權利ヲ有スルコトヲ要セス

○民法第七十八條ニ所謂引渡ハ必スシモ現實ニ物ノ授受アル場合ニノミ限ルモノニ非スシテ占有ノ改定ニ因リ物ノ現實ノ授受アリタルト同

三	四	七三	三三
三	三	七三	三三
三	三	七三	三三
三	三	七三	三三
三	三	七三	三三

視スヘキ場合ヲモ包含スルモノトス

○賃借權者ナリト主張シ動產ヲ占有スル者ハ反證ナキ限り賃借權者ナリトノ推定ヲ受クヘキヲ以テ其動產ノ所有權ヲ讓受ケタル者ニ對シ引渡ナキコトヲ理由トシテ所有權ノ取得ヲ否認スルニ付キ正當ノ利益ヲ有スルモノニシテ民法第百七十八條ニ所謂第三者ニ該當スルモノトス

(同主旨)

動產ニ關スル物權讓渡ノ當事者以外ニ其動產ノ所有者又ハ賃借人ナリト主張シテ之ヲ所持スル者ハ其所持スル動產ノ占有者トシテ民法第百七十八條ニ所謂第三者ニ該當ス

○正當ノ權原ナキ占有者ハ其占有物ノ所有權ヲ取得シタル者ニ對シ引渡ノ欠缺ヲ主張スル正當ノ利益ヲ有スルモノニ非サレハ民法第百七十八條ノ所謂第三者ニ該當セサルモノトス

(同主旨)

正當ノ權原ナキ占有者ハ其占有物ノ所有權ヲ取得シタル者ニ對シ引渡若クハ登記ノ欠缺ヲ主張スル正當ノ利益ヲ有スルモノニ非サレハ民法第百七十七條及ヒ第百七十八條ノ所謂第三者ニ該當セス

○如上ノ場合ニ於テ果實ノ買主カ其所有權ヲ第三者ニ對抗スルニハ果實ノ定著スル地盤若クハ草木ノ引渡ヲ受ケ又ハ賣主ノ承諾ヲ得テ何時ニテモ其果實ヲ收去シ得ヘキ事實上ノ狀態ヲ作為スルト同時ニ外部ヨリ

其狀態ヲ明認シ得ヘキ手段方法ヲ講スヘキモノトス (第八十九條五年一四四〇頁參照)

(參照)

記名ノ株券ハ普通ノ動產ト同視スヘカラス其名義書換等ノ手續ヲ爲ササルトキハ他人ニ對シ所有移轉ノ效力ヲ有セス

有體動產ノ賣買ハ不動產ノ如ク公示ノ手續ナキヲ以テ物件ノ授受アルニ非サレハ縱令賣買者相互間其合意成立スルモ未タ以テ第三者ニ對抗シテ有效ニ所有權ヲ移轉ナ主張スルヲ得ス故ニ有體動產ノ賣買ニ付テハ一旦其引渡ヲ遂ケタルヤ否ヲ確定スルハ至重ナル要點ナリトス然ルニ單ニ其當事者ノ合意ニ依リ直ニ買得者ニ所有權ヲ移轉スト判示シ其要點ニ付キ何等ノ判斷ヲ與ヘサルハ違法ノ判決ナリ

第二章 占有權

○各法律ニ於テ使用シタル占有ナル語ハ必スシモ民法ニ所謂占有ト同一ノ意義ヲ有スルモノニ非ス

(參照)

占有ハ事實ナルヲ以テ實際其物件ヲ占有シタルモノニ關スルトキノ外其法理ヲ適用スルヲ得ス

第一節 占有權ノ取得

○占有權ハ相續開始當時被相續人カ占有ヲ有スルトキハ相續ニ因リ相續

民法 物權 占有權ノ取得

五	二五	二六	三	二六
一四〇	三	二	七九五	二七六
	四			
	二二			

四	四	四	四	四
一五三	五九〇	六二	七六二	一三三

人ニ移轉スルヲ原則トス而シテ其移轉ニハ必スシモ相續人ニ於テ物ノ所持ヲ爲スコトヲ要セス

〔第八十一條〕

○他人ノ物ヲ代理シテ占有スルニ當リ特ニ外形上他人ノ物タルコトヲ表示セサレハトテ其占有ノ效力ナシト云フヲ得ス唯代理占有タルコトノ實質アルヲ以テ足レリトス

四

二二八

○一物ノ所持カ自己占有タルト同時ニ代理占有タルコトハ法理ノ容レサル所ニ非ス從テ運送人カ運送品ヲ所持スルハ一面自己ノ爲メニシ他面ニ於テハ荷送人ノ爲メニスルモノト判示スルモ不當ナリト謂フヲ得ス
○如上ノ場合ニ債務者カ讓渡ノ目的物ヲ占有スルハ一面内部關係ニ於テ自己ノ爲メニ占有スルト同時ニ他面ニ於テハ將來債務不履行ノ場合ニ於テ債權者ニ交付スルカ爲メ債權者ヲ代理シテ占有スルモノトス(第二編第九章質權第一節總則五年一五〇七頁參照)

四

二四五

〔第八十二條〕

○小作人トシテ土地ヲ占有セル者カ土地所有權者ヨリ該土地ヲ買受ケタルトキハ民法第八十二條第二項ニ依リ當事者間ノ意思表示ノミニ因リテ土地ノ引渡アリタリト認ムヘキモノトス

四

八一九

〔第八十三條〕

○占有ノ改定トハ甲權利ニ基キ物ヲ占有スル改定者カ其權利ヲ本人ニ讓渡スルト同時ニ其讓渡シタル權利ニ傳來スル乙權利ヲ本人ヨリ取得シ其權利ノ爲メニスル直接占有者ト爲リ本人ハ同一物ニ付キ返還請求權ニ基キテ甲權利ノ爲メニスル間接占有權ヲ取得スル場合ヲ指スモノトス

四

一五三

○民法第八十三條ハ所謂代理人(改定者)カ如上甲權利ノ爲メニスル讓受人ノ占有ニ付キ單純ノ所持人ト爲ル場合ヲ包含セザルモノトス

四

一五三

〔第八十四條〕

○民法第八十四條ニ所謂第三者ノ承諾トハ本人カ其代理人ニ對シ第三者ノ爲メ占有物ヲ占有スヘキ旨ヲ命シ第三者之ヲ承諾スルコトヲ謂フモノニシテ本人カ其代理人ニ對シ占有物ヲ第三者ニ返還スヘキ旨ヲ命シ第三者之ヲ承諾スルコトヲ云フモノニ非ス

三

二三四

〔第八十五條〕

○株式會社ノ取締役カ其業務上占有スル物件ヲ自己ノ債務ノ爲メニ入質シタル場合ト雖モ此事實ハ未タ其占有ノ性質ヲ變セシムルニ足ラサルヲ以テ會社ハ該取締役ニ依リ依然間接占有ヲ保持スルモノトス

四

三五〇

(第八十
六條)

『第八十六條』

○民法第八十六條第一項ハ推定的規定ナレハ反證アル場合ニハ適用ナ
キモノトス

四

二五七

(第八十
七條)

『第八十七條』

○占有ノ特定承繼人ハ其選擇ニ從ヒ自己固有ノ占有ノミヲ主張シ又ハ前
主ノ占有ヲ併セ主張スルコトヲ得ヘシト雖モ一般承繼人ハ更ニ新權原
ニ因リ自己固有ノ占有ヲ始メタルニ非サレハ前主ノ占有ノ性質及ヒ瑕
疵ヲ承繼スヘキモノトス

六

三三二

○係爭山林ニ付キ先代ノ占有ヲ家督相續ニ因リ承繼シタル者カ民法第百
六十二條第二項ノ時効ニ因リ其所有權ヲ得タリト主張スルニハ先代カ
占有ヲ始ムルニ當リ過失ナカリシコトヲ立證スルヲ要シ自己カ占有ヲ
承繼スルニ方リ無過失ナリシコトヲ以テ其占有ニ瑕疵ナシト論スルヲ
得ス

六

三三二

○民法第八十七條ニ所謂選擇ハ自己ノ占有ノミノ主張又ハ自己ノ占有
ニ前主ノ占有ヲ併セ主張スルコトニ付キ選擇權アリトノ意ニ外ナラサ
レハ其前主數人アル場合ニ於テ特定ノ前主以下ノ前主ノ占有ヲ併セ主
張スルコトヲ得ヘク而シテ一度總前主ノ占有ヲ併セ主張シタルコトア

ル場合ト雖モ之ヲ變更スルヲ得ルハ勿論全然自己ノ占有ノミヲ主張ス
ルヲ妨ケサルモノトス

六

一七二

○相續其他包括名義ノ遺贈等ニ因リ占有權ヲ承繼セル一般承繼人ハ前主
ノ占有權ヲ承繼スルノミナレハ更ニ新權原ニ因リ自己固有ノ占有權ヲ
取得セサル限リ常ニ前主ノ瑕疵ヲ承繼スヘク從テ前主ノ占有カ一般承
繼原因ニ基因スルトキハ前主ノ占有モ亦更ニ其前主ノ瑕疵ヲ承繼スル
モノトス

四

一〇五

第二節 占有權ノ效力

(參照)

他人ノ不正手段ニ因リテ我所有物ヲ奪取セラレタルモノカ其所有權ノ回復ヲ求ムルニ當リ多
少ノ日月ヲ空過シタルコトアレハトテ別ニ權利拋棄等ノ明證ナキ限ハ之カ爲メ其權利ニ影響
ヲ生スルノ道理アルヘカラス

二七

二九八

契約證書ノ占有者ハ單ニ其占有ノ事實ノミヲ以テ契約ノ當事者若クハ其代理者タルコトヲ證
スルニ足ラス

二九

五五

正權原ニ瑕疵アル不動産ノ占有者ハ真正ノ所有者ニ於テ其所有權ニ關スル公示方法ヲ怠リタ
ルトキト雖モ其取戻ノ訴求ヲ拒ムコトヲ得ス

二九

一〇七

(第八十
八條)

『第八十八條』

○民法第八十八條ハ占有者カ占有物ノ上ニ行使スル權利ヲ否認シ之ヲ

○争フ者アル場合ニ於テ現ニ物件ヲ占有スル者ヲ保護センカ爲メ權利ノ推定ヲ下シ其舉證責任ヲ免レシムルニ止マリ此規定ニ依リテ占有者ハ占有物ノ上ニ行使スル權利ヲ取得シタルモノト推定シ其權利ノ登記ヲ爲スコトヲ得セシムルノ法意ニ非ス

〔第九十條〕

○善意ノ占有者ハ其占有物ヨリ生スル果實ヲ取得スヘシトノ法理ハ民法施行前ト雖モ適用スヘキモノナリ

○民法第九十條第二項ハ事實ノ如何ニ拘ハラズ善意ノ占有者カ惡意ノ占有者ト爲ルヘキ時期ヲ定メタル一ノ擬制ナルカ故ニ法文ヲ須テ存スヘキ規定ナレハ民法施行前ニ在リテハ適用スルヲ得ス

○民法施行前ニ在リテハ本權ノ訴ニ於テ敗訴シタル占有者ハ訴ヲ受ケタル日ヨリ惡意ノ占有者ト看做スヘキ旨ノ法則ナク又受訴ノ當時ニ於テ果實ノ返還ヲ豫期セシモノト看做スヘキ旨ノ法則ナカリシカ故ニ惡意ノ占有者タルヤ否ハ一ニ事實ニ就テ之ヲ決セサルヘカラス

〔第九十一條〕

○民法第六百二條ノ規定ニ違背セル契約ニ依リ抵當地所ヲ賃借スルモ其賃借權ハ無効ニシテ抵當權者ニ對抗スルコトヲ得ス故ニ其抵當權ノ實

三九

九

一七二

三四

九

五一

三四

九

五一

三五

四

二七

〔第九十條〕

行トシテ抵當地所ヲ競賣ニ付スルトキハ競落人ハ完全ナル所有權ヲ取得スルモノニシテ賃借人ハ其競落ノ通知ヲ受クルト同時ニ惡意ノ占有者ト爲ルモノトス

三六

四一

〔刑〕

○民法第九十條第一項後段ノ規定ハ惡意ノ占有者カ眞ノ權利者ヲシテ適當ノ時期ニ果實ヲ收取スルコトヲ得サラシメ之ニ損害ヲ加ヘタル過失アルヲ以テ其賠償ヲ爲サシムルノ旨趣ニ外ナラスシテ惡意ノ占有者ニ果實收取ノ權利アルコトヲ認メタルモノニ非ス

三九

九九六

〔聯〕

○民法第九十條同第九十一條所定ノ場合ニ付キ同條ノ規定ヲ適用シテ占有者ノ賠償責任ヲ定ムルコトヲ要スルハ勿論ナリト雖モ之カ爲メ其他ノ場合ニ付キ民法第七百九條ノ一般規定ヲ適用シテ占有者ノ賠償責任ヲ定ムルハ毫モ妨ケサルモノトス

三七

九七六

〔同主旨〕

占有者カ暴行強迫等ニ因リ所有者ノ意思ニ反シテ占有ヲ取得シタル場合ニハ其占有者ハ占有ノ規定ニ從ヒ義務ヲ負フノ外不法行爲ノ規定ニ從ヒ損害賠償ノ責ニ任スヘキモノトス

四〇

五八五

〔反對〕

民法カ惡意ノ占有者ニ付キ特別ノ規定ヲ設ケタルハ惡意ノ占有者ハ占有物ノ保存及ヒ果實ノ取得ニ付キ注意ヲ爲スヘキ義務アリト爲スニ職由スルモノナレハ單ニ占有者カ惡意ナルノ一事ヲ以テ直ニ不法行爲ノ規定ヲ之ニ適用スルコトヲ得サルモノトス

四一

五八五

〔第九十二條〕

○民法施行以後ニ在テ動産ヲ占有スル者カ民法第九十二條ノ條件ヲ具備シ其動産ノ上ニ行使スル權利ヲ取得シタルトキハ爾後縱令贓物タルヲ知ルモ既ニ取得シタル權利ニ何等ノ消長ヲ及ホサス

三

三

三

○民法施行以前ニ在テ動産ヲ占有スル者ニシテ縱令占有ノ始メ善意ナルモ爾後贓物タルコトヲ知リタルトキハ善意ヲ缺如スルモノトス從テ民法第九十二條ノ條件ヲ具備セサルモノニシテ民法施行法第三十九條ヲ適用スルノ限ニ在ラス

三

三

三

○贓物ノ占有カ民法施行前ニ在リテ其施行前即チ權利ヲ取得スヘキ時期以前ニ在リテ私訴ヲ提起シタルトキハ爲メニ其占有ハ平穩ナル條件ヲ

三

三

三

害セラレ民法第九十二條ノ條件ヲ具備セス從テ民法施行法第三十九條ノ規定ニ該當セサルモノトス

三

四

一

○甲カ乙ヨリ騙取シタル約束手形ヲ丙カ受取リタル場合ニ於テ騙取ノ情ヲ知ラス平穩且公然ニ又過失ノ責ムヘキモノナキトキハ占有ト同時ニ

三

四

一

所有權ヲ取得ス

三

六

三

○民法第九十二條ハ占有物カ占有ノ當初ヨリ動産タリシ場合ノ規定ナリトス從テ其占有物ニシテ當初不動産タリシ場合ニ適用スヘキモノニ

三

六

三

非ス

三五

九

五四

○民法第九十二條及ヒ第九十四條ハ書面上ノ記載其他何等ノ手續ヲ要セス甲者ノ手ヨリ乙者ノ手ニ引渡スノミニ因リ容易ニ且迅速ニ占有ノ移轉シ得ヘキ有體物即チ動産ノ取引ニ付キ當事者ニ安全ヲ與ヘ以テ之ヲ保護スルノ精神ニ出テタル規定ナリトス

三六

一三五

二

○記名株券ハ其實質上價值ナキ一箇ノ紙片ニシテ動産即チ財産ヲ成スモノニ非ス又假ニ之ヲ動産ト看做スヘキモノトスルモ取引ニ因リ記名株式ヲ取得スルニハ當事者ノ一方ヨリ他ノ一方ニ之ヲ表記スル株券ヲ手渡スルノミヲ以テ足ルニ非スシテ商法第五十條ノ手續ヲ要スルカ故ニ民法第九十二條及ヒ第九十四條ノ適用ヲ受クヘキモノニ非ス

三六

一三五

二

○動産ノ占有者カ善意ニシテ過失ナク平穩且公然ニ其占有ヲ始メタル以上ハ即時ニ該動産ノ上ニ行使スル權利ヲ取得スルモノトス而シテ其動産ノ取得カ繼受取得ナルヤ否ヤハ問フ所ニ非ス

四〇

一二四

七

○民法第九十二條ニ依リ動産ノ上ニ行使スル權利ヲ取得セシコトヲ主張スル占有者ハ自己ノ占有ニ過失ナキコトヲ立證セサルヘカラス

四二

八七七

七

○質權者カ質權ノ實行ニ因リテ質物ノ換價代金ヲ受取リタルモノニ非ストスルモ其辨濟受領ノ當時平穩公然善意無過失ニテ之ヲ占有シタルモ

ノトセハ之ヲ交付シタル債務者ニ於テ該金錢ハ自己ノ所有ニ非ストノ理由ヲ以テ之カ返還ヲ請求スルコトヲ得ス

○記名式所持人拂ノ債權ハ特種ノ證券的權利ニ屬シ純然タル無記名債權ニ非サルカ故ニ之ヲ動産ト看做スコトヲ得ス從テ民法第百九十二條ノ規定ハ之ニ適用スルコトヲ得サルモノトス

○民法第百九十二條ハ現ニ動産タルモノヲ占有シ又ハ權原上動産タルヘキ性質ヲ有スルモノヲ其權原ニ基キテ占有シタル場合ニ付キ適用スヘキ規定ニシテ本來不動産ノ一部ヲ組成スルモノヲ事實上ノ行爲ニ因リ動産ト爲シテ占有シタル場合ニ適用スヘキ規定ニ非ス

○甲ノ動産保管人乙カ甲ノ承諾ヲ得テ丙ニ之ヲ使用セシメ居リタル場合ニ於テ丙カ自己ノ所有物トシテ之ヲ丁ニ賣渡シ現實ノ引渡ヲ爲サスシテ直ニ丁ヨリ賃借シタルトキハ丙丁兩者間ニ如上ノ意思表示アリタル外一般ノ外觀上從來ノ占有事實ノ狀態ニ何等ノ變更ナキヲ以テ丁ハ民法第百九十二條ニ所謂占有ヲ始メタルモノト云フヲ得ス

○商法第百八十二條所定ノ證券カ無記名式ナルトキト雖モ當然同第四百四十一條ノ規定ヲ適用スヘク動産ノ占有ニ關スル民法第百九十二條第百九十三條ヲ適用スヘキモノニ非ス

元	元	四	五	六
七二	七九	七三〇	九六一	三九二

○民法第百九十二條ハ動産ノ占有ニ限りタル規定ニシテ同第二百五條ニ依リ他ノ財産權ノ行使ヲ爲ス場合ニ之ヲ準用スヘキモノニ非ス

○無記名債權ハ民法第八十六條第三項ニ依リ動産ト看做サルカ故ニ即時時効ノ適用アレハトテ其他ノ債權ニモ等シク之ヲ準用スヘキモノト論スルヲ得ス

○民法第百九十二條ハ動産ニ付キ權利ヲ有セサル者ヨリ占有ヲ取得シタル者ヲ保護スルノ主旨ニ出テタルモノナレハ同條ニ所謂過失ナキトキハ主トシテ占有取得ノ相手方ニ權利ナキ事實ヲ知ラサルニ付キ過失ナキ場合ヲ指稱スルモノト解スルヲ相當トス

○占有取得ノ相手方カ真正ノ權利者ニ非サル場合ニ於テ占有取得者カ當初相當ノ注意ヲ加フレハ相手方ノ無權利者ナルコトヲ知り得ヘカリシトキハ其占有取得者ニ過失アルモノト謂ハサルヘカラス

(第百九十
三條)

『第百九十三條』

○民法第百九十三條ハ前條ニ對スル制限的例外ノ規定ナルヲ以テ其適用ヲ嚴ニシ類推シテ規定外ニ及ホスヘキモノニ非ス

○民法第百九十三條ハ眞ノ權利者ノ權利ヲ保護スル爲メ物カ權利者ノ意思ナク他ニ移轉シタルトキニ限り取戻ヲ請求スルコトヲ得セシメタル

七	七	七	七	三四
六八一	六八一	二二六	二二六	七一

モノナレハ監守盜ノ如キ其性質委託物費消罪ヲ成スモノハ同條ノ盜ナル意義ニ包含セサル所トス

○民法第九十三條ノ盜品又ハ遺失物中ニハ當然通貨ヲ包含ス

○金錢ノ如キ通貨ニシテ盜品タリシ場合ニ於テハ常ニ他ノ動產ト均シク被害者ニ其回復請求ノ權利アルコトハ民法實施前ニ於テ認メラレタル判例ナリトス

○民法第九十三條ハ盜品若クハ遺失物ニ於ケルカ如ク權利者ノ意思ニ反シテ占有ノ喪失アリタル場合ニノミ適用セラレヘキモノトス從テ取締役カ其職務上保管セル財物ヲ不正ニ處分シタル場合ニハ之ヲ適用スルコトヲ得ス

○民法第九十三條ノ回復請求權ハ占有物上ニ所有權其他ノ實體權ヲ有スル者ニ限り之ヲ行使スルコトヲ得從テ他人ノ物ノ受寄者ハ此權利ヲ行使シ得サルモノトス

○動產質權者ハ如上ノ回復請求權ヲ行使スルコトヲ得ス

○民法第九十三條ニ所謂盜品ハ狹義ニ用キラレタル語辭ニシテ單ニ強竊盜ノ贓物ノミヲ指稱シ委託物費消ノ犯罪ニ關スル物件ノ如キハ之ニ包含セス

三四	七
三五	九
三五	九
三六	三六
四〇	八六
四〇	八六
四二	八七

刑

（参照）

冒認販賣ハ詐欺取財ノ一種ニシテ盜ト其性質ヲ同ウセス從テ民法第九十三條ニ所謂盜品ニハ冒認販賣セラレタル物件ヲ包含スルコトナシ

第九十四條

『第九十四條』

○民法第九十二條及ヒ第九十四條ハ書面上ノ記載其他何等ノ手續ヲ要セス甲者ノ手ヨリ乙者ノ手ニ引渡スノミニ因リ容易ニ且迅速ニ占有ノ移轉シ得ヘキ有體物即チ動產ノ取引ニ付キ當事者ニ安全ヲ與ヘ以テ之ヲ保護スルノ精神ニ出テタル規定ナリトス

○記名株券ハ其實質上價值ナキ一箇ノ紙片ニシテ動產即チ財產ヲ成スモノニ非ス又假ニ之ヲ動產ト看做スヘキモノトスルモ取引ニ因リ記名株式ヲ取得スルニハ當事者ノ一方ヨリ他ノ一方ニ之ヲ表記スル株券ヲ手渡スルノミヲ以テ足ルニ非スシテ商法第五十條ノ手續ヲ要スルカ故ニ民法第九十二條及ヒ第九十四條ノ適用ヲ受クヘキモノニ非ス

○白紙委任狀附ノ記名株券ハ民法第八十六條第三項ニ依リ動產ト看做スヘキモノニ非サレハ該株券ニ關シテハ同法第九十四條ノ規定ヲ適用スヘキ限ニ在ラス

第九十六條

『第九十六條』

民法 物權 占有權 占有權ノ效力

三七	九四八
三六	一三五
三六	一三五
三五	九五三

○選擇債務ノ場合ニ於テハ常ニ別異ノ目的ヲ有スル數箇ノ債務存在スルモノナルニ民法第九十六條第二項ニ依リ回復者ノ選擇スヘキモノハ増價額ナルカ將タ又改良ノ爲メ費シタル金額ナルカニ在リテ其孰レニ出ツルモ償還ノ時期其他附隨事項ノ異ナルモノアルニ非ス單ニ金額ノ差アルニ過キササルヲ以テ之ヲ選擇債務ト云フヲ得ス

○回復者ノ選擇權ハ回復者ノ利益ヲ慮リ特ニ回復者ニ與ヘタルモノナレハ回復者ニ於テ之ヲ拋棄スルハ自由ナリト雖モ債權者ヨリ催告ヲ受ケ其行使ヲ爲ササルノ故ヲ以テ直ニ其權利カ債權者ニ移轉スヘキモノニ非ス

〔第九十八條〕

○賃借人カ賃借物ノ引渡ヲ受ケ現實賃借人ノ爲メニ之ヲ占有スルトキハ不法行爲ニ因リテ其占有ヲ妨害スル第三者ニ對シ占有訴權ヲ行使スルコトヲ得

○占有保持ノ訴ハ客觀的ニ占有妨害ノ事實アル場合ニ妨害者ニ對シ之ヲ提起スルヲ得ヘキモノニシテ妨害カ妨害者ノ責ニ歸スヘキ事由ニ出テタルト否トハ之ヲ問ハス故ニ特別ノ明文ナキ限り故意又ハ過失ニ因リテ占有ヲ侵害セラレタルコトヲ要件トスル占有ニ對スル不法行爲ニ基

三六

五九五

三五

二

九三

三五

二

九三

〔第二百條〕

○占有物タル米穀カ換價處分ニ因リテ金員ト爲リタル場合ト雖モ占有回復ノ訴ニ基キ之ヲ占有者ニ歸屬セシムルニハ恰モ米穀トシテ存在シタル時ノ如ク其引渡ヲ命スルヲ當然トス

○占有侵奪ニ因ル損害賠償ヲ求ムルニハ被害者カ現ニ占有セル物ヲ侵奪セラレタル事實アルヲ以テ足り必スシモ其占有カ正權原ニ基クモノナルコトヲ必要トセス

○占有ヲ侵奪セラレタル者ハ侵奪セラレサリセハ繼續シテ占有物ヲ利用シ得ヘキモノナルコトヲ通例トスルカ故ニ其侵奪者ハ之ヲ返還スル迄ノ繼續的ノ損害ヲ賠償スヘキモノトス

ク損害賠償ノ請求トハ其原因ヲ異ニスルモノトス

○占有保持ノ訴ニ於テ妨害ノ停止トハ妨害者ノ費用ヲ以テ妨害ヲ排除シ以テ原狀ニ回復セシムルコトヲ云ヒ其損害ノ賠償トハ原狀ニ回復セラ

ル迄ノ間占有ニ支障ヲ來シタルニ因リ生スル損害ノ賠償ヲ云フモノトス

〔第二百一條〕

○等シク侵奪セラレタル占有ノ回復ヲ請求スル訴訟ニ在リテモ其請求原

五

一五五

五

一五五

四三

九六七

四

一四一

四

一四一

〔第二百二條〕

○因カ單ニ占有ニ基因スルヤ將タ實體上ノ權利ニ基クヤニ依リ二種ノ訴
ノ存スルモノナレハ本權訴權ノ行使ニ因リ占有ノ回復ヲ求メタルヲ占
有訴權ノ行使ニ因ル占有回收ノ訴ナリトシテ判斷ヲ與ヘタル判決ハ違
法タルヲ免レス

第四節 準占有

〔第二百五條〕

○自己ノ所有地ナリト信シ自己ノ賃貸權ヲ行使スルノ意思ヲ以テ小作米
ヲ收得シタルモノハ即チ自己ノ爲メニスル意思ヲ以テ財產權ヲ行使セ
ルニ外ナラサルヲ以テ所謂準占有ナリトス

(刑)

○記名株券ヲ質權ノ目的トスル者ハ質權ノ準占有ヲ爲スモノナルヲ以テ
其質權ノ有無ハ民法施行前ニ始マリタルモノト雖モ民法施行ノ日ヨリ
民法ヲ適用ス

○債權ノ準占有ハ自己ノ爲メニスル意思ヲ以テ其權利ヲ行使スルコトヲ
要件ト爲スモ必スシモ其權利ノ存立ヲ證明スヘキ債權證書ヲ所持スル
コトヲ要セス

○民法第九十二條ハ動産ノ占有ニ限リタル規定ニシテ同第二百五條ニ
依リ他ノ財產權ノ行使ヲ爲ス場合ニ之ヲ準用スヘキモノニ非ス

○無記名債權ハ民法第八十六條第三項ニ依リ動産ト看做サルカ故ニ即
時時効ノ適用アレハトテ其他ノ債權ニモ等シク之ヲ準用スヘキモノト
論スルヲ得ス

○電話加入權ハ電話官廳ニ對シテ有スル電話ノ利用ヲ目的トスル一種ノ
債權ナルヲ以テ民法第九十二條ノ準用ナキモノト判示シタル判決ハ
相當ナリトス

第三章 所有權

○記名公債證書若クハ不動産ノ如キハ其記名者若クハ公簿ノ所有名義者
ヲ以テ所有者ト推定スルハ普通ノ法理ナルモ此推定ハ被相續人若クハ
相續人ノ債權者又ハ該財產ニ付キ物權ヲ取得シタル者ニ對シ之ヲ爲サ
ルルニ過キスシテ前戸主所有ノ財產ハ相續開始ノ際其相續人ノ相續ス
ヘキモノナルヤ否ヤヲ爭フ當事者間ニ在リテハ之ヲ適用スヘキモノニ
非ス

○地上權者カ其登記ヲ怠リタルカ爲メ土地ノ所有者ヲシテ之ヲ保護スル
責務ヲ負ハシムヘキモノニ非ス

○現時或物件ノ所有名義者タルモノハ反證ナキ以上ハ既往ニ於テモ亦其

四	六五八
三	六
三	六九
三	一
三	六
七	八九
七	六八

七	六二
七	六二
三	二
三	四五
三	四

○所有者タリシモノト推定スヘキモノトス

○舊幕府時代ニ於テ個人ト雖モ土地ニ對シ總轄的支配ヲ爲シ當時ノ法律ニ於テ之ヲ保護シ來リ其總轄的支配力後日完全ナル土地所有權ニ推移シタルモノニシテ同一土地ニ對シ設定シタル永小作權トハ全然別箇ノ觀念ヲ有シタルモノトス

○立木ノ賣買アルトキハ買主ハ所有權ヲ取得スルト同時ニ土地ニ付キ地上權又ハ賃借權等ヲ取得シテ其所有權ヲ保持スルコトヲ得ヘク然ラサレハ賣主ニ對シ之ヲ收去スル義務ヲ負擔スルニ至ルヘキモノナレハ立木ト雖モ獨立シテ所有權ノ目的タルコト能ハサルモノト云フヲ得ス

○家屋稅ハ家屋ノ所有者ニ於テ負擔スヘキモノナレハ家屋ノ所有權ニ付キ甲乙兩者間ニ爭アリテ甲者カ常ニ家屋稅ノ支拂ヲ爲シ來リタル事實アルトキハ該所有權ノ所在ニ付キ甲者ノ利益ニ於テ一ノ有力ナル推定ヲ生スルモノトス從テ若シ乙者ヲ以テ所有者トシ所有者ニ非サル甲者ニ於テ現實ニ其租稅ヲ負擔シタルモノト爲スニハ裁判所ハ甲乙兩者間ニ契約其他特別ナル法律關係ノ存在セル事實ニ付キ當事者ノ申立ニ基キ之ヲ確定セサルヘカラス

○債務者ノ所有地ニ生育スル耕作物ハ一應同人ノ所有ニ屬スルモノト推

定スヘキモノナレハ假ニ第三者ノ所有ニ屬スルモノトスルモ債權者ニ於テ之ニ對シ假差押ヲ爲シタルノ一事ヲ以テ直ニ債權者ニ過失アルモノト論斷スルコトヲ得サルモノトス

○硃石ニ付テハ鑛業法ノ適用ナキヲ以テ土地ト分離セサル硃石ハ獨立シテ物權ノ目的ト爲ルコトヲ得サルモノニシテ常ニ土地ノ一部トシテ其土地所有者ノ所有ニ屬シ第三者ハ獨立シテ其上ニ所有權ヲ取得スルコト能ハサルモノトス

○不動産ニ附加シテ之ト一體ヲ成シタル物ハ獨立シテ所有權ノ目的タルヲ得スシテ主タル不動産ノ一部ヲ成スモノナレハ其不動産ヲ目的トスル權利ハ其全體ニ及フヘキモノトス

(參照)

所有主ノ名義アルニ於テハ縱令父子ノ關係アルモ別ニ反證ヲ擧ケサル以上ハ名義人ノ所有物ト認メサルヲ得ス

第一節 所有權ノ限界

○河川兩岸ニ相對スル村民ニ於テ互ニ堤防ヲ築キ若クハ其修繕ヲ爲ス場合ニ於ケル制限ニ付テハ古來一般ニ定マリタル慣習ナシ故ニ之カ利益ヲ主張スル者ニ於テ其舉證ヲ爲ササルヘカラス

三八

七〇一

四

一五六

五

一六五

五

二四八〇

七

二二五

七

五二三

七

一四四一

二六

一

一一八

三

六

一〇八

- 溪水ノ使用ハ物權上ノ使用權ト同視スヘキモノニ非スシテ他人ノ權利ヲ害セサル程度ニ於テノミ之ヲ使用スルコトヲ得ルモノトス
- 雨水ニ付テハ河水ニ關スルカ如キ慣習ナク又法律ノ規定ナシ
- 官有ノ堀ニ歳久シク排水ヲ爲シタルカ爲メ排水者カ其堀ニ對シ所有權ノ一部ナル使用權ヲ取得ストノ事ハ慣習法ニ於テ之ヲ認メサリシノミナラス民法上ニ於テモ亦之ヲ認メタル規定ナシ
- 河川ノ沿岸所有者ハ他人ノ權利ヲ害セサル範圍内ニ於テ田地ニ灌漑シ水車ニ利用スル等各其水流ヲ使用スル一種ノ權利ヲ有スルコトハ慣習上之ヲ認メ來リタル所ニシテ此權利ヲ侵害セラレタル者ハ加害者ニ對シ損害ノ賠償又ハ妨害ノ排除ニ因リテ其救濟ヲ求メ得ルモノトス
- 溪谷ノ流水使用權ニ付テハ殊ニ井手ヲ設ケテ田用水若クハ飲用水等ニ用キタル場合ハ勿論公共物タル溪流其モノト雖モ一旦或者ニ於テ該流水ヲ專用スル慣習發生シタルトキハ其者ニ權利ヲ生シ他人ノ之ヲ侵スルコトヲ容ササルハ古來我邦一般ニ認メラレタル原則ナリ
- 公流ノ水源地又ハ川筋ニ掘下若クハ修繕工事ヲ爲シ其費用ヲ負擔スルモ之カ爲メニ其流水ヲ專用スルノ權利アリトスルカ如キ法則若クハ慣習アルコトナシ

四二

四二

三

三七

三三

三二

三三二

六

一三六

三五

八九

九〇

(刑)

- 土地所有者ハ其權利ノ安全ヲ確保スルニ必要ナル限ハ土地所有權ノ效力トシテ隣地所有者ニ對シ適當ナル其助ヲ請求スルコトヲ得ルヲ當然ノ法則ナリトス
- 多年河川ノ流水ヲ田地ニ灌漑シ水車ニ利用スル等ノ慣行アルトキハ其使用者ニ流水使用ノ權利ヲ生スルコトハ古來我邦ノ慣習上認メ來リタル所ナリトス
- 土地所有者カ流水ヲ自己ノ土地ニ引用シタル場合ニハ上流ノ土地所有者ハ流水ノ使用ニ關シ下流ノ土地所有者ノ利益ヲ保護スル爲メ種種ノ制限ヲ受クルコトアルモノトス
- 反對ノ利害關係ヲ有スル者ト協議ノ上ニ非サレハ行使シ得サル權利ト雖モ其反對ノ利害關係ヲ有スル者ノ承諾カ絶對ニ其自由ナル意見ニ依リテ定マル場合ハ格別取引ノ通念ニ從ヒ適當ト認ムヘキ判斷ニ依リ其諾否ヲ決スヘク若シ不當ニ其承諾ヲ拒ミ又ハ遲延シタルトキハ裁判上其承諾ヲ請求シ得ルカ如キ場合ニ於テハ權利ノ發生ヲ妨クヘキモノニ非ス
- 海面ハ行政上ノ處分ヲ以テ一定ノ區域ヲ限リ私人ニ其使用又ハ埋立開墾等ノ權利ヲ得セシムルコトアルモ海面ノ儘之ヲ私人ノ所有ト爲シ得

四

四

四五

四

一八九七

八八六

五六七

八八六

サルモノトス

○所有權ニ基ク所有物ノ返還請求權ハ其所有權ノ一作用ニシテ之ヨリ生
スル獨立ノ權利ニ非サレハ所有權自體ト同シク消滅時効ニ因リテ消滅
スルコトナシ

○上流ノ水流使用者ハ地勢上下流ノ使用者ニ對シテ優越ノ權利ヲ有スル
ヲ原則トスルモ其水流利用ノ範圍ハ特別ノ慣習又ハ契約ノ存セサル限
ハ各自ノ必要ヲ充タス程度ニ止マリ絶對ノ優越權ヲ有セサルモノトス
○隨テ田地灌溉ノ爲メ水流ヲ利用スル者ト雖モ他ニ田地灌溉又ハ水車運
轉ノ爲メノ利用者アルトキハ其權利ヲ害シ田地灌溉ノ必要以外ニ水流
ヲ處分シ他人ヲシテ他ノ用途ニ新ニ之ヲ利用セシムル權能ヲ有セサル
モノトス

○他人ノ所有地ヨリ湧出スル流水ヲ永年自己ノ田地ニ灌溉スルノ慣行ア
ルトキハ之ニ因リテ其田地所有者ニ流水使用權ヲ生シ水源地ノ所有者
ト雖モ之ヲ侵スコトヲ得サルモノトス

○所有權ニ基ク物ノ返還請求權ハ所有權ノ一作用トシテ其内容ヲ成ス權
利ニシテ所有權ト雖レテ存在スルモノニ非サレハ所有權ニ對スル侵害
ノ所在ニ追隨シテ存在スヘキモノトス從テ當初他人ノ所有權ヲ侵シテ

物ノ占有ヲ爲シタル者ト雖モ既ニ其物ノ占有ヲ他人ニ移轉シタル場合
ニ於テハ其者ニ對シ右請求權ヲ行使スルニ由ナキモノトス

○用水カ自然ノ流水ニ非スシテ専ラ或者カ飲料家事及ヒ灌溉等ノ爲メニ
引ケルモノナルトキハ他人ハ時効若クハ其者ノ承諾ニ依ラサル以上縱
令多年之ヲ使用スルモ其使用權ヲ取得スルモノニ非ス

○土地ノ所有者カ其地上ニ在ル自己所有ノ建物ニ點燈ノ爲メ電燈會社カ
其地上ニ架設シタル係争電柱ヨリ電線ヲ引用セシメタルトキハ電燈會
社ヲシテ電線ヲ架設セシムル爲メ該電柱ヲ存置シ之ヲ使用スルコトヲ
承諾シタルモノト謂ハサルヘカラス從テ反證ナキ限り土地ノ所有者ハ
右電燈會社ニ對シテ係争電柱ヲ所有スル爲メ其所有地ノ使用ヲ承諾シ
タルモノト推測スヘキモノトス

(參照)

漁業場ハ海面ノ一部タルヲ以テ何人ニ於テモ私有シ得ヘキモノニ非スト雖モ漁業權ハ所轄官
廳ノ許可ニ依リ之ヲ取得スルコトヲ得

公共ノ水路ハ他人ノ既得權ヲ妨害セサル限ハ何人ト雖モ之ヲ使用シ得ヘシ
河川ノ流水ニ付キ專用ノ權利ヲ有スル者ハ其流水使用上ニ付テハ川床モ亦之ヲ使用スルノ權
アリ

水路ニ堤防ヲ築キ流水ヲ支フル如キ工事ヲ爲ストキハ對岸者ハ當然其去除ヲ請求スルコトヲ
得

二七四

二一六

二三四

二〇二

六

五六〇

六

五六三

六

五六八

二元

三五

四

二元

五

二

○ニ占據スル者ニ對シテ其明渡ヲ請求シ得ルモノトス
 ○土地ヨリ湧出シタル水カ其土地ニ浸潤シテ未タ溝渠其他ノ水流ニ流出セサル間ハ其土地所有者ハ特約法規若クハ慣習等ニ依ル他人ノ權利ノ存在セサル限り自由ニ之ヲ使用シ其餘水ヲ他人ニ與ヘサルコトヲ得ルモノトス

○所有權ヲ侵害セラレタル者ハ不法行爲ノ規定ニ從ヒ損害ノ賠償ヲ請求シ得ヘキコト勿論ナルモ其侵害セラレタル所有權尙ホ存スルトキハ之ニ基キ物ノ取戻妨害ノ排除其他一般ニ所有權侵害ノ除却ヲモ請求シ得ヘキモノトス

○敷地ニ附著シ土地ノ一部トシテ存シタル下水溝ハ縱令埋立ニ因リ形跡ヲ失ヒタリトスルモ其敷地ノ存スル以上ハ土地所有權消滅セサルヲ以テ之ニ基キ下水溝ノ原狀回復ヲ請求シ得ヘキモノトス

○特定人ノ所有不動産ニ付キ第三者カ保存及ヒ移轉登記ヲ爲シタルトキハ其不動産所有者ノ爲メ所有權行使ノ妨害ト爲ルモノナレハ所有者ハ之カ登記ノ抹消ヲ求ムルニ付キ法律上ノ利益ヲ有スルモノトス

○私人ノ所有ニ屬スル公用物ニ付テハ官有地取扱規則第十一條ノ如キ規定ナケレハ公用ヲ妨ケサル範圍内ニ於テハ之カ處分ヲ爲スコトヲ得ヘ

ク從テ之ニ對シ抵當權又ハ所有權ヲ取得スルコトアルモノトス

(參照)

地下ニ浸潤セル水ノ使用權ハ其土地所有權ニ附從シテ存在スルヲ以テ土地所有者ハ其所有權ノ行使上自由ニ其水ヲ使用スルヲ得ヘシ

民有ノ森林ニシテ風除森林等ノ名稱ニ依リ伐採ニ制限ヲ付シ來リタル慣習アルモノモ亦等シク法律上所有權ノ制限ヲ受ケタルモノナルヲ以テ其所有者ハ之ヲ遵守セサルヘカラス
 森林ノ所有者ニシテ其所有權ノ制限ヲ超ヘ他人ノ財產權上ニ危害ヲ及ホスノ恐アル行爲ヲ爲シタルトキハ他人ハ之ニ對シテ排除ノ訴ヲ起シ之ヲ廢罷セシムルノ權利ヲ有ス

『第二百七條』

(參照)

地所ノ地表ト地盤トヲ區別シテ各所有者ヲ異ニスルハ法律ノ認許セサル所ナリ

『第二百八條』

○民法第二百八條ニ依リ數人ニテ一棟ノ建物ニ付キ區分所有權ヲ有スルコトヲ得ルハ一棟ノ建物中區分セラレタル部分ノミニテ獨立ノ建物ト同一ナル經濟上ノ效用ヲ全フスルコトヲ得ル場合ニ限ルモノニシテ其部分カ他ノ部分ト併合スルニ非サレハ建物タル效用ナキトキハ一棟ノ建物トシテ所有權ノ目的タルヘク各部分ニ付キ區分所有權ヲ認ムヘキモノニ非ス

七	二九	三二	三二	二九	七
二三四二	一〇	三	三	三	
	二七	六三	六三	一一	
					二三四二
					二三四三

三	四	四	四	七	三
二二七					
	八六	一九六五	一九六五	二四一	
					二四一

○賃借人カ賃借建物ノ一部ヲ所有者ノ承諾ヲ得テ改築シタル場合ニ於テ賃借人ノ材料ヲ使用シ其費用ヲ以テ築造シタルトキト雖モ改築ノ部分ハ權原ニ因リテ附屬セシメタルモノニ非スシテ建物ノ構成部分トシテ他ノ部分ト不可分ノ一體ヲ成シ各獨立シテハ建物タル效用ナキヲ以テ民法第二百四十二條ニ依リ建物ノ全部所有者ノ所有ニ屬スルモノトス

『第二百四十九條』

○民法施行以前ニ在テモ河川ノ下流ニ於テ流水ヲ田地養水等トシテ使用スル者アルトキハ上流ノ土地所有者ハ漫ニ其所有地ノ下口ニ於ケル水路ヲ變更シ下流使用者ノ權利ヲ妨害スルコトヲ得ス

(同主旨)

溪水下流沿岸所有者ニシテ既ニ其溪水ヲ以テ田畑養水ト爲シ居ル以上ハ上流沿岸所有者ハ其下流所有者ノ使用權ヲ害セサル範圍ニ於テ溪水ヲ使用スヘキハ本邦古來ノ慣行ナリ

第二節 所有權ノ取得

(參照)

用水ノ先取者ハ旱魃等ノ爲メ用水欠乏シ他ノ田地ヲ養フニ足ラサル場合ニ獨占ノ權利ヲ有スルモ用水ノ分量他ノ田地ニ澆灌スルモ自己ニ害ナキトキハ之カ權利ヲ有セス

(第二百三十九條)

○雨水ノ如キハ無主物ニシテ何人モ自由ニ之ヲ使用シ得ヘキヲ常トスレ

五	三	三九	五
二六	二	一	二三三
五		三九	
			五〇七

(第二百四十二條)

○ハ縦シヤ慣習上之ヲ專用スヘキ一種ノ權利ヲ有スル者アリトスルモ其必要ナル限度以外ニ出テ他人ノ行爲ヲ妨クヘキ理由ナシ

○既ニ探掘シタル鑛物ハ通常動産トシテ鑛業權者ノ所有ニ歸シ鑛業權者カ其所有權ヲ拋棄シタルトキハ鑛業法其他ノ法令ニ別段ノ規定ナキ限り民法ノ規定ニ從ヒ遺棄物トシテ先占ノ物體タルモノトス

○鑛業權者カ遺棄シタル鑛滓ハ未探掘ト同視スヘキ狀態ニ在ラサル限り國ノ所有ニ屬スルコトナク且之ニ關スル所有權ノ歸屬ニ付テ別段ノ規定ナケレハ無主ノ動産トシテ先占ノ物體タルヲ得ルモノトス

『第二百四十二條』

○賃借人カ賃借建物ノ一部ヲ所有者ノ承諾ヲ得テ改築シタル場合ニ於テ賃借人ノ材料ヲ使用シ其費用ヲ以テ築造シタルトキト雖モ改築ノ部分ハ權原ニ因リテ附屬セシメタルモノニ非スシテ建物ノ構成部分トシテ他ノ部分ト不可分ノ一體ヲ成シ各獨立シテハ建物タル效用ナキヲ以テ民法第二百四十二條ニ依リ建物ノ全部所有者ノ所有ニ屬スルモノトス

○抵當權ハ抵當不動産ノ從トシテ之ニ附合シタル物アル場合ニ於テ其物カ不動産ノ一部ト爲リ獨立ノ存在ヲ有セサルトキハ勿論獨立ノ存在ヲ有スル場合ニ於テモ民法第二百四十二條本文ノ規定ニ依リ不動産所有

五	四	四	三五
			三
			六七
			二九九
			二九九
			二三三

者カ其物ノ所有權ヲ取得シタルトキハ同第三百七十條ニ依リ其物ニ及
フヘシト雖モ附合物カ他人ノ權原ニ因リテ附合セラレ獨立ノ存在ヲ有
スルモノナルトキハ他人ニ於テ之カ所有權ヲ有スルカ故ニ其物ヲ以テ
抵當權ノ及フヘキ範圍ニ屬スルモノト爲スコトヲ得ス

〔第二百四十五條〕

○數人ヨリ騙取シタル金錢ノ一部カ被告ノ手ニ存在セシ爲メ贓物トシテ
差押ヘラレタルトキハ被害者ハ民法第二百四十五條ノ規定ニ從ヒ騙取
セラレタル金額ノ割合ヲ以テ之ヲ共有スルモノトス

〔第二百四十六條〕

○民法第二百四十六條ハ加工者カ他人ノ依頼ヲ受ケ其者ヨリ預リタル材
料ニ對シ單ニ工作ヲ加フルカ如キ場合ニハ之ヲ適用スヘキモノニ非ス

第三節 共有

○土地ノ共有者カ甲者ニ對シテ其土地ノ一部ヲ分割移轉シ且登記手續ヲ
爲スヘキ契約上ノ債務ヲ有スル場合ニ於テ或共有者カ該部分ノ共有權
ヲ乙者ニ賣却シタルトキハ更ニ乙者ヨリ之ヲ買戻シ其共有權ヲ得テ他
ノ共有者ト俱ニ契約上ノ債務ヲ履行スルノ責アルモノトス
○土地ノ共有ニ付キ爭アル以上ハ賣買ニ因ル持分ノ移轉ハ登記ナクシテ

六

六九五

三六

二二三

六

六三七

四二

六九一

〔第二百四十九條〕

○數人共同ノ出資ヲ以テ土地ヲ購入シタル場合ニ於テハ反證ナキ限り該
土地ノ購入カ寄附ノ目的ニ出テタルトキト雖モ其寄附ヲ受クヘキ人格
者アルカ又ハ寄附行爲ニ因リテ法人ノ設立セラレル場合ノ外ハ其土地
ハ出資者ノ共有ニ屬スルモノト認ムヘキモノトス

○共有權ハ共有者各自ノ權利ナレハ各自獨立シテ之ヲ主張スルコトヲ得
ルノミナラス他ノ共有者ノ何人ニ對シテモ各別ニ主張スルコトヲ得ル
モノトス從テ各共有者ハ獨立シテ他ノ共有者ニ對シ共有權ノ確認及ヒ
登記請求ノ訴ヲ提起シ得ルハ勿論他ノ共有者全員ヲ相手方トスルコト
ナク自己ノ共有權ヲ爭フ共有者ノミヲ相手方ト爲スヲ以テ足ルモノト
ス

○數人ノ共有物ヲ協議上其一人ノ所有名義ト爲シタル場合ニ於テ全員ノ
承諾アルトキノ外所有名義ノ變更ヲ求メサルコトノ特約ナキ以上ハ各

五

二五二

六

三三二

六

七九

共有者ハ他ノ共有者ノ意思如何ニ拘ハラズ現在ノ名義者ニ對シ一人專有ノ名義ヲ解キ之ヲ共有名義ニ變更シ其中ニ自己ノ共有名義ヲ表示セシムルヲ求ムルノ權利ヲ有ス

○共有地カ土地收用法ニ依リ收用セラレ共有者中ノ數人ニ於テ其補償金ヲ受領シタル場合ニハ特別ノ契約存セサレハ他ノ共有者ハ各其持分ニ應ジテ補償金ノ分配ヲ請求スルノ權利ヲ有ス而シテ共有者カ此權利ヲ行使スルニハ必スシモ其全員共同シテ之ヲ爲スノ要ナシ

(參照)

數十名ノ共有財産アリテ其權利ノ幾部分カ共有者各自ニ屬スルヤ二三ノ者ニ於テ之ヲ詳知セサル場合ニ在テハ其二三ノ者ハ共有者一同ノ委任ヲ受クルニ非サレハ全部ノ權利ヲ行フコトヲ得ス

共有者ノ一人カ其買受ケタル共有物ノ代價ヲ支拂ハサルモ他ノ共有者ハ隨意ニ其共有物ヲ處分スルノ權利ナシ

第二百五十一條

○共有者中ノ或者カ共有物ヲ恣ニ他ノ物ニ變更シタル場合ニ於テ同意者ハ尙ホ他ノ物ニ對シ共有關係ヲ持續シ得ルカ故ニ曩ニ變更ニ付キ同意ヲ表セザリシ者ト雖モ爾後更ニ他ノ物ニ對シ共有關係ヲ認ムル以上ハ其物ノ上ニ共有權ヲ有スルモノトス

三七	二九	二五	三六	三七
	五	四		五八三
二七四	三	三五	一四九	

第二百五十二條

○共有者カ各自單獨ニ如上ノ訴訟ヲ提起スルトキハ時トシテ其所有權ヲ否定シタル敗訴ノ判決ヲ受ケ事實上他ノ共有者ニ不利益ヲ及ボスコトアルヘキカ故ニ其訴訟ノ提起ヲ以テ保存行爲ト云フヲ得ス(民事訴訟法第四十八條五年一二〇〇頁參照)

○訴ヲ提起スル目的ノ那邊ニ在ルヲ問ハス一旦判決確定スル以上ハ既判力ヲ生シ客觀的ニハ存在シ若クハ存在セサル權利關係モ或ハ存在セス或ハ存在スルニ至ルト同一結果ヲ呈スルカ故ニ訴ノ提起ハ處分行爲ナリト云ハサルヘカラス

○共有地ノ不法占有ニ因ル妨害ヲ排除シ之カ明渡ヲ請求スル訴ハ各共有者單獨ニテ之ヲ爲スコトヲ得ルモノトス

第二百五十三條

○民法第二百五十三條第二項ハ共有者カ其前項ノ義務ヲ履行セサルトキハ他ノ共有者ハ其者ノ持分ノ全部ニ相當スル償金ヲ拂ヒテ持分ノ全部ヲ取得スルコトヲ得ルノ法意ナリトス從テ持分ノ一部ニ相當スル償金ヲ拂ヒテ持分ノ一部ヲ取得スルカ如キハ同條ノ許ササル所ナリ

(參照)

四三	七	六	五	
	七三	二七三	一一〇	
				一五六

既ニ共有者タル以上ハ縱令特約ナキモ以前ヨリ其共有物ニ附着スル所ノ義務ハ現共有者ノ負擔ニ歸スヘキモノトス
利益ヲ享有スル共有者カ共有物ノ建築費ヲ辨濟シタル戸長等ニ對シ辨償ノ義務アルヤ否ヤヲ判定スルニ際シ戸長ノ權限若クハ町村組織ノ法律ヲ適用セサルモ違法ニ非ス

(第二百五十五條)

『第二百五十五條』

○民法第二百五十五條ニ所謂相續人ナクシテ死亡シタルトキトハ共有者カ死亡シ其相續人ナキコト確定シタルトキト解スヘキモノトス

(第二百五十六條)

『第二百五十六條、第二百五十八條』

○或共有者カ共有物ノ分割ヲ請求シタル場合ニ於テ他ノ共有者ヨリ其分割スヘカラサルコトヲ爭フトキハ訴訟ヲ提起シテ其爭ニ付キ判斷ヲ受ケテテ請求ノ目的ヲ達スルヲ當然トス

○土地ノ共有者數人アリテ其一部ハ任意ニ分割ノ手續ヲ爲スコトヲ承諾シ他ノ一部ノミ之ヲ肯セサル場合ニハ分割ノ請求者ハ先ツ後者ノミヲ被告トシ勝訴ノ判決ヲ受ケ然ル後前者ヲシテ後者ト共ニ分割ノ手續ヲ爲サシムルコトヲ得

○共有物ノ分割ヲ爲ス場合ニ於テハ各共有者ハ其當事者トシテ孰レモ直接利害ノ關係ヲ有スルモノナレハ共有者中ノ或者ヲ除外シテ分割手續

ヲ遂行スルカ如キハ協議上ノ分割ニ於ケルト裁判上ノ分割ニ於ケルトヲ問ハス之ヲ許スヘキモノニ非ス

○民法第二百五十八條ニ依ル訴ハ共有物分割ノ實施方法ニ付キ共有者間ノ權利關係ヲ定ムル創設的判決ヲ求ムルモノナレハ其判決前ニ於テハ共有物ハ未タ分割セラレサルヲ以テ共有者間ニ於テ分割物ノ給付ヲ請求スルノ權利未タ發生セサルモノトス

(第二百六十三條)

『第二百六十三條』

○我國ニ於ケル秣山等ノ入會權ハ住民トシテ其土地ニ住居スルニ附隨シテ有スル所ノ一種ノ權利ニシテ其住居ノ去就ニ依リ權利ノ得喪ヲ生スルヲ常トスレトモ尙ホ住民等個人カ其地上ニ對スル權利トシテ入會權ヲ有スルコトアルハ我國ノ習慣トシテ認ムル所ナリ

○入會權ニ付キ制限アリヤ將タ制限ナキヤヲ相爭フ爭訟ニ於テハ制限アリト主張スル者ニ於テ地方ノ慣行若クハ當事者間ノ規約等ヲ舉ケテ以テ立證スルノ責任アルモノトス

○舊時ノ慣習ニ依レハ山林原野等其附近村驛ノ各住民ニ屬スル入會權ニ關シ契約ノ如キ法律行為ヲ爲スニ當リテハ其村驛ノ庄屋若クハ用掛ニ於テ各住民ヲ代表シ又ハ村驛ノ名ヲ以テ結約シタルモノトス

四二	三	三三	三四	三六
九三二	一四七	一六	一	七九

(第二百五十八條)

『第二百五十八條』

○或共有者カ共有物ノ分割ヲ請求シタル場合ニ於テ他ノ共有者ヨリ其分割スヘカラサルコトヲ爭フトキハ訴訟ヲ提起シテ其爭ニ付キ判斷ヲ受ケテテ請求ノ目的ヲ達スルヲ當然トス

○土地ノ共有者數人アリテ其一部ハ任意ニ分割ノ手續ヲ爲スコトヲ承諾シ他ノ一部ノミ之ヲ肯セサル場合ニハ分割ノ請求者ハ先ツ後者ノミヲ被告トシ勝訴ノ判決ヲ受ケ然ル後前者ヲシテ後者ト共ニ分割ノ手續ヲ爲サシムルコトヲ得

○共有物ノ分割ヲ爲ス場合ニ於テハ各共有者ハ其當事者トシテ孰レモ直接利害ノ關係ヲ有スルモノナレハ共有者中ノ或者ヲ除外シテ分割手續

ヲ遂行スルカ如キハ協議上ノ分割ニ於ケルト裁判上ノ分割ニ於ケルトヲ問ハス之ヲ許スヘキモノニ非ス

○民法第二百五十八條ニ依ル訴ハ共有物分割ノ實施方法ニ付キ共有者間ノ權利關係ヲ定ムル創設的判決ヲ求ムルモノナレハ其判決前ニ於テハ共有物ハ未タ分割セラレサルヲ以テ共有者間ニ於テ分割物ノ給付ヲ請求スルノ權利未タ發生セサルモノトス

(第二百六十三條)

『第二百六十三條』

○我國ニ於ケル秣山等ノ入會權ハ住民トシテ其土地ニ住居スルニ附隨シテ有スル所ノ一種ノ權利ニシテ其住居ノ去就ニ依リ權利ノ得喪ヲ生スルヲ常トスレトモ尙ホ住民等個人カ其地上ニ對スル權利トシテ入會權ヲ有スルコトアルハ我國ノ習慣トシテ認ムル所ナリ

○入會權ニ付キ制限アリヤ將タ制限ナキヤヲ相爭フ爭訟ニ於テハ制限アリト主張スル者ニ於テ地方ノ慣行若クハ當事者間ノ規約等ヲ舉ケテ以テ立證スルノ責任アルモノトス

○舊時ノ慣習ニ依レハ山林原野等其附近村驛ノ各住民ニ屬スル入會權ニ關シ契約ノ如キ法律行為ヲ爲スニ當リテハ其村驛ノ庄屋若クハ用掛ニ於テ各住民ヲ代表シ又ハ村驛ノ名ヲ以テ結約シタルモノトス

四二	三	三三	三四	三六
九三二	一四七	一六	一	七九

○民法實施前ニ在リテハ多數ノ者相共同シ林野ニ於テ收益ヲ爲ストキハ其地盤及ヒ毛上共ニ共同收益者ノ共有ニ屬スル場合ト地盤ハ第三者若クハ共同收益者中一二ノ者ノ所有ニ屬スル場合トヲ問ハス齊シク其收益者ヲ入會權利者ト云ヒ其權利ヲ入會權ト稱シタルモノトス

○民法第二百六十三條ニ所謂共有ノ性質ヲ有スル入會權トハ地盤及ヒ毛上共ニ入會權利者ニ屬スル場合ヲ指シタルモノニ非スシテ地盤ハ第三者若クハ入會權利者中一二ノ者ニ屬シ其毛上ノミ入會權利者共有シテ共同收益スル場合ヲ指シタルモノトス

○或森林カ保安林ニ編入セラレタルトキハ皆伐及ヒ開墾ハ絶對ニ禁止セラルト雖モ芝草ノ採取及ヒ一部ノ伐木ノ如キハ絶對ニ禁止セラレタルモノニ非ス從テ入會權ノ目的タル森林カ保安林ニ編入セラレルモ其權利ハ直ニ消滅スヘキモノニ非ス

○林野ノ共有權ト入會權トハ縱令共有ノ性質ヲ有スルモノト雖モ二箇各別ノ權利ニシテ互ニ相容ルルコトヲ許サス

○町村ノ住民カ各自山林原野ノ樹木柴草等ヲ收益スル權利即チ民法上ノ入會權ハ其山林原野カ他ノ町村ノ所有ニ屬スルト自己ノ住スル町村ノ所有ナルトヲ問ハス之ヲ取得シ得ヘキモノナリ

三七	二六八二
三七	二六八二
三六	五九
三九	五七
三九	一六五

○林野ノ地盤カ數人ノ共有ニ屬スル場合ニ於テ各共有者カ其毛上ニ付キ共同收益ヲ爲スハ純然タル共有權ノ效力ニシテ入會權ヲ有スルモノニ非ス

○如上ノ場合ニ於テ地盤ニ付キ共有權ヲ有セサル者カ之ニ入會シ共有者ト共ニ毛上ノ收益ヲ爲ストキハ其第三者ハ入會權者ナルモ共有者ノ權利ハ之カ爲メニ入會權ニ變スルコトナシ

○舊時村驛ノ名ヲ以テ表示シ又ハ村驛ノ用係カ契約セル入會權ハ總テ其村驛ノ住民ニ屬シタルモノト云フヲ得ス

○村又ハ其一部落カ特別ニ財産ヲ所有スルコトハ古來是認セラレタル慣行ニシテ入會權ニ限り之ヲ有スルコトヲ禁止セル慣習若クハ法規アルコトナシ

○入會權ハ共有ノ性質ヲ有スルト否トヲ問ハス各地方ノ慣習ニ從フヲ以テ本則トシ其以外共有ノ性質ヲ有スル入會權ニハ共有ニ關スル規定ヲ適用シ共有ノ性質ヲ有セサル入會權ニハ地役權ニ關スル規定ヲ準用スヘキモノトス

(同主旨) 民法ニ於テハ入會權ハ特殊ノ權利タルコトヲ認メ共有ノ性質ヲ有スルト否トヲ問ハス各地方

四〇	二二七
四〇	二二七
四〇	二二七
四〇	二二七
六	一〇八

ノ慣習ニ從フヘキナ本則ト爲シ其以外ノ事項ニ付テハ共有ノ性質ヲ有スル入會權ニハ共有ニ關スル規定ヲ適用シ共有ノ性質ヲ有セサル入會權ニハ地役權ニ關スル規定ヲ準用スヘキ注意ナリトス

(參照)

舊時ニ在テハ入會秣場ノ如キ村町驛ノ住民全體ノ權利ニ關スルモノハ其性質各個人ノ權利ニ屬スヘキモノナルニ拘ハラス之ニ關スル契約若クハ訴訟ノ如キ法律行為ハ總テ其村町驛ノ庄屋若クハ用掛ニ於テ外部ニ對シ住民全體ヲ代表シテ爲シ來レル地方慣習アリテ裁判上ニ於テモ之ヲ認許シタルコトハ當時ノ判例中散見スル所ナリ

第四章 地上權

○民法實施以前ニ在テモ法律カ禁止セサル限ハ或物權ヲ設定スルコト能ハサルモノニ非ス而シテ其實施以前ニ在テ既ニ地上權ヲ設定シ得ルノ慣習存在セリ隨テ民法實施以前ニ於ケル地上權ノ設定ヲ認ムルハ適法ナリ

○地上權ナルヤ將タ賃借權ナルヤハ當事者ノ合意ニ依リ定ムヘキ事實上ノ問題ナリ

○契約ヲ以テ地上權ノ賣買ヲ禁スルカ如キハ地上權者ノ權利ヲ制限シタルモノトス而シテ此制限ハ公益ヲ害セサルニ付キ當事者ハ有效ニ斯ル

○契約ヲ締結シ得ヘク唯之ヲ以テ善意ノ第三者ニ對抗スルコトヲ得サルニ過キス

○地上權ハ工作物敷地ノ外其四周ニ空隙ノ場所アルモ廣狹如何ヲ問ハス其範圍中ニ包含シ得ヘキモノナリトス

○一ハ法律行為ヲ以テ地上權ヲ設定シタル場合ニ於テ其目的地ノ一部ト他ノ一部トノ間ニ權利ノ差異アルモノトスルニハ特ニ其設定當事者間ニ於テ其意思ニ出テタル事實アルヲ要ス

○他人ノ地所ヲ借受ケ家屋ヲ建築シテ所有スルモノ之ニ因リテ直ニ地上權ヲ設定シタルモノト云フヲ得ス

○地上權者カ其登記ヲ怠リタルカ爲メ土地ノ所有者ヲシテ之ヲ保護スル責務ヲ負ハシムヘキモノニ非ス

○地上權者ニシテ工作物ヲ所有スル者カ其工作物ノ所有權ヲ他ニ移轉シタル場合ニ於テハ反對ノ意思表示ナケレバ地ト權ト權ハ工作物ノ所有權ト共ニ新所有者ニ移轉シタルモノト推定スヘキモノナルモ建物所有權ノ移轉登記ヲ爲スモ地上權ノ移轉登記ヲ爲ササル以上ハ地上權移轉ノ效力ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

(同主旨)

三六	三五	三二	三〇	二九	二八
一三三	一三五	一三一	一五〇	一五〇	一五〇

三四	三四	三三	三二	三二	三二
一六〇	一四四	一三九	一三六	一三六	一三六

他人ノ土地ニ地上權ヲ有スル者カ其土地ノ上ニ存スル建物ノ所有權ヲ任意賣買又ハ強制賣買ニ依リテ他ニ移轉スルニ當リ特ニ地上權ト分離シテ之ヲ讓渡スヘキ意思表示ヲ爲ササル以上ハ其地上權ハ建物ト共ニ建物ノ買主ニ移轉シタルモノト看做スハ當然ナリ
地上權者ニシテ工作物ヲ所有スル者カ其工作物ノ所有權ヲ他ニ移轉シタル場合ニ於テハ競賣ニ因ルト賣買其他ノ行爲ニ因ルトナ間ハ其反對ノ意思表示ナキ限ハ地上權ハ工作物ノ所有權ト共ニ新所有者ニ移轉シタルモノト推定セサルヘカラス

○地上權ヲ設定セル場合ニ於テハ當事者ノ意思表示ニ因ルト法律ノ規定

ニ因ルトヲ問ハス地所所有者ハ地上權者ニ對シテ登記ヲ爲スヘキ義務ヲ負フモノトス而シテ明治三十三年法律第七十二號ハ其施行ノ日ヨリ一今年間ハ登記ナクシテ第三者ニ對抗シ得ヘキ地上權者アルコトヲ認ムルモ之カ爲メニ地所所有者ノ登記義務ニ何等ノ影響ヲ及ボサス
○他人ノ土地ニ於テ地上權ヲ有スルコトヲ原因トシ土地所有者ニ對シテ地上權設定登記ヲ訴求スルニハ必スヤ其取得原因即チ設定行爲取得時効又ハ法律ノ規定アルコトヲ理由ト爲ササルヘカラス
○地上權設定契約ナルト使用貸借契約ナルトヲ問ハス合意上之ヲ新ナル地上權設定契約ニ變更スルコトハ當事者ノ自由ニシテ法律上妨アルモノニ非ス
○抵當權ノ設定登記後其目的タル不動産ニ付キ地上權ヲ設定スルモ之ヲ

三三	三四	三七	三九	四〇	四一
四八	一六〇	一七二	一八〇	一九七	二〇〇

以テ抵當權者ニ對抗スルコトヲ得サルモノナレハ抵當權者カ其權利ノ實行トシテ抵當不動産ノ競賣ノ申立ヲ爲シ競落許可決定アリタルトキハ該地上權ハ之ニ因リ消滅スルモノトス

○或土地ノ上ニ地上權存スルトキハ土地所有者ト雖モ之ヲ使用スルコトヲ得サルノミナラス他人ヲシテ使用收益セシムルコトヲ得サルモノナ

レハ特殊ノ事由存在セサル以上地上權ノ存スル土地ニ付キ所有者ト他人トノ間ニ賃貸借契約ノ締結ナキモノト認ムルヲ相當トス

○建物ノ存在セサル土地ヲ抵當ト爲シタル場合ニ於テ抵當權設定者ト抵當權者トノ間ニ將來其地上ニ建物ヲ建設シタルトキハ地上權ヲ設定シタルモノト看做ストノ合意ヲ爲スモ該抵當地ノ競落者ニ對シ其効ナケレハ建物ヲ建設シタル抵當權設定者又ハ建物ノ轉得者力之ニ因リテ地上權ヲ取得スヘキ理ナキモノトス

【第二百六十五條】

○地上權者ハ單ニ地上權ノ目的タル地上ニ有スル建物ヲ他ニ賃貸シ得ヘキノミナラス他人ノ土地使用ノ目的ヲ變更スルコトナキ以上ハ自ラ工作物又ハ竹木ヲ所有セサルモ他人ニ其土地ヲ賃貸シ他人ヲシテ其地上ニ工作物ヲ設ケ又ハ竹木ヲ植栽シ以テ其土地ノ使用及ヒ收益ヲ爲サシ

六六	六六	六六	六六	六六	六六
六五	二五〇	二〇一	二〇一	二〇一	二〇一

(同主旨)
無期限ノ宅地賃借ニ付キ公租公課ノ増徴ニ因リ地主ノ負擔増加シ又ハ土地ノ隆盛繁昌等ニ因リ附近ト共ニ地價ノ騰貴セル場合ニ於テハ地主ハ借地人ニ對シテ地料ノ増額ヲ強要シ得ルモノトス

○地主カ地上權者ニ對シ地代ノ増額ヲ請求シタル場合ニ於テ其相當額ハ固ヨリ裁判所ノ裁判ニ因リ定マルヘキモノナルモ其増額スヘキ時期ニ至リテハ地主カ地上權者ニ對シ意思表示ヲ爲シタル時ヨリ起算スルヲ相當トシ判決確定ノ時ヨリ起算スヘキモノニ非ス

○地上權ノ地代ハ地上權設定ノ構成要件ヲ成スモノニ非サルヲ以テ裁判所カ地上權設定ノ事實ヲ認定スルニ當リ地上權ノ設定ヲ地代ノ協定ニ繋ラシメタル場合ノ外地代ニ關スル協定ノ有無ヲ審按スル必要ナシ

○地代ノ支拂ヲ内容トスル地上權ノ移轉アリタルトキハ前者ノ地代怠納ノ結果ハ當然之ヲ承繼スヘキモノナレハ前者ト承繼人トノ地代怠納ノ期間カ通シテ二年以上ニ亘リタルトキハ地主ハ之ヲ理由トシテ承繼人ニ對シ地上權ノ消滅ヲ請求スル權利アルモノトス

○慣習ニ依リ地代ノ値上ヲ爲スヘキ一定ノ事實發生シタル場合ト雖モ既定ノ地代カ値上ケスヘキ相當額ト相匹敵スルニ於テハ地主ハ其値上ヲ

請求スルヲ得サルモノトス

○地上權者カ地代ヲ支拂フヘキ約定アル場合ニ於テハ其地代ノ定ハ地上權及ヒ土地所有權ニ從屬シテ之ト運命ヲ同ウスヘキモノトス故ニ當事者カ一定ノ年限毎ニ當時ノ情況ニ從ヒ地代ヲ變更スヘキコトヲ約定シタルトキハ其地代増額請求權ハ當然土地所有權ノ讓受人ニ移轉スルモノナリ

(同主旨)

地上權者カ土地所有者ニ地代ヲ支拂フヘキ場合ニハ之ヲ以テ地上權存立ノ要件ト爲スモノニシテ其支拂ハ地上權者ノ義務ニ屬シ之カ收受ハ土地所有者ノ權利タルモノナレハ特ニ變更ヲ加ヘサル限ハ地上權ニ從屬シテ之ト運命ヲ同ウスルモノトス從テ相續ノ場合ハ勿論賣買讓與ニ因リ地上權者クハ土地所有權ヲ取得スル者ハ當然之ヲ襲得セサルヘカラス

○地上權ノ設定契約ニ於テ地代ニ關スル定アルニ拘ハラス之カ登記ヲ爲サザリシ場合ト雖モ地上權者ハ第三者ニ非サルカ故ニ土地所有權ヲ讓受ケタル者ハ其定アルコトヲ以テ之ニ對抗シ得ヘキモノトス

○地料増額請求ノ意思表示ヲ爲スニ付キ特定ノ方法アルニ非サレハ裁判外ハ勿論裁判上相手方ニ對シ訴狀其他一定ノ申立書又ハ口頭辯論ニ於テ攻撃防禦ノ方法トシテ爲スヲ妨ケス而シテ一定ノ申立書ヲ以テ爲ス増額請求ノ意思表示ハ其書面カ相手方又ハ其訴訟代理人ニ送達セラレ

四 九二〇

五 二八九

三九 一〇七四

五 二八九

四〇 八二二

四五 四八七

三 二七一

三 三七三

タルトキニ於テ訴訟行爲ト同時ニ民法上法律行爲ノ效力ヲ生スルモノトス

○當事者カ將來地代値上ヲ爲ササル特約ヲ爲シタルトキハ經濟上普通ノ變動アルヘキ場合ヲ豫想シテ之ヲ爲シタルモノト解スルヲ相當トス從テ公租公課ノ激増地價地代ノ暴騰等經濟上當事者ノ豫想セサル非常ノ變動アル場合ニハ其契約ノ效力ヲ及ホスヘキモノニ非ス

○地上權ノ設定カ契約ニ基ク場合ニ於テ當事者間ニ特ニ地代支拂ノ契約ヲ爲ササルトキハ當事者ノ意思ハ無償ニテ地上權ヲ設定スルニ在リト解スヘキモノトス

○民法第二百六十六條ニ依リ地上權ニ準用スヘキ同第二百七十六條ニ引續キ二年以上トアルハ二年ヲ包含セル旨趣ニシテ同條ハ永小作人カ引續キ三年又ハ四年間ノ小作料支拂ヲ怠リタルトキハ勿論引續キ二年間ノ小作料支拂ヲ怠リタルトキト雖モ地主ヲシテ永小作權ノ消滅ヲ請求スルコトヲ得セシムル法意ナリトス

(聯) ○地上權者カ引續キ二年以上地代ノ支拂ヲ怠リ又ハ破産ノ宣告ヲ受ケタル場合(民法第二百六十六條第二十七十六條)ニ於テ地主カ之ヲ原因トシテ地上權ヲ消滅セシムルニハ單ニ其意思表示ヲ爲スヲ以テ足リ地

上權者ヲシテ之ヲ承認セシメ若クハ裁判上之ヲ請求スルノ要ナキモノトス

(同義言) 地上權者カ引續キ二年以上地代ノ支拂ヲ怠リ又ハ破産ノ宣告ヲ受ケタル場合ニ於テ土地所有者カ民法第二百六十六條同第二百七十六條ニ依リ地上權ヲ消滅セシムルニハ單ニ其意思表示スルヲ以テ足リ之ヲ地上權者ニ承認セシメ若クハ裁判上請求スルノ要ナキモノトス

(反對) 民法第二百六十六條第二百七十六條ニ規定セル土地所有者ノ權利ハ地上權者カ引續キ二年以上地代ノ支拂ヲ怠リタル時ニ於テ發生スルカ故ニ土地ノ所有者カ其實アリトシテ地上權ヲ消滅セシムルニハ自己ノ意思表示ノミヲ以テ足レリトセス地上權者ニ於テ之ニ對シ異議ナク權利ノ行使ニ承服スルカ又若シ其要求ヲ肯セサレハ裁判上之ヲ承認セシムルコトヲ必要トス

(第二百六十八條)

○民法第二百六十八條ハ地上權ノ設定行爲ニシテ存續期間ノ定ナキ場合ニ別段ノ慣習存在スルトキハ其慣習ニ從フヘキコトヲ定メタルモノナリ

○地上權ナルモノハ民法上一種ノ借地權ニシテ其權利ノ消滅時期ヲ條件ニ係ラシムルカ如キハ固ヨリ當事者ノ自由ニ屬ス

○地上權ノ存續期間ニ付テハ民法上幾數百年若クハ永代ト云フ如キ無制限ノ契約ヲ爲スコトヲ許ササル律意ナリトセハ永小作權ニ於ケル規定

四〇	四五二
七	九三二
三九	九六六
三三	九九
三五	九〇

六	一三八
六	一〇三二
六	一三五二
七	九三二

ノ如ク期間ヲ制限スヘキ筈ナルニ何等ノ制限ナキヲ以テ之ヲ見レハ其期間ハ當事者ノ設定行為ニ一任シ一切制限セサル律意ナリト解釋セサルヘカラス

(同主旨)

設定行為ヲ以テ地上權ノ存續期間ヲ定ムル場合ニ於テ民法上年限ノ長短ヲ制限シタル規定ナシ故ニ其長短ハ當事者ノ隨意ニ任セタルモノト云ハサルヘカラス

○地上權ノ存續期間ニ付テハ民法第二百六十八條第二項ニ於ケル規定ノ外其長短ニ關シ何等ノ規定ナキヲ以テ三個月ノ豫告期間ニ解約ヲ爲シ得ヘキ旨即チ地主ノ意思ノミニテ自由ニ地上權ヲ消滅セシムルコトヲ得ヘキ契約ヲ爲スモ當事者ノ隨意ニシテ法律上毫モ制限セラルル所ナキモノトス

(同主旨)

三個月ノ豫告期間ニ明渡スヘキ旨ノ借地契約ハ地上權ノ設定ニ付テモ當事者ノ隨意ヲ以テ爲シ得ヘキモノニ付キ之ヲ以テ地上權ノ本質ニ反スル行為ト爲スヲ得ス

地上權ノ設定ニ付テハ六個月ノ豫告期間ニ解約ヲ爲シ得ヘキ旨即チ地主ノ意思ノミニテ自由ニ權利ヲ消滅セシメ得ヘキ契約ヲ爲スモ當事者ノ隨意ニシテ法律上毫モ制限スル所ナシ

○民法第三百八十八條ニ依リ發生シタル地上權ハ存續期間ノ定ナキモノナレハ同第二百六十八條第二項ノ規定ニ從ヒ當事者ノ請求ニ因リ裁判

所ニ於テ其期間ヲ定ムヘキモノナレトモ此規定モ亦當事者ノ協議ヲ以テ之ヲ定ムルコトヲ禁スルモノニ非ス

(第二百六十九條)

○民法第二百六十九條第二項ハ土地所有者ト地上權者間ノ關係ヲ定メタルモノニシテ土地所有者ト地上權者ヨリ立木ヲ買受ケ其所有權ヲ有スル第三者トノ間ニ適用スヘキモノニ非ス

第五章 永小作權

○我國從來ノ慣習及ヒ判例上永小作權ナルモノハ其土地所有主ノ異動ニ依リ影響ヲ受クヘキモノニ非スシテ民法ノ精神モ亦其規定ニ依ル永小作權ノ存續期間中ハ此等慣習ニ從フヘキ法意ナリトス

○永小作ヲ設定スルニ當リ或條件ヲ以テ其設定契約ヲ解除スヘキ特約ヲ爲スカ如キハ固ヨリ當事者ノ自由ニシテ敢テ法律ノ禁スル所ニ非ス

(參照)

小作米ヲ受取ルハ管理權ノ所爲ニシテ處分權無キ者ト雖モ爲スコトヲ得ヘシ故ニ管理ノ所爲ヲ爲シ得ル者ハ處分ノ所爲ヲ爲スノ權アリト言フヲ得ス

永小作契約ノ第三者ニ繼續スルコトハ舊來ノ慣行ナルニ因リ大審院モ認メテ以テ判例ト爲シタルモノナレハ今後新ナル法律ヲ實施シ之ヲ制限スルニ非サル以上ハ單ニ公示ノ手續等ヲ爲

三六	二四	三三	四三
一	一〇	六	二二
二二九	八	二四	二二
		二〇八	二二

第二百七十四條

合ニ金錢ヲ以テ支拂フヘク裁判スルモ訴ノ原因訴訟ノ目的物ニ變更ヲ來シタルモノニ非ス小作米ノ如キ毎年一定ノ數額ヲ授受スヘキ約定ハ年ノ前後ニ依リ順次之ヲ授受スヘキハ相當ノ順序ナルニ依リ後年度ノ授受ヲ認メ前年度ノ未濟ヲ主張スル者ハ之ヲ立證スルノ責アリ

第二百七十四條

(參照)

民法第二百七十四條及ヒ第二百七十六條等ニ所謂請求ナル用語ノ法意ハ單ニ一片ノ通知ヲ以テ足レリトスルモノニ非スシテ相手方ニ承認ヲ請ヒ若シ肯セサレハ訴求スルノ旨趣ナリトス

第二百七十六條

第二百七十六條

民法施行前ト雖モ永小作權ハ特約ナキ以上地主ニ於テ隨意ニ之ヲ消滅セシメ小作地ヲ引上ケ得サルコトハ一般ニ認メラレタル慣習ナレハ裁判所ハ其存在ノ根據ニ付キ特ニ説明ヲ加フルノ要ナシ

(聯)

民法第二百七十六條ノ規定ニ引續キ二年以上小作料ノ支拂ヲ怠リ云云トアルハ小作料ノ支拂ヲ怠ルコト繼續シテ二年分以上ニ及フノ謂ナリトス從テ一年分ノ小作料支拂ヲ怠ルコト二年以上ニ及フカ如キ又ハ前一年分ノ小作料支拂ヲ怠リシ小作人カ後年再ヒ一年分ノ支拂ヲ怠リタル如キ場合ニ在テハ地主ハ之ヲ理由トシテ永小作權ノ消滅ヲ請求スルコトヲ得ス

(反對)

民法第二百七十六條ニ所謂引續キ二年以上小作料ノ支拂ヲ怠ルトハ永小作人カ二個年分ノ小作料ヲ支拂ハサルコトヲ云フニ非スシテ右ノ二年トハ其小作料ノ支拂ヲ怠リタル期間ヲ指スモノトス而シテ此期間ハ永小作人ノ權利ヲ保護シ其消滅ヲ防ク爲メ之ニ猶豫ヲ與フルノ旨趣ニ出ツルモノナリ

○民法第二百七十六條ニ依ル永小作權ノ消滅ニ付テハ單ニ其意思表示ヲ爲スヲ以テ足り契約解除ニ於ケルカ如ク豫メ履行ノ催告ヲ要スルモノニ非ス

(反對)

民法第二百七十四條及ヒ第二百七十六條等ニ所謂請求ナル用語ノ法意ハ單ニ一片ノ通知ヲ以テ足レリトスルモノニ非スシテ相手方ニ承認ヲ請ヒ若シ肯セサレハ訴求スルノ旨趣ナリトス

第六章 地役權

第二百八十三條

第二百八十三條

(參照)

地下浸潤ノ水利ヲ其隣地又ハ近傍地ノ所有者カ數年間利用シ來リタル慣行アルモ爲メニ地役權ヲ生セス
通行權ハ法律上ノ性質ヲ有シ時効ニ因リテ之ヲ取得スルコトヲ得ス
地役權ノ取得ハ法律ノ設定ニ因リ初メテ行ハルヘキモノナリ

三二	三三	三九	三六	元	三五	二六七
六六	六三					
八一	八一	一一二	八五二	七五		

二六	四	三	六四
三〇			
三六			
三五			

第一節 總則

(參照)

先取特權ハ法律ノ制定ヲ俟テ定マルヘキモノナレハ其制定ナキトキニ於テ法理トシテ之ヲ適用スルコトヲ得ス

〔第三百四條〕

○先取特權者カ目的物ノ對價ニ對シテ其權利ヲ行ハント欲スレハ其拂渡又ハ引渡前ニ於テ差押ヲ爲スヲ要スルコトハ債務者カ目的物ヲ賣渡シタル場合ト破産管財人カ適法ノ手續ニ依リテ換價ヲ爲シタル場合トニ因リテ消長スルノ理アルヘカラス

○民法第三百七十二條ニ依リ同第三百四條ノ規定ヲ抵當權ニ準用スル場合ニ於テハ同條ノ所謂債務者トハ抵當權ノ目的タル不動産上ノ權利者ヲ指稱スルモノトス

○民法第三百四條ノ規定ハ先取特權ノ目的物ノ全部又ハ一部ニ代リタルモノノ上ニ其效力ヲ及ホスヘキ旨ノ法意ナルヲ以テ建築工事ノ請負者ニ材木ヲ供給シタル者ノ先取特權ハ右請負契約ニ因リテ請負者カ注文者ヨリ受クヘキ報酬金ニ對シテハ之ヲ行フコトヲ得サルモノトス

○民法第三百四條ニ所謂目的物ノ滅失トハ必スシモ物理的滅失ノ場合ノ

二九

一

九一

三五

七

九

四〇

二六五

二

六〇九

ミヲ指稱シタルモノト解スヘキニ非スト雖モ債務者タル請負者カ請負ヒタル工事ノ材料ニ目的物ヲ供シタル場合ノ如キハ之ニ該當セス

○不動産再競賣ノ場合ニ於テ債務者カ前競落人ヨリ不足額ノ支拂ヲ受クヘキ債權ハ民法第三百四條ニ所謂目的物ノ賣却ニ因リテ債務者ノ受クヘキ金錢ニ外ナラサルヲ以テ競賣不動産ノ上ニ抵當權ヲ有スル債權者ハ之ニ對シテモ抵當權ヲ行フコトヲ得ルモノトス

(同主旨)

不動産再競賣ノ場合ニ於テ再度ノ競落代價カ最初ノ競落代價ヨリ低キトキ前ノ競落人ニ於テ負擔スル不足額ハ民法第三百四條ニ所謂目的物ノ賣却ニ因リテ債務者カ受クヘキ金錢ナリトス

○民法第三百四條第一項但書及ヒ第三百七十二條ノ規定ハ普通賣買契約ノ場合ニ於テハ代金ノ支拂ヲ受クヘキ債權ハ債務者カ其支拂ヲ受クルニ因リテ消滅スヘク從テ抵當權者ノ權利モ亦消滅ニ歸スヘキヲ以テ其權利ヲ保全セシムル爲メ第三債務者ニ對シテ代金支拂ノ差止ヲ爲ス必要ニ出テタルモノトス

(參照)

甲者ト丙者トノ間ニ地所抵當ニテ貸金ノ取引アリシ處乙者カ該抵當ノ地所ヲ丙者ニ冒認セラレタリトテ丙者ニ係リ地券帳簿名前引直ノ訴訟ヲ起シ始終審ノ判決ニテ勝訴ト爲リ其判決確

六〇九

二七六

七二三

九一〇

定シ地券モ乙者ニ下付セラレシカ之ニ付キ更ニ甲者ト乙者トノ間ニ先取權妨害排斥ノ訴名ヲ以テ一訴ヲ構シ結局第二審ニ於テ甲者ノ勝訴ニ歸セリ當時ノ法律ハ第二審終審裁判ハ上告ノ有無ニ拘ハラズ強制執行ヲ爲シ得ヘキヲ以テ甲者ハ右地所ヲ競賣シ其代金六百餘圓ヲ受領セシ後ニ及ヒテ大審院ノ判決ニ依リ甲者ノ敗訴ニ歸シタルモ甲者カ競賣ノ處置ハ毫モ不正ノ所爲タル惡意過失又ハ懈怠アルモノニ非ラ故ニ乙者カ大審院ノ勝訴ニ依リ甲者ハ先取權ナキコトニ歸者スルモ乙者ハ甲者ニ對シ損害ヲ要償スルヲ得ス則チ乙者ニ於テ右地所ヲ取戻シ自己ノ權利ヲ保全セントスルニハ其買受者ニ對シテ之ヲ要求スヘキモノトス若シ甲者ニ向テ之ヲ請求セントスレハ其受領セシ競賣代金六百餘圓ノ外ニ出ツルヲ得サルモノトス

二六 二 四三五

第二節 先取特權ノ種類 第二款 動産ノ先取特權

(第三百十三條)

『第三百十三條』

○建物賃借人ノ先取特權ノ目的タル動産ハ賃借人カ賃借ノ結果或時間繼續シテ存置スル爲メ持込ミタル動産タルヲ以テ足り其建物ノ常用ニ供スル爲メ之ニ存置セラルル動産タルヲ要スルコトナシ

三

五六七

(第三百十九條)

『第三百十九條』

○民法第三百二十三條ニ所謂引渡中ニハ同法第八十三條ニ依ル占有改定ノ場合ヲモ包含スルモノナリト雖モ不動産ノ賃借人カ其引渡ノ目的タル動産ヲ賃借シテ占有スル場合ニ於テハ同第三百十九條ノ適用アル

三

五六七

(第三百二十六條)

『第三百二十六條』

○建物ハ其未タ完成セサル間ハ不動産ニ非サルヲ以テ之カ建造ニ要シタル費用ハ不動産ノ工事費ナルコト勿論ナレトモ其保存費ト云フヲ得ス

四三

六九九

(第三百二十三條)

『第三百二十三條』

○民法第三百三十三條ニ所謂引渡中ニハ同法第八十三條ニ依ル占有改定ノ場合ヲモ包含スルモノナリト雖モ不動産ノ賃借人カ其引渡ノ目的タル動産ヲ賃借シテ占有スル場合ニ於テハ同第三百十九條ノ適用アル

六

一一〇三

(第三百三十三條)

『第三百三十三條』

○不動産賃借人ノ居宅ニ備付アル動産ト雖モ一旦之ヲ第三者ニ讓渡シ占有ノ改定ニ依リ之ヲ引渡シタル以上ハ民法第三百十九條ニ依リ更ニ先

六

一一〇三

民法 物權 先取特權ノ種類 先取特權ノ效力 不動産ノ先取特權

第三百三十八條

取特權ヲ取得シタルコトヲ主張シ且立證スルニ非サレハ該動産ニ對シ
 先取特權ノ效力ヲ及ホスコトヲ得サルモノトス
 『第三百三十八條』
 ○不動産工事ノ先取特權ノ效力ヲ保存スルニハ民法第三百三十八條第一
 項ニ依リ工事ヲ始ムル前ニ登記スルコトヲ要スルヲ以テ既ニ工事ヲ始
 メタル後ニ至リテハ之ヲ登記スルモ何等ノ效力ヲ有セサルモノト解ス
 ルヲ相當トス

第九章 質權

第一節 總則

○當事者間ニ於テ債權ヲ擔保スル爲メ所有權移轉ノ效果ヲ生セシムル意
 思ヲ以テ動産ノ賣買讓渡ヲ爲スハ俗ニ賣渡抵當ト稱セラルル信託的行
 爲ニシテ其目的物ノ不動産タル場合ト同シク法律上有效ナルモノトス
 ○賣渡抵當ハ債務者カ辨濟ヲ爲ササル場合ニ債權者ニ於テ目的物件ヲ處
 分シテ辨濟ニ充當スルコトヲ得セシムル爲メノモノナレハ縱令當事者
 ノ内部關係ニ於テハ債權者ニ所有權ナキモ債權者ニ於テ之カ處分ヲ爲
 スコトヲ得ル場合ニハ債務者ハ契約ノ旨趣ニ從ヒ該目的物ヲ債權者ニ

六 二〇三
 六 二四四
 三 八六五

引渡スノ義務アルモノトス

○權利ノ信託的讓渡ハ一定ノ目的ヲ達スルノ手段トシテ其目的ニ超過ス
 ル權利讓渡ノ形式ヲ取リタル意思表示ニシテ其内容ハ或ハ第三者ニ對
 スル外部關係ニ於テノミ權利ヲ移轉シ或ハ全然權利ヲ移轉シテ唯一
 ノ制限ヲ超エテ之ヲ行使スヘカラサルノ債務ヲ受信者ニ負擔セシムル
 等其目的如何ニ依リテ差異ヲ生スルモノトス

○權利ノ信託的讓渡ノ效力ハ箇箇ノ場合ニ就キ其意思表示ノ内容如何ヲ
 觀テ之ヲ判定スヘキモノナルカ故ニ甲者ヨリ乙者ニ内部關係ニ於テモ
 外部關係ニ於テモ漁業權ヲ移轉シ唯乙者ヲシテ擔保ノ目的ヲ超エテ權
 利ノ行使ヲ爲サス且期限内辨濟アリタルトキ擔保ノ目的物ヲ返還スル
 ノ債務ヲ負擔セシメタル契約ナルコトヲ認メ權利ノ信託的讓渡ト爲シ
 タル判決ハ正當ナリトス

○質入證券ヲ裏書スルト同時ニ白地ノ儘預證券ヲ交付シ以テ民法上ノ質
 權ヲ設定スルカ如キハ法律ノ許ササル所ナリ
 ○賣渡擔保ニ基ク信託的所有權讓渡行爲ニ在リテハ當事者ノ内部關係ニ
 於テハ所有權移轉ノ效果ヲ發生セスト雖モ之ニ依リテ擔保セラレタル
 債權ノ辨濟ヲ受ケサルトキハ債權者ハ外部關係ニ於テ有スル權利ニ基

四 一七四
 四 三三二
 三 八三五
 四 二二二
 五 一三五

キ目的物ノ交付ヲ受ケ之方處分ヲ爲シ得ヘキ權利ヲ有スルモノトス
 ○債權擔保ノ目的ヲ以テスル信託的所有權讓渡行爲ニ在リテハ第三者ト
 ノ關係ニ於テノミ所有權移轉ノ效果ヲ發生シ當事者内部ノ關係ニ於テ
 ハ同一ノ效果ヲ發生セサルモノト爲スヲ通常トスト雖モ當事者間特別
 ノ意思表示ヲ以テ外部關係ニ於ケルト其ニ内部關係ニ於テモ所有權ヲ
 移轉スヘキモノト爲スヲ妨ケス

(同主旨)

賣渡抵當ナル信託的賣買ヲ爲シタルトキハ其目的物ノ所有權ハ當事者間ノ内部關係ニ於テ債
 務者ニ存在スレトモ第三者ニ對スル外部關係ニ於テハ債權者ニ移轉スルモノトス

○動産又ハ不動産ニ對スル所有權ノ信託的讓渡ハ一種ノ法律行爲タルヲ
 以テ其效果ノ内容ハ一ニ當事者ノ意思表示ニ依リ定マリ信託的讓渡ナ
 ルカ故ニ其所有權ノ歸屬ニ關スル一定ノ法則アルモノニ非ス
 (同主旨)

不動産ノ賣渡抵當又ハ賣渡擔保ハ其内容如何ニ依リ或ハ不動産ノ所有權ヲ債權者ニ移轉シ或
 ハ依然債權者ニ殘存セシムルコトアルヲ以テ此等ノ行爲ハ總テノ場合ニ於テ當事者間ニ所有
 權移轉ノ效果ヲ生セサルモノト論斷スヘキモノニ非ス

○將來當事者間ニ反覆シテ取引ヲ實行スヘキ場合ニ於テハ債權ノ發生カ
 既ニ客觀的ニ可能ナルモノト謂フヘキモノナレハ其發生スヘキ債權ノ

爲メ豫メ擔保權ヲ設定スルハ縱令數字のニ被擔保債權ノ範圍ヲ限定セ
 サルモ有效ナリトス

○不動産質權及ヒ抵當權設定ノ如キハ第三者保護ノ爲メ之ヲ登記スルコ
 トヲ必要トスルヲ以テ設定ト同時ニ債權ノ限度ヲ確定スヘキモノナリ
 ト雖モ之ヲ以テ一般ノ擔保權ニ及ホスヘキモノニ非ス

○賣券擔保ハ信託行爲ノ一種ニシテ賣買ノ意思表示ニ依リ成立スルモ債
 權擔保ノ實ヲ舉クルコトヲ本旨トスルヲ以テ買受人ハ債務者カ辨濟ヲ
 怠リタルトキハ目的物ヲ處分シテ辨濟ニ充當スルコトヲ得ヘシト雖モ
 辨濟期前ニ於テハ自由ニ處分スルコトヲ得サルノミナラス債務者カ辨
 濟ヲ爲シタルトキハ之ヲ返還スル手續ヲ爲ササルヘカラサルモノニシ
 テ當事者間ノ債權關係ハ決シテ賣券擔保ノ提供ニ因リ消滅スルモノニ
 非ス

○恩給年金ノ帶有者カ其恩給年金ヲ債務ノ擔保ニ供スル目的ニテ其證書
 ヲ債權者ニ交付スルモ其名義ノ如何ヲ問ハス債權者ハ該證書ニ付キ何
 等ノ權利ヲ得ルコトナク帶有者ハ何時ニテモ其證書ノ占有ヲ回復スル
 ノ權アルモノトス

○債務者カ自己ト債權者及ヒ第三者ノ三人合意ノ上債權擔保ノ目的ヲ以

六 一六三九

六 一六三九

六 一六三九

七 五五三

七 二二九

五 一五〇七

五 一三六五

五 一八三二

三 八六五

六 二二四

五 一三七四

(第三百四十二條)

テ土地ヲ第三者ニ信託的ニ賣買スル契約ハ之ニ因リ債務者ヲシテ其債務ノ辨濟ヲ爲スニ非サレハ第三者ヨリ土地ノ返還ヲ受クルコトヲ得サ
ラシメ以テ債權擔保ノ實ヲ舉クルコトヲ得ルモノナレハ適法ナル信託
行爲ノ一種ニ屬シ契約自由ノ範圍内ニ在ル有效ノ法律行爲ナリトス

『第三百四十二條』

○強制執行ノ目的物以外ノ建物ニ對シテ競賣ヲ實施シ競落許可ノ決定ヲ爲シタルトキハ其決定ハ無効ナリトス從テ其建物ニ對シ質權ヲ有スル者ハ縱令該物件ノ所有權カ表面上他人ニ移轉スルモ質權其モノニ消長ヲ來スヘキ原因アラサル以上ハ毫モ之カ實行ヲ妨ケラルルコトナシ

(參照)

質權者ハ其債權ノ滿期ニ至ラサル間ハ質物ノ差押及ヒ公賣ヲ拒ムノ權利アリ故ニ債務者ノ他ノ債權者ヨリ不法ニ其占有ヲ奪ハレタル場合ハ訴追ヲ以テ異議ヲ主張シ之カ返還ヲ請求シ得ルハ勿論若シ公賣等ニ依リ現物ノ返還不能ニ至リタル場合ハ民事訴訟法第九十六條ニ依リ直ニ損害ノ賠償ヲ請求スルコトヲ得

(第三百四十三條)

『第三百四十三條』

沖繩縣金祿ハ國家公權ノ作用ヨリ生シタルモノニシテ舊琉球藩華士族ニ於テモ亦一種ノ公權トシテ之ヲ受領シ其性質上讓渡スヘカラサルモノナレハ之ヲ以テ質權ノ目的ト爲シ得サルハ

(參照)

當然ナリ

『第三百四十四條、第三百四十五條』

(第三百四十四條、第三百四十五條)

○賣渡擔保ニ因ル信託的所有權讓渡行爲ハ質權設定ト異ナリテ當事者間所有權移轉ノ形式ニ從ヒ第三者トノ關係ニ於テハ所有權移轉ノ效果ヲ生スル方法ニ依リ擔保ノ目的ヲ達セントスル意思表示ナルヲ以テ民法第三百四十四條第三百四十五條ノ適用ヲ受クヘキモノニ非ス

○當事者間内部關係ニ於テモ所有權移轉ノ效果ヲ發生セシムル旨趣ヲ以テ信託的賣買ヲ爲シタル場合ニ於ケル當事者ノ意思ハ真正ニ所有權ヲ讓渡スルニ在リテ單ニ質權又ハ抵當權設定ノ場合ト同一ノ效果ヲ發生セシメンカ爲メ所有權ノ移轉ヲ假裝シタルモノト觀ルヘキモノニ非サレハ債權者カ債務者ヲシテ其債務ノ辨濟ヲ受クル迄目的物ヲ自己ニ代リ占有セシムルモ民法第三百四十五條ノ禁止規定ノ適用ヲ避脫センカ爲メニスル不正行爲ヲ以テ目スヘキモノニ非ス

○質權者カ一旦有效ニ質權ヲ設定シタル後民法第三百四十五條ノ規定ニ違背シ質權設定者ヲシテ質物ヲ占有セシメタリトスルモ其占有カ法律上代理占有ノ效力ヲ生セサルニ止マリ之カ爲メ質權ハ消滅ニ歸セサルモノトス

三六

二八五

五

一五〇七

五

一八二

五

二五〇九

七

二二三

三六

一三八〇

二九

一〇

七五

○民法第三百四十五條ハ如上ノ契約ヲモ禁止スルモノニ非サレハ賣渡抵當ヲ以テ脫法行爲ナリト解スヘキモノニ非ス(第九十條六年一七八〇頁參照)

(第三百四十七條)

○債務者カ或擔保ヲ供シテ債務ヲ負擔シタルトキハ債權者ハ其債務ノ履行ヲ受ケタル後ニ非サレハ擔保ヲ解クコトヲ要セス故ニ債務者ヨリ債權者ニ對シテ其擔保ヲ解カシムル請求權ハ債務履行ノ後ニ非サレハ發生セサルモノトス

(同主旨)

債務者カ或擔保ヲ供シテ債務ヲ負擔シタル場合ニ於テ債務ノ履行ヲ爲スト債權者カ其擔保ヲ解クコトトハ同時ニ之ヲ履行スヘキモノニ非ス債務者カ其債務ヲ履行スル迄ハ債權者ハ擔保ヲ解クコトヲ要セサルカ故ニ債務者ノ爲メニハ其債務ヲ履行シタル上ニ非サレハ擔保ヲ解クコトニ付テノ請求權發生セサルモノトス

(第三百四十九條)

○債務者カ漁業權ヲ以テ債權ノ擔保ト爲シタル場合ニ債權者ニ於テ其債權ノミ他人ニ讓渡スルトキハ爾來其擔保ハ消滅ニ歸シタルモノナレバ讓渡人ヨリ之ヲ債務者ニ返還セサルヘカラス

二七〇

二八二

二五八

二八三

二二六

(第三百五十條)

○質權設定者ニ於テ其債務ノ辨濟ニ代ヘ任意ニ質物ノ所有權ヲ質權者ニ移付スルコトヲ得ヘキ契約ハ民法第三百四十九條ノ適用ヲ受クヘキモノニ非ス其間ハ第三節 第二節 動産質

(第三百五十三條)

○債務者ノ行爲ニ因リ擔保(質物)ヲ失ヒタル場合ニ於テハ債權者ハ直ニ貸金辨濟ノ請求ヲ爲シ或ハ擔保物(質物)ノ回收ヲ請求スルコトヲ得ル

(第三百五十五條)

○質權又ハ抵當權ノ目的タル不動産ヲ買得シタルモノハ自己カ其債務ヲ負擔スルニ非ス唯其債務ノ擔保物件ヲ占有スルカ故ニ若シ其所有權ヲ失却セザラントセハ該物件ノ負擔セル債務ヲ辨濟スル責任ヲ有スルニ

民法 物權 質權 動産質 不動産質

三七

四二

元

七二

三三

一八

一八

過キス而シテ擔保物件ノ價額ヲ以テ其債務辨濟ノ限度ト爲スコトハ新民法實施前ノ法理ナリトス

○不動產質權ノ登記取消ニ付テハ登記以外ノ貸増金ヲ理由トシテ之ヲ拒ムコトヲ得サルモノトス

○不動產質ニ於テ質物ノ占有ハ第三者ニ對スル對抗條件ニ非サレハ質權者ニ於テ一旦質物ノ現實引渡ヲ受ケタル後之ヲ質權設定者ニ引渡シタル事實ヲ認メタルニ拘ハラヌ該事實ハ質權ノ效力ニ何等ノ影響ナキモノト爲シタル判決ハ相當ナリ

(第三百五十六條)

『第二百五十六條』

○不動產質權ノ存續期間滿了後ハ質權者ノ使用收益ハ勿論其物上擔保モ亦消滅ニ歸スルモノトス

(第三百六十條)

『第三百六十條』

○民法實施前ニ於テ質物ノ受戻ニ付キ期間ヲ定メタルトキハ質取主ハ其期間滿了前ニ債務ノ辨濟ヲ質置主ニ請求スルコトヲ得サルト同時ニ質置主モ亦其期間ノ滿了前ニ債務ヲ辨濟シテ質物ノ返還ヲ請求スルコトヲ得ス
○民法實施前ニ於ケル質物ノ受戻期間ハ物上擔保ニ終期ヲ附シタル存續

三	三	五	二	六	七	元
二	五	二	六	七	元	一〇七一
二	四	一	一	一	一	一〇七一

期間ノ性質ヲ有セサルモノナレハ其期間到來スルモ爲メニ質權ノ消滅ヲ來スコトナク質置主カ債務ノ辨濟ヲ爲ササル限ハ質權ハ依然トシテ存續スルモノトス

○舊民法ノ下ニ於テ設定セラレタル質權ハ民法施行後十個年ニ限リ其效力ヲ有スヘキコトハ民法施行法第三十條第三十四條第三十六條ノ規定ニ徴シ明カナル所ナルヲ以テ質取主ハ民法實施ノ日ヨリ起算シ十個年内ハ尙ホ質權者トシテ其權利ヲ保有スルモノトス

○民法第三百六十條第一項前段ハ不動產質ハ設定契約ヲ以テ存續期間ヲ定メタルト否トヲ問ハス設定ノ時ヨリ十年ヲ經過スルニ因リテ當然消滅スルコトヲ規定シタルモノナレハ設定契約ニ於テ其存續期間ヲ定メサルモ不動產質ハ不成立ト爲ルモノニ非ス

○不動產質權カ存續期間ノ經過ニ因リテ消滅シタルトキハ其質權設定登記ヲ抹消セサルモ第三者ニ對シテハ質權カ存續スヘキモノト爲ラサルモノトス

○不動產質權ノ存續期間滿了後ハ質權者ノ使用收益ハ勿論其物上擔保モ亦消滅ニ歸スルモノトス

第四節 權利質

七	六	六	元	元	元	元
一	一	一	一	一	一	一〇七一
一	一	一	一	一	一	一〇七一

○記名株券ニ債務ノ制限ナキ質入承諾書ヲ添附シテ之ヲ他人ニ交付シタルトキハ縱令當事者間ニ於テ或特定ノ債務ニ限り擔保ニ供スヘキ旨ノ契約アルモ之ヲ以テ其特約ノ存在ヲ了知セサル善意ノ質權者ニ對抗スルコトヲ得ス

三七

六四五

○甲者カ乙者ノ名義ヲ冒用シ其融通ノ爲メニ借受タル旨ヲ以テ丙者ヲ欺キ株券白紙委任狀及ヒ承諾書ヲ騙取シタル場合ニ於テハ該株券其他附屬書類ノ交付ハ無効ナルカ故ニ之カ爲メ丙者ニ何等ノ失權ヲ來シ若クハ責任ヲ生スヘキモノニ非ス從テ丁者カ甲者ニ處分權アリト信シ該株券ヲ擔保物トシテ取引シタリトスルモ丙者ハ丁者ニ對シテ其返還ヲ請求シ得ルモノトス

三六

一一三〇

第三百六十四條

○記名株式ニ對シ質權ヲ設定シタル場合ニ於テハ其質權ノ目的タル權利ハ株主ノ權利ナルヲ以テ商法ノ規定ニ依リ株主タル權利喪失シタル以上ハ質權モ亦之ニ因リテ當然消滅スヘキモノトス

四

二二六

○指名債權ヲ以テ質權ノ目的ト爲シタル質權者ハ第三債務者ニ質權ノ設定ヲ通知シ又ハ第三債務者カ之ヲ承諾シタル時ヨリ第三債務者其他ノ第三者ニ對抗スルコトヲ得ヘキヲ以テ第三債務者ハ此時ヨリ質權者ノ

取立權能ヲ害スル行爲ヲ爲スコトヲ得ス從テ第三債務者ハ此時以後ニ取得シタル質權設定者ニ對スル債權ヲ以テ質權者ニ相殺ヲ對抗スルコトヲ得サルモノト解スルヲ相當トス

五

一六七〇

○指名債權ヲ質權ノ目的ト爲シタル場合ニ於テ第三債務者ニ對シ民法第四百六十七條ニ則リ質權ノ設定アリタルコトヲ通知シタルトキハ第三債務者ハ右ノ通知迄ニ質權設定者ニ對シテ生シタル事由ニ非サレハ之ヲ以テ質權者ニ對抗スルコトヲ得サルモノトス

七

二四三三

○第三債務者ハ質權設定者ニ對シテ有スル債權ニシテ其質權ノ通知迄ニ辨濟期ニ達セサルモノヲ質權ノ目的タル債權ト相殺スル爲メ辨濟期到來ノ後質權者ニ對シテ有效ニ其旨ノ意思表示ヲ爲スコトヲ得サルモノトス

七

二四三三

第三百六十七條

○權利質權者ハ債務者ニ代リ質權ノ目的タル債權ヲ處分シ得ヘキ權利アルニ過キスシテ條件附債權讓受ノ效果ヲ取得スルモノニ非ス

三六

三二六

○指名債權ヲ以テ質權ノ目的ト爲シタル質權者ハ第三債務者ニ質權ノ設定ヲ通知シ又ハ第三債務者カ之ヲ承諾シタル時ヨリ第三債務者其他ノ第三者ニ對抗スルコトヲ得ヘキヲ以テ第三債務者ハ此時ヨリ質權者ノ

取立權能ヲ害スル行為ヲ爲スコトヲ得ス從テ第三債務者ハ此時以後ニ取得シタル質權設定者ニ對スル債權ヲ以テ質權者ニ相殺ヲ對抗スルコトヲ得サルモノト解スルヲ相當トス

(參照)

權利質ノ債權者ハ裁判所ノ轉付命令ニ依ルカ又ハ法律規則ノ許容セシ場合ニ非サレハ其質權ノ目的タル債權ヲ直接ニ取立ツルコトヲ得ス

(第三百六十八條)

『第三百六十八條』

- 權利質ハ民事訴訟法ニ定ムル執行方法ニ依リ質權ノ實行ヲ爲スコトヲ得ルモノニシテ株券ノ如キ有價證券ヲ質權ノ目的ト爲シタル場合ニ於テ質權ヲ實行スルニハ執達吏ハ民事訴訟法第五百八十一條ニ依リ質權者ノ占有スル有價證券ヲ賣却又ハ競賣スルコトヲ得ルモノトス
- 有價證券ノ名義人カ債務者以外ノ第三者ニシテ質權者カ其有價證券ノ上ニ有效ニ質權ヲ取得シタルトキハ民事訴訟法第五百八十二條ニ依リ爲スヘキ有價證券ノ名義書換ニ必要ナル陳述ハ其有價證券ノ名義人ニ代リ之ヲ爲スコトヲ得ルモノトス
- 指名債權ヲ目的トスル質權ヲ有スル債權者ハ質權設定者ニ對スル債權ノ強制執行トシテ同人ノ第三債務者ニ對スル指名債權ニシテ右債權ヲ

五	二六〇
三	二五
七	一九
七	一九

擔保スル質權ノ目的タルモノヲ差押ヘタル場合ニ於テ其質權ノ效力ヲ害スル相手方ノ主張アルトキハ之ヲ排斥スル爲メ抗辯トシテ質權ヲ主張スルコトヲ得ルモノトス

第十章 抵當權

第一節 總則

- 不法行為ニ因リ登記ヲ取消スモ其取消ハ無効ナリ故ニ抵當債權者ハ抵當地所有者ニ對シ登記ノ復舊ヲ求ムルコトヲ得
- 民法實施前ト雖モ動産ノ書入ニ付テハ不動産ノ書入ノ如ク公示ノ方式ナキヲ以テ當然優先ノ效力ヲ有スルモノニ非ス
- 債權者ニ於テ抵當地ヲ買受ケ債務ノ辨濟ヲ受ケタル場合ニ其賣買カ無効ニ歸シタルトキハ債權者ハ無償ニテ其地所ヲ返還スルモ其債權ハ自然ニ復活シ抵當權ノ復舊ヲ求ムルコトヲ得隨テ債務者ハ不當ノ利得ヲ得ルモノニ非ス

○金錢ノ消費貸借ハ當事者ノ一方カ同數量ノ金錢ヲ返還スヘキコトヲ約シテ相手方ヨリ金錢ヲ受取ルヲ以テ其法律行為ノ要素トスルモノニシテ抵當ノ如キハ貸借契約ニ附隨スル一ノ擔保ニ過キササルヲ以テ縱令其

七	二四三
三	三五
三	四五
一	六

順位ニ關シ意思表示ニ錯誤アリトスルモ之カ爲メ貸借契約ヲ無効ナラシムヘキモノニ非ス

○登記名義者ヲ不動産ノ所有者ト信シ善意ニテ抵當權ヲ取得シタル者ト雖モ過失ナキ眞所有者ノ抵當權登記取消ノ請求ニ對抗スルヲ得ス

(同主旨)

犯罪行爲ニ因リ地所ノ所有名義者ト爲リタル者ノ設定シタル抵當權ハ其相手方カ善意ニシテ且登記ヲ爲スモ抵當ノ效力ヲ生セス

悉ニ他人ノ物ヲ我所有ト爲シタル者カ設定シタル抵當ハ無効ナリ隨テ眞所有者ハ其所有權ヲ證明シ抵當權利者ニ對シ之カ抵當登記取消ヲ請求スルコトヲ得

○根抵當トハ將來ニ發生スヘキ債務ノ擔保トシテ前以テ抵當ヲ設定シ置ク行爲ヲ云フ

(刑) ○登記簿上不動産ノ反別畝步地番號ニ誤謬アルトキハ相當ノ手續ニ依リ訂正ヲ爲シ得ヘキモノニシテ其不動産ハ全然虛無ニ屬スルモノニ非ス從テ該不動産上ニ設定シタル抵當權ハ實體上ハ勿論登記上ニ於テモ亦有效ナリトス

○當事者カ未タ貸借金圓ノ授受ヲ爲ササルモ既ニ之ヲ了セルモノノ如ク裝ヒタル公正證書ヲ作成シ抵當權設定ノ登記ヲ受ケタル後金圓ヲ授受シタリトテ其登記ハ無効ナリト云フヲ得ス

○建物ニ關スル抵當登記ハ主タル建物ト附屬建物ト同一表示欄ニ表示シテ之ヲ爲スヘキモノトス從テ附屬建物ニ付キ登記アルニ非サレハ抵當權者ハ主タル建物ヲ目的トシタル抵當權カ其附屬建物ニ及フコトヲ以テ第三者ニ對抗スルヲ得ス

(刑)

○土地所有者タル甲者カ乙者ト虛偽ノ賣買ヲ爲シタル後相共ニ丙者ヨリ金圓ヲ借受ケ其擔保トシテ該地所ニ付キ眞正ニ抵當權ヲ設定シタルトキハ縱令丙者ニ於テ甲乙間ノ賣買ハ虛偽ノ意思表示ナルコトヲ知リタリトスルモ之カ爲メ其抵當權ノ設定行爲及ヒ之ニ基キタル抵當權登記ハ當然無効ト爲ルヘキモノニ非ス

○抵當權ヲ設定シタル債務者カ元金返濟若クハ利息拂入ノ期限ヲ怠リタル場合ニハ抵當地ノ所有權ヲ當然債權者ニ移轉シ債務關係ヲ消滅セシムル意思ヲ以テ兩者間ニ虛偽ノ賣買ヲ爲シタルトキハ其契約ハ即チ抵當直流ト爲スノ合意ニ外ナラスシテ民法施行前ニ在リテハ之ヲ有效ト認メサリシモノトス

○將來當事者間ニ反覆續行スヘキ消費貸借ノ爲メ抵當權ヲ設定セラレタル場合ニ於テハ縱令當初授受セラレタル金員カ既ニ辨濟セラレタルモ其後更ニ消費貸借カ成立シタル以上該抵當權ハ當然其貸借ヨリ生スル

三三六

三四〇

三三〇

三二〇

三五二

四〇二

四〇三

四一七

四二二

四三二

債權ヲ擔保スルモノニシテ當初ノ債權辨濟ノ爲メ其效力ヲ失フモノニ非ス

四

六〇一

○當事者間ニ於テ債權ヲ擔保シ且抵當權設定ノ便宜上竝ニ差押豫防ノ爲メ不動産ノ賣買ヲ爲シタルトキハ債權擔保ノ爲メニスル所有權移轉ヲ以テ其内容ト爲シタルモノニシテ其他ノモノハ附隨ノ事項トシテ觀察スヘキモノナレハ所謂賣渡抵當即チ信託行爲ノ一種ニ外ナラス

四五

六九一

○消費貸借ヲ擔保スル爲メ抵當權ノ設定アリタルトキハ其擔保セントスル消費貸借カ抵當權設定ノ當時ニ於テ成立セルモノナルト將タ後ニ金錢ノ授受アルニ因リ成立スルモノナルトヲ問ハス其抵當權ハ有效ニ之ヲ擔保スルコトヲ得ルモノトス

二

三二二

(同主旨)

抵當權設定者カ後日發生スヘキ債務ヲ擔保スル意思ヲ以テ抵當權ヲ設定セル場合ニハ其抵當ハ後ニ發生シタル債務ヲ有效ニ擔保スヘキモノニシテ抵當權設定ノ手續ハ必スシモ債務ノ發生ト同時ナルコトヲ要セス

三六

一六五三

(刑)

○債務ノ辨濟期ニ至リ債務者カ其辨濟ヲ爲ササルトキハ抵當權者ニ於テ抵當物件ヲ任意ニ賣却處分シ其代金ヲ以テ債務ノ辨濟ニ充當スルコトヲ得ル旨ノ特約ハ有效ナリトス

四

一三二一

(同主旨)

抵當權設定者ハ質權設定者ト異ナリ設定行爲ハ債務ノ辨濟期前ノ契約ヲ以テ抵當權者ニ辨濟トシテ抵當不動産ノ所有權ヲ取得セシムルコトヲ約定シ得ルモノトス

四一

三二二

○債權カ轉付セラルルトキハ其債權擔保ノ爲メニ存シタル抵當權モ亦共ニ移轉スルモノトス

四

一五七六

○前項ノ場合ニ於テハ前抵當權者ハ新抵當權者ニ對シ抵當權移轉ノ登記義務ヲ負フモノトス

四

一五七八

○債務者カ不動産ヲ他ヨリ買得セントスルニ際シ豫メ其不動産ノ上ニ抵當權ヲ設定スヘキ旨ノ物權的意思表示ヲ爲シタルトキハ其意思表示ハ有效ニシテ他日債務者カ該不動産ノ所有權ヲ取得スルト同時ニ抵當權設定ノ效力ヲ生スルモノトス

四

一七五五

○不動産ノ買主カ代金支拂ノ債務ヲ消費貸借ノ目的ト爲シ其擔保トシテ該不動産ノ上ニ抵當權設定ヲ約シタル場合ニ於テハ其物權的意思表示カ賣買成立ト同時ニ爲サルト他日爲サルヘキ豫約ナルトヲ問ハス有效ナレハ縱令其抵當登記カ賣買成立ノ後ニ爲サレタリトスルモ之カ爲メニ該不動産ハ抵當權ノ負擔ナクシテ買主ノ資産ニ歸シ其一般債權者ノ共同擔保ト爲リタルモノト謂フコトヲ得サルモノトス

五

一〇三三

○不動產ノ賣渡抵當又ハ賣渡擔保トハ賣買ノ形式ニ依リ不動產ヲ擔保ニ供スル一切ノ行爲ヲ汎稱スルモノナレハ其内容及ヒ效力ハ常ニ一定スルモノニ非スシテ當事者ハ法規ニ違反セサル限り契約自由ノ原則ニ從ヒ擔保ノ目的ヲ達スルニ適當ナリト思量スル法律關係ヲ設定シ得ルモノトス

五

一三七四

○債權擔保ノ目的ヲ以テスル信託的所有權讓渡行爲ニ在リテハ第三者トノ關係ニ於テノミ所有權移轉ノ效果ヲ發生シ當事者内部ノ關係ニ於テハ同一ノ效果ヲ發生セサルモノト爲ヌヲ通常トスト雖モ當事者間特別ノ意思表示ヲ以テ外部關係ニ於ケルト共ニ内部關係ニ於テモ所有權ヲ移轉スヘキモノト爲ヌヲ妨ケス

五

一八二二

(同三三)

○賣渡抵當ハ所有權移轉ノ效果ニ制限ヲ加ヘ之ニ依リテ債權擔保ノ目的ヲ達セントスルモノナルカ故ニ第三者ニ對スル外部關係ニ於テハ其所有權ハ債權者ニ移轉スルモ當事者間ノ内部關係ニ於テハ移轉スルコトナク債務者ハ依然トシテ所有權ヲ有スルモノトス

四五

六九一

○明治十八年頃ニ於テモ賣渡抵當ノ如キ信託契約ハ之ヲ禁シタル法規存

五

二九三

○賣渡抵當ニ於テ當事者カ表示スル所有權移轉ノ意思ハ債權擔保ノ目的ニ伴隨シテ制限セラレ當事者間ノ内部關係ニ於テ所有權ヲ留保スルモノナレハ債務者ハ絶對的ニ所有權ヲ債權者ニ移轉スルノ意思ヲ有スルモノト謂フヲ得ス

五

二九三

(同三三)

債務者カ其所有財產ノ名義ヲ移轉スルコトニ依リテ之ヲ其債務ノ擔保ニ供シタル事實アリトスルモ其所有權ハ常ニ必スシモ債權者ニ移轉シタルモノト爲ヌヲ得ヌ裁判所ハ當事者ノ意思ヲ探究シ職權上該移轉行爲ノ性質ヲ決スルノ責務アルモノトス

元

八二五

○第三者カ保證又ハ抵當ヲ以テ信用契約ニ因ル債務ヲ一定ノ限度内ニ於テ擔保シタルトキハ其限度以上ノ債務ニ付テハ責任ナシト雖モ苟モ其限度内ナル以上ハ該債務カ最初金員ノ授受ニ因リテ生シタルモノナルト又ハ最初授受セラレタル金員カ既ニ辨濟セラレ其後更ニ金員ヲ授受シタルニ因リ生シタルモノナルトヲ問ハス之ニ對シ擔保ノ責任アルモノトス

六

二二七

○不動產質權及ヒ抵當權設定ノ如キハ第三者保護ノ爲メ之ヲ登記スルコトヲ必要トスルヲ以テ設定ト同時ニ債權ノ限度ヲ確定スヘキモノナリト雖モ之ヲ以テ一般ノ擔保權ニ及ホスヘキモノニ非ス

六

一六三九

抵押設定ノ義務ヲ負擔シタル者カ其履行ヲ爲ササルトキハ債權者ハ其履行ヲ請求スヘク若シ履行不能ト爲リタルトキハ貸金ノ返濟ヲ求ムヘキモノニシテ債權額ヲ損害金ト看做シ直ニ其要償ヲ請求スルコトヲ得ス

同一地所ニ付キ眞實ノ所有者ト名義上ノ所有者ト併存スル場合ニ於テ名義上ノ所有者ヨリ該地所ヲ抵押ニ取リタル者カ眞實ノ所有者ヨリ書入登記取消ノ訴追ヲ受ケタルトキハ第二者即チ名義上ノ所有者ノ權利ヲ以テ之ニ對抗スルコトヲ得

名義上ノ所有者ヨリ地所ヲ抵押ニ取リタル者ニ對シ其抵押ノ無効ヲ主張スル眞實ノ所有者ハ先ツ名義上ノ所有者ノ權原ニ瑕疵アルコトヲ立證セサルヘカナ

礦區採掘權ヲ金圓貸借ノ抵押ト爲シ債務不履行ノトキハ直ニ該採掘權ヲ引渡スヘシトノ特約ヲ付シアル場合ト雖モ其抵押物ノ處分ハ明治六年第三百六號布告ニ準據スヘキモノニシテ特約ニ依リ直ニ抵押礦區ノ引渡ヲ得ントノ要求ハ不當ナリ

期限到來ノ一事ニ因リ直ニ抵押附貸借ヲ變更シテ賣買ト爲ス合意即チ抵押直流ト爲ス合意ハ條理上許スヘカラサルモノナルニ依リ之ヲ適法ト認メタル裁判ハ抵押ノ原理ニ違背スル不法アリ

戶長ノ與書割印ヲ以テ公證ヲ受ケタル書入質ハ與書割印簿ノ喪失ニ因テ其效力ヲ失フモノニ非ス

一旦法律ノ規定ニ從ヒ有效ニ書入ノ公證ヲ爲シ抵押權ヲ取得シタル以上ハ後日他人ノ行爲ニ由リ公證簿中ニ編綴ノ公證シタル證書カ紛失スルモ其書入公證ノ效力ハ消滅スヘキモノニ非ス

二九	二	三
三〇	四	三
三〇	四	三
三〇	四	三
三〇	二	三
三二	四	一六
三四	一〇	一一

第三百六十九條

○抵押權設定者ハ同時ニ債務者若クハ保證人タル場合ヲ除ク外抵押權ヲ以テ擔保スル債務ヲ躬親ヲ負擔スヘキ者ニ非サルカ故ニ其抵押權ノ實行ヲ免レンカ爲メニ債務ヲ辨濟スル權利ハ之ヲ有スレトモ抵押權者ハ之ニ對シテ唯抵押權ノ實行ヲ爲ス權利アルノミニ止マリ債務ノ辨濟ヲ強要スル權利ナキハ民法施行ノ前後ヲ問ハス是認スヘキ法理ナリトス

○遺贈ノ不動産ニ付キ遺贈者カ生前債權者ノ爲メニ抵押權ヲ設定シタルトキハ受遺者ニ於テ之ヲ他ニ賣渡スト否トニ拘ハラズ債權者ハ其目的物ニ追隨シテ自己ノ權利ヲ行使シ得ルカ故ニ受遺者カ賣却ヲ爲シタル爲メ抵押權者ニ損害ヲ生スヘキモノニ非ス從テ抵押權者ハ詐害行爲取消ノ訴權ヲ有セサルモノトス

第三百七十條

○抵押權ノ目的タル地所若クハ建物ニ附加シテ之ト一體ヲ成シ不動産ト目スヘキモノハ縱令特ニ之ヲ登記スルコトナシト雖モ尙ホ抵押權ノ及フヘキモノトス

○動産カ不動産ニ附加シテ其一部分ヲ成ス場合ニ在ラサレハ之ヲ以テ抵押權ノ目的物トスルヲ得ス

三三	六	一五
三六		七五九
三三	八	一
三元		八八〇

- 動産カ不動産ニ附加シテ抵當權ノ目的物ト爲リタルヤ否ヤヲ定ムルニハ該動産カ抵當物タル不動産ニ附加シテ之ト一體ヲ成スヤ否ヤヲ以テ標準ト爲ササルヘカラス
- 民法第三百七十條ハ抵當權カ抵當地ノ上ニ存スル建物ヲ除ク外其目的タル不動産ニ附加シテ之ト一體ヲ成シタル物ニ及フコトヲ規定シタルモノナレハ之ト一體ヲ成スモノニ非サル法定果實ニ對シテハ抵當權ノ效力ヲ及ホスコトヲ得ス
- 抵當權ハ抵當不動産ノ從トシテ之ニ附合シタル物アル場合ニ於テ其物カ不動産ノ一部ト爲リ獨立ノ存在ヲ有セサルトキハ勿論獨立ノ存在ヲ有スル場合ニ於テモ民法第二百四十二條本文ノ規定ニ依リ不動産所有者カ其物ノ所有權ヲ取得シタルトキハ同第三百七十條ニ依リ其物ニ及フヘシト雖モ附合物カ他人ノ權原ニ因リテ附合セラレ獨立ノ存在ヲ有スルモノナルトキハ他人ニ於テ之カ所有權ヲ有スルカ故ニ其物ヲ以テ抵當權ノ及フヘキ範圍ニ屬スルモノト爲スコトヲ得ス
- 民法第三百七十條ハ不動産ニ附加シタル物カ不動産所有者ニ歸シタル場合ニ關スル規定ニシテ其物カ他人ノ所有ニ屬スル場合ニハ適用ナキモノトス

三元	二	六	六	六
八八〇	四八一	六九五	六九五	六九五

第三百七十一條

『第三百七十一條』

○ 民法第三百七十一條ニ所謂果實ハ天然果實ノミノ謂ニシテ法定果實ヲ包含セス

二

四八一

○ 民法第三百七十一條第一項但書前段ノ規定ハ第三者カ賃借權其他ノ權原ニ基キ抵當不動産上ノ收益ヲ爲ス場合ト雖モ之ヲ以テ抵當權者ニ對抗スルコトヲ得サル限ハ適用スヘキモノトス

四

二三四

○ 民法第三百七十一條第一項但書前段ノ規定ハ抵當權者カ競賣法ニ依リ抵當權ノ實行ニ著手スル場合ヲモ包含スルモノトス

四

二三四

○ 抵當權設定者タル債務者ト第三者トノ間ニ於ケル競賣不動産ヲ目的トセル賃貸借契約ニ因リ生シタル賃料債權ノ如キ法定果實ハ抵當權ノ及フ範圍ニ非サルモノトス

六

九七

第三百七十二條

『第三百七十二條』

○ 抵當權者ハ民法第三百六十九條ノ規定スル權利ノ外尙ホ同法第三百四條所定ノ權利ヲ有スルモノナレハ前條ノ規定ヲ以テ論スヘキ事項ニ付テハ後條ノ規定ヲ適用スヘキモノニ非ス

三七

五五九

○ 債務者カ或擔保ヲ供シテ債務ヲ負擔シタルトキハ債權者ハ其債務ノ履行ヲ受ケタル後ニ非サレハ擔保ヲ解クコトヲ要セス故ニ債務者ヨリ債

權者ニ對シテ其擔保ヲ解カシムル請求權ハ債務履行ノ後ニ非サレハ發生セサルモノトス

(同主旨)

債務者カ或擔保ヲ供シテ債務ヲ負擔シタル場合ニ於テ債務ノ履行ヲ爲スト債權者カ其擔保ヲ解クコトトハ同時ニ之ヲ履行スヘキモノニ非ス債務者カ其債務ヲ履行スル迄ハ債權者ハ擔保ヲ解クコトヲ要セサルカ故ニ債務者ノ爲メニハ其債務ヲ履行シタル上ニ非サレハ擔保ヲ解クコトニ付テノ請求權發生セサルモノトス

○抵當權ハ性質上不可分ナルカ故ニ債權者ノ承諾アルカ又ハ民法第三百七十七條同第三百七十八條ノ如ク明文ヲ以テ例外ヲ設ケタル場合ヲ除ク外縱令債權ノ一部ニ變更ヲ生スルモ其全部ノ辨濟アルニ非サレハ依然トシテ存立スルモノトス

○抵當不動産ノ第三取得者カ民法第五百四條ニ依リ抵當債權ノ一部ニ對シ辨濟ノ責ヲ免レ得ル場合ト雖モ抵當權ノ消滅セサルハ勿論毫モ其變更ヲ生スヘキ理ナケレハ抵當登記ノ變更ヲ許シ得ヘキモノニ非ス

○民法第三百七十二條ニ依リ同第三百四條ノ規定ヲ抵當權ニ準用スル場合ニ於テハ同條ノ所謂債務者トハ抵當權ノ目的タル不動産上ノ權利者ヲ指稱スルモノトス

○遭難船舶カ抵當權ノ目的タルトキハ抵當權者ハ船長又ハ船舶所有者カ

受クヘキ公賣代金ノ殘餘ニ對シテ其權利ヲ行フコトヲ得ヘシ

○探掘權ヲ抵當トシテ金圓ヲ貸付シタル者ハ債權一部ノ辨濟ヲ受クルモ登録抹消又ハ變更ヲ爲スヘキ義務ナシ

○抵當權者カ如上債務者ノ受クヘキ不足額ノ債權ヲ差押ヘタルトキハ抵當權ハ直接ニ其不足額ニ及フモノナルヲ以テ差押抵當權者ハ自己ノ權利トシテ前競落人ニ對シ右不足額ノ支拂ヲ請求スル權利ヲ有スルモノトス

(同主旨)

民事訴訟法第六百八十八條ニ依ル不動産再競賣ノ場合ニ於テ前競落人ノ負擔スヘキ不足額ハ再度ノ競落代價ニ附加シテ共ニ不動産ノ代價ヲ成スモノトス從テ抵當權者ハ該不足額ニ對シ優先權ヲ行フコトヲ得ルモ先シ其拂渡前ニ差押ヲ爲ササルヘカラス

○不動産再競賣ノ場合ニ於テ債務者カ前競落人ヨリ不足額ノ支拂ヲ受クヘキ債權ハ民法第三百四條ニ所謂目的物ノ賣却ニ因リテ債務者ノ受クヘキ金錢ニ外ナラサルヲ以テ競賣不動産ノ上ニ抵當權ヲ有スル債權者ハ之ニ對シテモ抵當權ヲ行フコトヲ得ルモノトス

(同主旨)

不動産再競賣ノ場合ニ於テ再度ノ競落代價カ最初ノ競落代價ヨリ低キトキ前ノ競落人ニ於テ負擔スル不足額ハ民法第三百四條ニ所謂目的物ノ賣却ニ因リテ債務者カ受クヘキ金錢ナリト

四〇 六八五

四二 二六三

二 七三

三元 三四四

三 二七六

三七 二五八

三六 二八三

三元 一〇五三

三元 一〇五三

四〇 二六五

○抵當權者カ如上不足額請求ノ債權ヲ差押ヘ轉付命令ヲ得テ之カ請求ヲ爲ス場合ト雖モ畢竟抵當權ヲ實行スルニ外ナラサレハ轉付債權ノ債務者タル競落人ハ債務者ニ對スル反對債權ヲ以テ相殺ヲ主張スルコトヲ得ス

○民法第三百四條第一項但書及ヒ第三百七十二條ノ規定ハ普通賣買契約ノ場合ニ於テハ代金ノ支拂ヲ受クヘキ債權ハ債務者カ其支拂ヲ受クルニ因リテ消滅スヘク從テ抵當權者ノ權利モ亦消滅ニ歸スヘキヲ以テ其權利ヲ保全セシムル爲メ第三債務者ニ對シ代金支拂ノ差止ヲ爲ス必要ニ出テタルモノトス

○民法第三百七十二條ニ依リ同第三百四條ノ規定ヲ抵當權ニ準用スル場合ニ於テ其所謂受クヘキ金錢其他ノ物トハ目的物ノ滅失若クハ毀損ニ因リ抵當權設定者カ第三者ヨリ受クヘキ損害賠償金若クハ保險金等ノ如ク目的物ノ全部若クハ一部ヲ直接代表スヘキ物ヲ指稱シ抵當權ノ目的物タル家屋カ天災ノ爲メニ崩壞シテ動産ニ變シタル如キ場合ヲ包含セサルモノトス

○民法第三百七十二條ノ準用ニ係ル同第三百四條ハ抵當權ノ目的物ニ付

キ抵當權ノ實行ヲ爲スコトヲ得サル場合ニ於テ抵當權者ヲシテ目的物ニ代ル債權ノ上ニ抵當權ヲ行使セシムル規定ニシテ抵當權者カ現ニ抵當權ノ目的物ニ付キ抵當權ヲ實行スル場合ニハ適用ナキモノトス

第二節 抵當權ノ效力

○抵當權ヲ設定シタル債務者ハ抵當不動産ヲ他ニ讓渡シタル後ト雖モ讓受人ニ對シテハ之ヲ負擔ナキ状態ニ至ラシムル責アル者ナレハ登記取消ノ請求ヲ爲スニ付テ正當ノ利益ヲ有スルモノトス

○當事者カ當座預金貸越契約ノ期間滿了後引續キ同種ノ契約ヲ以テ取引ヲ爲シ其計算ニ前契約ノ貸越ニ屬スル殘額ヲ組入レ更ニ差引計算ヲ遂クルコトヲ約シタルトキハ前契約ノ貸越殘額ハ之ヲ擔保スル抵當權存在ノ儘後契約ノ計算ニ組入レタルモノトス故ニ後契約ノ計算ニ於テ貸越ニ屬スル殘額ヲ生シタル以上ハ前契約ノ貸越殘額ヲ超過セサル金額ニ對シ其抵當權ヲ行フコトヲ得

○抵當權者カ抵當權ノ實行ニ著手シ競賣申立ノ登記ヲ爲シタルトキハ不動産所有者ハ其不動産上ニ地上權其他ノ物權ノ設定登記ヲ爲スコトヲ得サルハ勿論縱令競賣申立ノ登記前ニ成立シタル貸借契約ト雖モ之ヲ登記シテ競賣後ニ存續セシムルヲ得ス

二	四二	三五	六
二	九九七	五	九七

五	三	三	二
二八一	九一〇	二七六	七三

○物上擔保權ノ目的タル不動産ノ買主ハ特約ナキ限り其擔保セラレル債務ヲ承繼スルモノニ非ス從テ買主カ其債務ヲ辨濟シタルトキハ賣主ニ對シ求償權ヲ有スルモノトス

二五〇

○抵當權ノ根抵當權ナルコトヲ以テ第三者ニ對抗スルニハ其登記ニ登記原因、シテ根抵當設定契約ノ記載アルコトヲ要スルモノトス

一九八一

○抵當權ノ設定登記後其目的タル不動産ニ付キ地上權ヲ設定スルモノ之ヲ以テ抵當權者ニ對抗スルコトヲ得サルモノナレハ抵當權者カ其權利ノ實行トシテ抵當不動産ノ競賣ノ申立ヲ爲シ競落許可決定アリタルトキハ該地上權ハ之ニ因リ消滅スルモノトス

六二五

○抵當權ノ設定アル土地ト雖モ其所有者ニ於テ之ヲ分割シ及ヒ其地目ヲ變更シテ土地臺帳ニ之カ記載ヲ爲シ進テ登記簿ニ變更登記ヲ爲スコトヲ妨ケサルモノニシテ之ヲ爲スモ抵當權ノ實行ニ障礙ヲ與フルモノニ非ス

七〇七

○建物ノ存在セサル土地ヲ抵當ト爲シタル場合ニ於テ抵當權設定者ト抵當權者トノ間ニ將來其地上ニ建物ヲ建設シタルトキハ地上權ヲ設定シタルモノト看做ストノ合意ヲ爲スモ該抵當地ノ競落者ニ對シ其効ナケレハ建物ヲ建設シタル抵當權設定者又ハ建物ノ轉得者カ之ニ因リテ地

第三百七十三條

上權ヲ取得スヘキ理ナキモノトス

第三百七十三條

○二番抵當權設定後ニ至リ一番抵當ノ債權額ヲ増加シタルトキハ二番抵當權者ハ抵當權ノ優劣ニ關スル權利關係ヲ速ニ確定スル利益アリ

三七

一一

一〇七

○一箇ノ地所ニ對シ二箇以上ノ抵當權ヲ設定スルモ其抵當權ハ有效ニシテ此場合ニハ登記ノ前後ニ依リ其順位ヲ定ムヘキモノトス

三三

六

一二五

○根抵當ハ之ヲ登記スルトキハ其登記ノ日ヲ以テ債權者ノ順位ヲ定ムルモノトス

三五

一

七二

○抵當權者カ同一ノ抵當物ニ對シ他ノ抵當權者ト順位ヲ争フ場合ニハ抵當物所有者タル債務者ヲ措キ獨リ他ノ抵當權者ニノミ對シテ其請求ヲ爲スヘキモノニ非ス必スヤ債務者ト他ノ抵當權者トニ對シテ同一ニ其關係ヲ確定セサルヘカラス

三七

四六九

○後位ノ抵當權者ノ申請ニ依リ競賣法ニ從ヒ抵當不動産ヲ競賣ニ付シタル場合ト雖モ先位ノ抵當權者ハ其抵當權ヲ行使シテ競賣代金ニ付キ後位ノ抵當權者ニ先テ自己ノ債權ノ辨濟ヲ受クル權利ヲ喪失スルモノニ非ス

三七

五五九

民法 物權 抵當權 抵當權ノ效力

同一ノ地所ニ對シニ簡同等ノ書入權並存スヘキ道理アラス故ニ其日附ノ後ナル證書ハ無論無効ニ屬スルモノトス而シテニ番抵當ハ當初ヨリ其證書ニ其事ヲ記載セサルニ於テハニ番抵當タルノ效力ヲ有セス

第三百七十四條

○民法施行前ニ於テハ抵當權ハ當ニ債權ノ元本ニ優先權ヲ付與シタルノミナラス元本ニ對スル契約上ノ利息ハ勿論遲滯ニ因ル損害賠償ニモ亦其效力ヲ及ホシタルモノトス

(同主旨)

民法施行前ニ於テハ元金支拂期限前ノ利息ト期限後ノ遲延利息トニ區別ナク共ニ優先權ヲ付與シタルモノトス

○民法第三百七十四條ニ所謂利息其他ノ定期金ニハ遲滯利息ヲ包含セス從テ民法施行前ノ設定ニ係ル抵當權ト雖モ其施行以後ニ發生シタル遲延利息ニ付テハ明治三十四年法律第三十六號ノ規定ニ該當セサル限ハ當然其效力ヲ及ホスヘキモノニ非ス

(同主旨)

民法第三百七十四條ニ所謂利息トハ單ニ定期金ノ性質ヲ有スル元金支拂期限前ノ約定利息ノミヲ指シタルモノニシテ元金支拂期限後ノ遲延利息ヲ包含スルモノニ非ス

遲延利息ナルモノハ民法第四百十九條ニ所謂金錢ヲ目的トスル債務ノ不履行ニ因テ生スル損害賠償ニ外ナラサルカ故ニ同法第三百七十四條ニ所謂抵當權ノ利息中ニハ遲延利息ヲ包含セ

三五五 二〇〇

三六 二〇四

三三 二〇七

三六 二〇四

三三 一

サルモノトス

民法第三百七十四條ニ所謂利息トハ元金支拂期限前ノ利息ヲ指シ遲延利息ハ其内ニ包含セス民法第三百七十四條ニアル利息トハ單ニ定期金ノ性質ヲ有スル利息ノミヲ指シタルモノニシテ元金支拂期限後ノ利息即チ所謂遲延利息ヲ包含セス

○重利ノ契約ヲ爲シタル場合ニ於ケル延滯利息ハ既ニ元本ニ組入レラレ其一部ヲ成スモノト解スヘキヲ以テ民法第三百七十四條ノ抵當權ノ行使上元本トシテ論スヘキモノニシテ利息トシテ之ヲ見ルヲ得ス故ニ抵當權設定ノ登記ニ重利ノ契約ヲモ併セ登記スルモ右法條ノ規定ニ抵觸スルモノニ非ス

○明治三十四年法律第三十六號ハ民法第三百七十四條第一項ノ法意ヲ明カニシタル解釋法規ニ外ナラサレハ同法施行以前ニ設定セル抵當權ノ實行ニ關シテモ亦適用アルモノトス

○民法第三百七十四條ニ依ル定期金又ハ損害金ノ特別登記ハ未タ二年分ノ定期金又ハ損害金ヲ生セサル以前ト雖モ苟モ辨濟期到來後ノモノナルニ於テハ之ヲ許スヘキモノトス

○民法第三百七十四條第一項ハ債權者相互ノ關係ニ於テ抵當權ノ效力ノ範圍ヲ制限シ因テ他ノ債權者ヲ保護セントスル旨趣ニ外ナラサレハ抵

三三 六四

三三 一〇七

三四 一六

二 四六六

二 七六三

四 一〇八

當權者ト抵當權設定者又ハ第三取得者トノ間ノ關係ニハ同條項ノ適用

一四六九

ナキモノトス

四

○抵當權設定者又ハ抵當不動産ノ第三取得者ハ抵當權者ニ對シ元本債權

一四六九

ト共ニ滿期ト爲リタル定期金ノ全額ヲ辨濟スルニ非サレハ抵當權ノ消

一四六九

滅ヲ原因トシテ之カ登記抹消ヲ請求スル權利ナキモノトス

四

(第三百七十五條)

『第三百七十五條』

○抵當權ハ設定者ノ意思ニ拘ハラズ抵當權者ノ隨意ニ處分シ得ルキモノ

四

ナレハ其移轉登記ヲ爲スニモ亦設定者ノ意思表示ヲ要セサルモノトス

一五七六

○民法第三百七十五條ノ規定ハ抵當權者カ同一債務者ニ對スル他ノ債權

一五七六

者ノ爲メニ抵當權ヲ拋棄スルコトヲ得セシムル法意ニシテ他ノ債權者

一四一〇

ニ不利益ヲ來ス場合ニ於テハ之ヲ許ササル旨趣ニ非ス

六

(第三百七十六條)

『第三百七十六條』

○民法第三百七十六條ハ抵當權ノ處分ヲ以テ對抗セラルル者ヲ制限的ニ

元

列舉シタル旨趣ナレハ同條ニ主タル債務者ノ外保證人アルヲ援用シテ

一四一〇

向第四百六十七條第二項ノ債務者以外ノ第三者中ニ保證人ヲ包含スル

元

モノト論斷スルヲ得ス

一四一〇

(第三百七十八條)

『第三百七十八條』

○假登記ハ後日本登記ヲ爲シタル場合ニ於テ假登記ノ日ニ遡リ其順位ヲ

保全スルノ效力ヲ生スルニ過キササルヲ以テ假登記權利者ハ民法第三百

五

七十八條ニ所謂第三取得者ニ包含セサルモノトス

一〇七

(第三百八十一條)

『第三百八十一條』

○抵當權者カ抵當不動産ヲ競賣ニ付スルハ其競賣法ニ依ル競賣ナルト將

三七

タ民事訴訟法ニ依ル強制競賣ナルトヲ問ハス苟モ該不動産ニ付キ優先

六五七

ノ辨濟ヲ受クル爲メナル以上ハ等シク抵當權ノ實行ニ外ナラス

三七

○抵當權者カ抵當權ヲ實行セント欲スルトキハ第三取得者ニ其旨ヲ通知

一八三

スルコトヲ要ス而シテ此通知後法定ノ期間内ニ第三取得者ヨリ辨濟又

三七

ハ滌除ノ通知ヲ受ケサルトキ茲ニ始メテ抵當物ノ競賣ヲ請求スルノ權

六五七

利ヲ生ス

三七

○公正證書ニ消費貸借及ヒ抵當權ヲ設定セシ旨ノ記載アルモ實際證書作

二五二

成ノ後登記ヲ經テ貸借ノ目的物ヲ授受シタルトキハ該證書ハ民事訴訟

四

法第五百五十九條ニ規定スル強制執行ノ債務名義ト爲ヌヲ得スト雖モ

六八四

其消費貸借及ヒ抵當權設定ハ必スシモ無効ニ非サルノミナラス判決ヲ

四

埃タスシテ競賣法ニ依リ其抵當權ノ實行ヲ爲スコトヲ妨ケス

二五二

(第三百八十二條)

『第三百八十二條』

民法 物權 抵當權 抵當權ノ效力

○民法第三百八十二條ノ一个月ノ期間ハ第三取得者ヨリ抵當權者ニ對シテ同法第三百八十三條ノ送達ヲ爲スニ付キ定メタルモノニシテ抵當權者カ抵當權ヲ實行スルニハ其通知後一个月ヲ經過セサルヘカラサルノ旨趣ニ非ス

(第三百八十四條)

『第三百八十四條』

○民法第三百八十四條第一項ノ場合ニ於テ滌除權者カ辨濟又ハ供託ヲ爲スヘキ時期ニ付テハ民法中特ニ規定ナシト雖モ抵當權者カ第三取得者ノ提供ヲ承諾シタルモノト看做サレタル時ヨリ遲滯ナク之ヲ爲スコトヲ要スルモノトス

○前項ノ場合ニ於テ滌除權者カ辨濟又ハ供託ヲ遲滯シタルトキハ既ニ爲シタル滌除ノ通知ハ其效力ヲ失フモノニシテ後ニ至リ供託ヲ爲スモ其效ナク抵當權者ハ抵當權ノ實行ヲ爲シ得ルニ至ルモノトス
○民法第三百八十四條第三項ニ依ル擔保ハ遲クトモ競賣法第四十條ノ認許ヲ求ムル迄ニ之ヲ現實ニ供スルコトヲ要スルモノトス

(同主旨)

民法第三百八十四條ニ所謂擔保ノ提供ナルモノハ少ナクトモ增價競賣ノ請求ヲ送達シタル日ヨリ三日内ニ競賣ノ申立ト同時ニ現實ニ之ヲ爲スヘキモノトス

二	五	四	四	三	三
八五五	一〇八	一三四	一八三	一八三	二九五

(第三百八十七條)

『第三百八十七條』

○他人ノ土地ヲ冒認シテ之ヲ抵當ト爲シタル場合ニ於テハ抵當權設定ノ無効ナルハ勿論縱令抵當權者カ抵當物件ヲ競賣ニ付シ競落代金ヲ受領スルモ其競賣ニ因リテ所有權移轉ノ效力ヲ生スヘキ筋合ナク從テ眞ノ所有者ニ損失ナケレハ眞ノ所有者ト抵當權者トノ關係ハ不當利得ノ規定ニ該當セス

○實體上抵當權ヲ有セサル者カ抵當權者ナリトシテ不動産ヲ競賣ニ付スルハ其不動産所有者ノ權利ヲ侵害スルモノニ外ナラサルヲ以テ所有者ノ請求ニ因リ競賣ノ申立ヲ取下ケ競賣手續ノ取消ヲ爲シテ其不動産ヲ原狀ニ復スルノ義務アルモノトス

○抵當權者カ抵當權ノ目的タル山林ニ對シテ權利ノ實行ニ著手シ競賣開始セラレタル場合ニ於テハ其民事訴訟法ニ依ルモノナルト競賣法ニ依ルモノナルトヲ問ハス土地及ヒ之ト一體ヲ成ス立木ニ對シ差押ノ效力ヲ生スルモノトス

○如上ノ場合ニ於テハ不動産所有者ヨリ立木ノミヲ買受ケタル第三者ト雖モ抵當權ヲ無視シテ其目的物ノ價格ヲ減少スヘキ行爲ヲ爲スコトヲ得サルモノナレハ抵當權者ハ其者ニ對シテ立木ノ伐採ヲ差止メ得ルハ

五	元	三六	六	六	六
一〇八三	八三三	九三	一〇三	一〇三	一〇三

勿論既ニ伐採シタルモ尙ホ其地上ニ存スル木材ハ之カ搬出ヲ拒ムコトヲ得ルモノトス

○抵押權者ハ其抵押權設定登記後第三者ノ爲シタル賣買ニ因ル所有權移轉ノ假登記ノ爲メニ抵押權ノ實行ヲ阻害セラルヘキモノニ非サレハ右抵押權ノ實行ニ因ル競賣ハ固ヨリ適法ニシテ之ニ基キ競落シテ所有權ヲ取得シタル者ノ權利ハ假登記ヲ爲シタル者ノ權利ニ優越スルモノトス

第三百八十八條

『第三百八十八條』

○民法第三百八十八條ハ土地及ヒ建物カ同一ノ所有者ニ屬シタル場合ニ於テ土地若クハ建物ノミニ付キ抵押權ヲ設定シ其目的物競賣セララルトキハ建物ハ建物トシテ存在シ得サルコトト爲ルカ故ニ主トシテ其競落人ヲ保護センカ爲メニ設ケラレタルモノトス從テ抵押權設定ノ當時土地及ヒ建物カ各所有者ヲ異ニスルトキハ同條ヲ適用スヘキモノニ非ス

○所有者カ土地及ヒ建物ヲ併セテ抵押ト爲シタル場合ト雖モ競賣ノ際其土地ト建物トカ各競落人ヲ異ニスルトキハ民法第三百八十八條ニ依リ其建物ノ爲メニ當然地上權ノ設定アルモノトス

三六

二九七

三六

一〇三三

三七

四五四

三五

一〇八三

○所有者カ土地及ヒ其上ニ存スル建物ヲ抵押ト爲シタル場合ニ於テ競賣ノ結果土地建物共ニ一旦同一ノ人ニ競落シタルモ爾後建物ノ競落取消サレタルトキハ民法第三百八十八條ニ依リ其建物ノ爲メニ當然地上權ノ設定アルモノトス

三六

二〇〇

○民法第三百八十八條ノ規定ニ依リ地上權ヲ取得セル建物ノ所有者ハ地上權ヲ設定シタル土地ノ所有者及ヒ該土地ノ競落人ニ對シテハ登記ヲクシテ其權利ヲ對抗シ得ルモノトス

三六

三九二

○土地及ヒ其上ニ存スル數箇ノ建物ヲ所有スル者カ其土地ト數箇ノ建物中ノ或建物トヲ抵押ト爲シ其他ノ建物ヲ抵押ト爲ササリシトキハ抵押權者カ抵押權設定ノ當時抵押ト爲ラサリシ建物ノ存在ヲ知リタルト否トヲ問ハス民法第三百八十八條ヲ適用スヘキモノナリ

四二

六七

○民法第三百八十八條ニ所謂建物トハ必スシモ單ニ主タル建物ノミヲ指稱セルモノニ非ス從タル建物ト雖モ主タル建物ヲ目的トシタル抵押權之ニ及ハサル場合ニ於テハ同條ノ適用ヲ妨ケサルモノトス

四二

六七

○民法第三百八十八條ノ規定ハ公益上ノ理由ニ基キ法律ヲ以テ地上權ノ設定ヲ強制スルモノナレハ縱令抵押權設定ノ當事者間ニ於テ抵押地ニ付キ地上權ヲ設定セサル特約ヲ爲スモ之カ爲メニ同條ノ適用ヲ妨クル

モノニ非ス

○民法第三百八十八條ノ規定ハ抵當不動産競賣ノ時ニ地上權ノ設定アリタルモノト看做スヲ以テ其地上權ハ恰モ抵當權設定者ト競落人トノ間ニ於テ之ヲ設定シタルト同一視セルモノトス故ニ抵當地ノ上ニ存スル建物カ民法施行前ヨリ抵當權設定者ノ所有ニ屬スル場合ニ於テ同條ノ規定ニ依リ地上權ノ設定アリタルモノト看做サルトキハ抵當權設定者カ其建物ヲ所有スル事實ニ付キ抵當地ノ競落人ハ明治十九年法律第一號登記法第六條ノ所謂第三者ニ非ス

○同一ノ所有者ニ屬スル土地及ヒ建物ヲ併セテ抵當ト爲シタル場合ニ於テモ競賣ノ際單ニ其土地又ハ建物ノミ競落セラレタルトキハ民法第三百八十八條ヲ適用スヘキモノトス

○民法第三百八十八條ニ依リ發生シタル地上權ハ存續期間ノ定キモノナレハ同第二百六十八條第二項ノ規定ニ從ヒ當事者ノ請求ニ因リ裁判所ニ於テ其期間ヲ定ムヘキモノナレトモ此規定モ亦當事者ノ協議ヲ以テ之ヲ定ムルコトヲ禁スルモノニ非ス

○民法第三百八十八條但書ノ規定ハ當事者カ其協議ヲ以テ地代ヲ定メタルトキハ該協定ニ依ルヘク又其協議調ハサルニ於テハ裁判所ニ請求シ

テ之ヲ定ムルノ法意ナリトス

○民法第三百八十八條ニ所謂競賣ノ場合トハ當ニ抵當權實行ノ爲メニ競賣アリタル場合ノミナラス抵當權者ニ非サル他ノ債權者ノ申立ニ因リ強制競賣アリタル場合ヲモ包含スル旨趣ナリトス

○民法第三百八十八條ハ抵當權設定前ヨリ建物カ土地ノ上ニ存在シタル場合ニ對スル規定ニシテ抵當權設定後建物ヲ建設シタル場合ニ對スル規定ニ非ス

○抵當權ノ目的タル土地ノ上ニ建築セラレタル建物ノ所有者ハ特別ノ理由ナキ限り抵當權ノ實行ニ因ル土地ノ競落人ノ請求アルニ於テハ土地ノ明渡ヲ拒ムヲ得サルモノトス

○土地及ヒ其上ニ存スル建物カ同一ノ所有者ニ屬スル場合ニ於テ其土地又ハ建物ノミヲ抵當ト爲シタル後土地又ハ建物ノ一方カ所有者ニ依リ任意ニ處分セラレ他ノ一方ノミ競賣セララルトキハ民法第三百八十八條ヲ適用スヘキモノニ非ス

(同旨)

同一ノ所有者ニ屬スル土地及ヒ建物ノ一方又ハ雙方カ抵當權ノ目的ト爲リタル場合ニ於テ其一方任意ニ賣買セラレ所有者ヲ異ニシタル後他ノ一方ノ競賣アルトキハ民法第三百八十八條ヲ適用スヘキ限ニ在ラス

四〇	五	四	四	三	四三
二五八	七〇三	一三三	一三三	二九〇	二二三

四

四

四

四

四

四

四

四

四

四

四

六七

六七

六七

六七

六七

六七

六七

六七

六七

六七

○民法第二百八十八條但書ニ地代ハ當事者ノ請求ニ因リ裁判所之ヲ定ムトアルハ裁判所カ創設の宣言ニ依リ當事者間ニ權利關係ヲ發生セシムルノ謂ニ非スシテ既ニ競賣ニ依リ當事者間ニ成立シタルモノト看做サレタル土地權ニ付キ裁判所ハ當事者ノ請求ニ因リ唯其地代ノ數額ヲ定ムルニ過キササルモノナレハ裁判所カ其數額ニ付キ爲シタル確定ノ效力ハ獨リ判決後ニ生スル地代ニ對スルノミナラス地上權設定以後ノ地代ニモ及フモノトス

第三百九十九條

『第三百九十九條』

○抵當權設定ノ後抵當不動産ノ所有權ヲ取得シテ共有者ト爲リタルモノハ其競賣ノ場合ニ第三取得者トシテ競買人ト爲ルコトヲ得

第三百九十二條

『第三百九十二條』

○民法第三百九十二條ハ數人ノ抵當權者間ニ適用スヘキ規定ニシテ數人ノ抵當不動産ノ所有者間ニ適用スヘキ規定ニ非ス
○民法第三百九十二條第二項ニ於ケル次順位抵當權者ノ代位權ハ其抵當權ノ設定ト同時ニ發生スルモノニ非スシテ先順位ノ抵當權者カ或不動産ノ代價ノミニ付キ債權全部ノ辨濟ヲ受ケタル場合ニ始メテ發生スルモノトス

○民法第三百九十二條第二項後段ハ抵當權者カ債權全部ノ辨濟ヲ受ケタル場合ニ於テノミ次順位ノ抵當權者ハ第一項ノ規定ニ從ヒ右ノ抵當權者カ他ノ不動産ニ付キ辨濟ヲ受クヘキ金額ニ滿ツル迄之ニ代位シテ抵當權ヲ行フコトヲ得ル旨ヲ規定シタルモノニシテ先順位ノ抵當權者カ一部ノ辨濟ヲ受ケタルニ止マル場合ハ次順位ノ抵當權者ニ於テ他ノ不動産ニ付キ代位權ヲ行フコトヲ許ササルモノトス

(同法三)

民法第三百九十二條第二項ハ抵當權者カ或不動産ノ代價ヲ以テ債權ノ一部ノ辨濟ヲ受ケタル場合ト雖モ次ノ順位ニ在リ抵當權者ハ之ニ代位シテ他ノ不動産ニ付キ抵當權ヲ行フコトヲ許シタルモノニ非ス

○二番抵當權者カ民法第三百九十二條第二項後段ニ依リ有スル代位權ハ一番抵當權者カ二番抵當權ノ目的不動産ノミニ付キ辨濟ヲ受ケタル爲メ其不動産ニ付キ債權全部ノ辨濟ヲ受クルコトヲ得サル場合ニ始メテ取得スルモノニシテ一番抵當權者カ右ノ辨濟ヲ受ケサル限ハ二番抵當權者ハ單ニ代位スルコトノ希望ヲ有スルニ過キササルモノトス
○一番抵當權者カ二番抵當權ノ目的不動産ノミニ付キ辨濟ヲ受クルニ先チ他ノ抵當不動産ニ付キ抵當權ヲ拋棄スル場合ハ二番抵當權者ハ其拋棄ヲ妨クヘキ何等ノ權利ヲ有スルモノニ非ス

六	六	四一	五
一四一〇	一四一〇	一三〇	二〇八三

四一	四〇	三六	五
一三五	五一九	七七七	一八三

○民法第三百九十二條第二項ハ先順位抵當權者カ同條第一項ノ規定ニ依リ抵當權ノ目的タル各不動産ノ價格ニ準シテ其債權ノ辨濟ヲ受ケタル場合ニ於ケルト同一ノ利益ヲ得セシムルノ旨趣ニ外ナラサレハ先順位抵當權者カ其債權ノ完済ヲ受ケタル或抵當不動産ノ一部カ次順位抵當權ノ目的タルヲ以テ足ルモノトス

第三百九十五條

『第三百九十五條』

○民法上裁判所カ權利者ノ請求ニ因リ或關係ノ解除ヲ命スルコトヲ得ヘキ規定ノ設アル場合ハ實體上ノ法律關係ヲ解除セシムル法意ニ出テ其請求ハ訴ノ形式ニ依ルヲ常トス

○民法第六百二條ノ規定ニ違背セル契約ニ依リ抵當地所ヲ賃借スルモ其賃借權ハ無効ニシテ抵當權者ニ對抗スルコトヲ得ス故ニ其抵當權ノ實行トシテ抵當地所ヲ競賣ニ付スルトキハ競落人ハ完全ナル所有權ヲ取得スルモノニシテ賃借人ハ其競落ノ通知ヲ受クルト同時ニ惡意ノ占有者ト爲ルモノトス

(同主旨)

賃借借ニシテ民法第六百二條ニ定メタル期間ヲ超エ且抵當權登記ノ後ニ登記セラレタルモノハ抵當權者ニ對シ其效力ヲ生セサルカ故ニ抵當權者カ其權利ヲ實行スルニ當テハ賃借借ナキ

○モノトシテ目的タル不動産ヲ競賣スルコトヲ得ヘク從テ競落人モ亦賃借借ナキ不動産ノ所有權ヲ取得スヘシ

○民法第三百九十五條ハ専ラ抵當權者ト賃借人トノ關係ヲ規定シタルモノトス故ニ抵當權者カ其權利ヲ實行シテ競賣不動産ノ競落人ト爲リタル場合ニハ同條ヲ適用スヘキモノニ非ス

○民法第六百二條ニ定メタル賃借借ノ期間ハ同第三百九十五條ノ場合ニ於テモ亦之ヲ更新スルコトヲ妨ケス

○登記簿上第一次ニ賃借權設定ノ登記第二次ニ其權利移轉ノ登記アリテ抵當權者カ民法第三百九十五條但書ノ規定ニ從ヒ第一次ノ登記原因タル賃借借ノ解除ヲ請求スル場合ニ於テ第二次ノ登記原因タル賃借權ノ移轉カ假裝ニ出テタル無効ノ行爲ナルトキハ其第一次及ヒ第二次ノ登記ハ孰レモ之ヲ抹消スルノ必要アルモノトス

○民法第三百九十五條ハ不動産ノ所有者カ未タ其行爲ノ制限ヲ受ケサル通常ノ場合ヲ規定セルモノニシテ競賣ノ申立ニ依リ其行爲ヲ制限セラレタル場合ヲ包含セス

○民法第三百九十五條但書ニ依ル解除ノ宣言ハ賃借借契約ヲ消滅セシムルモノニシテ其關係ハ契約當事者間ニ合一ニノミ確定スヘキモノナレ

三六 七一九

三六 一四七六

四〇 九二七

四二 九三三

二 二

六 一五九六

三五 三七

三六 四一

ハ該訴訟ニ於テハ抵當權者ハ貸貸人及ヒ賃借人ヲ共同被告ト爲スヘキモノトス

○民法第三百九十五條但書ニ依ル賃貸借解除ノ請求ハ競賣申立後ト雖モ競賣手續ノ完結前ニ於テハ尙ホ之ヲ爲シ得ルモノトス

○抵當不動産ニ付キ賃貸借契約ノ存スルトキハ賃料ノ前拂アルト否ト賃料ノ額ノ不當ニ少キト否トニ拘ハラズ抵當物ノ價格ノ損シ抵當權者ニ損害ヲ被ラシムル場合アルヲ以テ此場合ニ在テハ民法第三百九十五條但書ニ依リ抵當權者ヲ害スルモノトシテ其賃貸借ハ解除セラレヘキモノトス

○抵當權ノ設定アル不動産ニ付キ賃貸借ヲ爲シタル場合ニ於テ其賃貸借カ抵當權ヲ妨害スルヤ否ヤハ抵當權ノ實行當時ニ於ケル事情ニ依リテ之ヲ定ムヘキモノトス

○民法第三百九十五條ニ依リ抵當權者カ賃貸借ノ解除ヲ裁判所ニ請求スルニハ貸貸人及ヒ賃借人カ賃貸借ノ登記ヲ爲ス當時抵當權者ニ損害ヲ及ボス事實ヲ知リタルコトヲ要セサルモノトス

第三節 抵當權ノ消滅

○抵當地所ヲ債權者カ買受ケタルトキハ其所有權ノ移轉ト共ニ抵當權ハ

消滅スルモノナリ故ニ縱令公簿上該地所ノ所有權カ債權者ノ名義ト爲ラサルモ債權者ノ承繼人ハ事情ヲ知ラサル第三者ナリト云フコトヲ得ス

○抵當ヲ供シテ金錢ヲ借受ケタル者カ其債務ヲ辨濟スル場合ニハ金錢ヲ授受シテ後抵當權設定登記ヲ抹消スルヲ以テ世間普通ノ状態トス

○抵當權者カ權利ノ實行ニ著手スル以前ニ於テ其目的物タル家屋カ天災ノ爲メニ崩壞シ不動産タル性質ヲ失ヒテ動産ト爲リタルトキハ該抵當權ハ之ニ依リテ消滅スルモノトス

○所有權取得ノ爲メ混同ニ依リ抵當權消滅シタル旨抹消登記ヲ爲シタルモ其所有權取得カ無効ト爲リタルトキハ抵當權消滅ノ原因ナキモノナレハ抵當權カ復活スヘキハ當然ニシテ其所有權取得ノ無効理由如何ヲ問ハス土地所有權者ハ之カ回復手續ヲ爲ス義務アルモノトス

第三編 債權

○行政處分ニ依リ公有ニ屬スル堤防敷地使用ノ權ヲ得タル者ハ使用命令ノ旨趣ニ從ヒ其範圍内ニ於テ該敷地ヲ自己ノ私用ニ供シ之ヲ使用シ得ルニ過キサレハ其權利ハ私權ニシテ而モ一種ノ財產權タルニ止マリ之

四	一五九六
四	一五九六
五	九〇四
五	一〇一六
七	三〇〇

三	四九
五	四三
五	二八一
六	一五九二

ヲ以テ一種ノ物權又ハ債權ナリト云フヲ得ス
 ○反對ノ利害關係ヲ有スル者ト協議ノ上ニ非サレハ行使シ得サル權利ト雖モ其反對ノ利害關係ヲ有スル者ノ承諾カ絕對ニ其自由ナル意見ニ依リテ定マル場合ハ格別取引ノ通念ニ從ヒ適當ト認ムヘキ判斷ニ依リ其諾否ヲ決スヘク若シ不當ニ其承諾ヲ拒ミ又ハ遲延シタルトキハ裁判上其承諾ヲ請求シ得ルカ如キ場合ニ於テハ權利ノ發生ヲ妨クヘキモノニ非ス

第一章 總則

○損害賠償ノ請求權モ亦債權ナリ

○民法第三編第一章債權ノ總則ハ不法行爲ニ因リテ生シタル債權ニ付テモ特ニ反對ノ規定ナキニ於テハ其性質ノ許ス限リ之ヲ適用スヘキモノトス

(同義)

不法行爲ヨリ生シタル債權ニ對シテハ當然民法債權總則ノ規定ヲ適用スヘキモノニ非スシテ法律行爲ニ原因シタル債權ニ關スル規定ヲ適用スヘキモノトス

第一節 債權ノ目的

○範圍ニ於テ不確定ナル給付ヲ確定スルコトハ選擇債務ニ在リテ當事者

ノ一方又ハ第三者カ有效ニ選擇ヲ爲シ得ルト同シク之ヲ相手方其代理人又ハ第三者ニ委任シテ爲サシムルモ民法第百八條ニ依リ無効ナルモノニ非ス

○契約ニ依リ當事者カ或物ヲ給付スルコトヲ約シタル場合ニ於テ當初給付スヘキ物カ具體的ニ確定セサルモ其約旨ニシテ或標準ニ從ヒ之ヲ確定シ得ヘキモノナルトキハ債權者ハ其標準ニ據リテ確定セラルルヘキ物ノ給付ヲ請求スルノ權利アルモノトス

○他人ニ對シ行爲不行爲ヲ請求スルニハ其請求カ一定ノ權利關係ニ基クコトヲ要スルモノトス

(第四百條)

『第四百條』

○生繭カ乾燥繭ト爲リタル一事ハ生繭ノ保存ニ適當ナル手段ヲ盡シタルニ止マリ物ノ同一性ヲ變スル事由ト爲ラサレモノトス從テ賣買契約成立當時ニ在リテハ生繭ナルモ引渡ノ當時ニ在リテハ其生繭カ乾燥繭ト爲リタルカ爲メニ債務ノ目的ノ消滅ヲ來スモノニ非ス

(第四百一條)

『第四百一條』

○民法第四百一條ハ同一種類ノ物品中或物ヲ以テ債權ノ目的物ト爲シタルニ止マリ其物件ヲ特定セサル場合ニ債務者ハ如何ナル品質ヲ有スル

三七	一五二
四	一八七
三	九
三	九四
三	八三四
四	四九

四	一三〇
五	三〇
五	一九三
七	一五五

物ヲ給付スヘキヤヲ定メタルモノニシテ當事者カ其目的物ノ種類ヲ指示セサル場合ニ關スル規定ニ非ス

○當事者カ孟買棉ヲ以テ賣買ノ目的物ト爲シタル場合ハ即チ債權ノ目的物ヲ指示スルニ種類ノミヲ以テシタルモノニ該當ス從テ其種類中ノ細別種類ヲ知了シ能ハサルモ之カ爲メニ法律上不履行ニ因ル損害額ヲ算定スヘキ標準ナシト云フヲ得ス

○民法第四百八條及ヒ第四百九條第二項ノ規定ノ旨趣ハ限定的種類債權ニ於ケル選擇權不行使ノ場合ニモ亦準用セララルヘキモノトス

第四百四條

(參照)

判決執行ニ至ル迄ノ利子ニ付テハ債權者ハ未來ノモノト雖モ訴權ナ有ス故ニ之ヲ辨濟スヘシトノ判決ハ不法ニ非ス

第四百五條

利子ヲ附スヘキ義務アルトキハ元金辨濟ノ日ニ至ル迄ノ利子ヲ附スヘキハ當然ナルニ依リ判決執行ニ至ル迄ノ利子ヲ支拂フヘシトノ裁判ハ相當ナリ

第四百五條

○元本ニ對シ利息ヲ支拂フヘキ場合ニ於テ利息ノ延滞アリタルトキハ債權者ハ特約又ハ法律ノ規定アル場合ノ外其利息ニ相當スル額ヲ以テ當然ニ生シタル損害ナリトシ之カ賠償ヲ受クルコトヲ得サルモノトス

○利息ノ延滞ニ因リ當然生スヘキ損害ノ救濟ニ付テハ特別ノ規定アルヲ以テ民法第四百十九條ノ規定ハ利息債務不履行ノ場合ニハ適用スヘキモノニ非ス

○一定ノ辨濟期ニ利息ヲ支拂ハサル場合ニ於テ之ヲ元本ニ組入レ更ニ利息ヲ生セシムヘキ契約即チ複利契約ハ其利率カ利息制限法第二條ニ定ムル範圍内ナルトキハ同法ニ牴觸セサルノミナラス民法ニ於テモ之ヲ禁セサルモノナレハ契約自由ノ原則ニ依リ有效ナリトス

第四百六條

○選擇債務ニ在リテモ當事者間ニ於テ始ヨリ選擇權ヲ債權者ニ付與スル特約ヲ爲スコトヲ妨ケス

第四百八條、第四百九條

○民法第四百八條及ヒ第四百九條第二項ノ規定ノ旨趣ハ限定的種類債權ニ於ケル選擇權不行使ノ場合ニモ亦準用セララルヘキモノトス

○選擇債務ニ於ケル選擇權カ第三者ニ存スル場合ニ於テ第三者カ債權者又ハ債務者ニ對シ選擇ノ意思表示ヲ爲シタルトキハ相手方ノ承諾ノ有無ニ拘ハラズ其效力ヲ生シ債權ノ目的タル給付ハ茲ニ確定スルモノトス

五	五	四一	六	六	六
九九九	九九九	二五五	二八九	四二一	四二一

六	三二	三〇	五	三九	三九
四二一	四	三	九九九	一六七	三四七

第二節 債權ノ效力

- 或債權ト株式トノ交換ニ因リ損失ヲ被リタル事實ヲ理由トシテ損害賠償ヲ請求スル場合ニ於テハ株式ノ價格ハ特別ノ事情存セサル限り時價ニ依リテ之ヲ定ムヘキモノトス
- 債權關係ノ發生ト同時ニ債權者カ履行ノ請求ヲ爲シ得ヘキ場合ニ於テハ期間ヲ定メテ履行ノ請求ヲ爲シ得ヘキ場合ナルト將タ又債權關係成立當時ノ契約ニ因リ債務者カ履行ノ請求ヲ受ケタル後一定ノ期間内ニ履行ヲ爲スヘキ場合ナルトヲ問ハス斯ル債權關係ノ發生ヲ目的トスル法律行為ハ之ヲ以テ期限ヲ附シタルモノト爲スヲ得ス
- 請求權ノ箇別性ノ標準ハ其主體内容及ヒ原因ノ三者カ皆同一ナル場合ニ於テ同一ノ請求權ナリト爲スヘク其何レカ異ナルトキハ之ヲ別箇ノ請求權ナリト爲ササルヘカラス故ニ生命ヲ害セラレタル場合ニ於ケル財産上ノ賠償請求權ト精神上ノ賠償請求權トハ其原因ヲ異ニスルヲ以テ別箇ノ請求權ナリトス
- 債務者カ其債務ノ履行ニ付キ債權者ノ利益ノ爲メニミ支拂方法ヲ定メタル場合ニ於テハ債權者ハ債務者ノ利益ヲ害セサル範圍ニ於テ自由ニ其特定ノ支拂方法ニ依ラスシテ履行ヲ請求シ得ヘキモノトス

四	三	三	四
一九二〇	六七一	一五二	九五九

第四百十二條

○爲替手形ノ振出カ既存債權取立ノ目的ニ出テタルトキハ當事者間別段ノ意思表示ナキ限り債權者ハ先ツ手形ニ因ル請求權ヲ行使シ其效ナキ場合ニ於テ既存債權ニ基キ之カ辨濟ヲ請求スルヲ相當トス

- 債務ノ履行ヲ確保スル爲メ爲替手形ヲ授受シタル場合ニ債權者カ手形ヲ呈示シ其支拂ヲ求メタルニ拘ハラス之カ支拂ヲ得サルトキハ債權者ハ拒絕證書ノ作成等ヲ爲スコトナク直ニ原債務ノ履行ヲ請求スルコトヲ得ルモノトス

第四百十一條

○遅延利息ハ性質上民法ノ所謂損害賠償ニ外ナラス

- 民法實施前當事者間ノ契約ニ於テ債務者カ期限ニ債務ノ履行ヲ爲ササルトキハ當然遲滞ニ付セラルルモノト爲スヘキ旨ノ意思ヲ特ニ表示シタル場合ニハ其意思表示ハ法律上有效ナルモノトス
- 契約締結後其目的物カ法令ノ發布ニ因リ履行不能ト爲リタル場合ニ於テ債務者カ既ニ遲滞ニ付セラレタルトキハ爾後經濟上ノ趨勢ニ依リ其

三三	三三	三四	六	五
三三	二九	二〇		一〇一九
三五	二	一四二	八三九	
五	一一三	三元		

目的物ノ騰貴シタル價格ニ從ヒテ損害ヲ賠償スヘキモノトス

○賣買ノ當事者雙方カ履行期日ニ提供ヲ爲サスシテ其期日ヲ徒過シタルトキト雖モ各當事者ハ同時履行ノ抗辯權ヲ有シ一方ハ相手方カ其債務ノ履行ヲ提供スル迄ハ自己ノ債務ノ履行ヲ拒ムコトヲ得ルヲ以テ當然遲滯ノ責ニ任スルモノニ非ス

○賣買ニ於ケル履行期日經過ノ後ハ各當事者ハ何時ニテモ一方ヨリ自己ノ債務ノ履行ヲ提供シ相手方ニ對シ其債務ノ履行ヲ請求スルコトヲ得ルモノナルヲ以テ其一方カ相手方ニ對シ履行ヲ請求シ且自己ノ爲スヘキ履行ノ提供ヲ爲シタル場合ニ於テ相手方カ之ヲ拒ミ履行ヲ爲ササルトキハ遲滯ノ責アルモノトス

○買主カ賣買殘代金ニ利息ヲ付シ登記ト同時ニ之ヲ支拂フヘキコトヲ約シタル場合ニ於テ代金辨濟ノ提供ヲ爲シ賣主ヲ遲滯ニ付シタルトキハ爾後利息ノ支拂ヲ免ルヘキモノナレハ裁判所カ契約ニ基ク利息ノ請求ニ付テハ懈怠ノ有無ヲ問フノ要ナキカ如ク判示シタルハ失當ナリ

○請負契約ハ雙務契約ナレハ當事者ノ一方ハ民法第五百三十三條ノ規定ニ依リ相手方カ債務ヲ履行セサル限り自己ノ債務ヲ履行セサルモ遲滯ノ責ヲ負フコトナシト雖モ相手方カ其債務ヲ履行シタルニ拘ハラズ自

三九
二五八

二
九九三

二
九九三

五
八〇五

己ノ債務ヲ履行セサルニ於テハ遲滯ノ責ニ任セサルヘカラサルハ論ヲ竣タス

○雙務契約ニ因リテ生シタル債務カ同時ニ履行ヲ爲スヘキ場合ニ於テハ縱令履行期限ノ定アルモ其到來ト同時ニ債務者ハ遲滯ノ責ニ任スヘキモノニ非スシテ相手方カ履行ノ提供ヲ爲シタルニ拘ハラズ自己ノ債務ヲ履行セサル場合ニ於テ始メテ遲滯ノ責ニ任スヘキモノトス

○不確定期限附債務ノ債務者ハ期限ノ到來ヲ知りタル時ヨリ遲滯ノ責ニ任スヘキモノナレハ之ヲ知りタルヤ否ヤノ事實ヲ確定セスシテ期限到來ノ時ヨリ遲滯ノ責ニ任セシタル判決ハ失當ナリ

○鑛山代金ノ辨濟時期ヲ債務者經營ノ金鑛製煉事業ニ付キ純益ヲ生シタル時ト爲シタルトキハ債務ノ履行ニ付キ不確定期限ヲ約シタルモノト謂ハサルヘカラス

○如上ノ場合ニ於テ債務者カ該金鑛ノ鑛業權ヲ他人ニ讓渡シ期限ノ到達ヲ全然不能ト爲シタルトキハ當事者ノ真意ハ直ニ辨濟期限到來シタルモノト做シ其代金ノ全部ヲ支拂フニ在リタルモノト解スルヲ相當トス

五
二二〇

六
六四九

四
一九三五

六
一〇〇二

六
一〇〇二

三
九三五

○債務履行ノ催告ハ縱令數額ニ不當ノ點アルモ其請求ノ範圍内ニ於テ債務ノ限度迄ハ付遲滞ノ效ヲ生スヘキモノトス

○債務者ノ遲滞ハ履行期限ヲ定メサル場合ニハ催告ヲ要スルモ其催告ハ法律ニ特別ノ規定アル場合ノ外必スシモ相當ノ猶豫期間ヲ定メテ之ヲ爲スコトヲ要セス

○民法第四百十二條第三項ニ所謂請求ヲ受ケタル時トハ裁判上ノ請求ニ在テハ訴狀カ相手方タル債務者ニ送達セラレタル時ヲ謂フ

(反對)

訴ノ提起ハ相手方ニ對シ請求ノ效力ヲ生スルモノトス故ニ返還時期ノ定ナキ預金ノ債務者ハ訴ノ提起ニ因リ返還ノ請求ヲ受ケタルモノ即チ遲滞ノ狀態ニ在ルモノト云ハサルヘカラス

(刑)

○債務ニ付キ履行期限ノ定ナキ場合ニ於テハ遲延利息ハ債權者カ履行ノ請求ヲ爲シタル事實アリテ始メテ其請求ノ時ヨリ以後ノモノヲ債務者ニ負擔セシムルモノトス而シテ此法則ハ契約不履行ノ場合ナルト否トニ依リ其適用ヲ異ニスヘキモノニ非ス

○買主カ賣買契約ノ履行上代金ノ支拂ニ付キ遲滞ノ責アルトキト雖モ其不履行ニ由リ生シタル損害金ヲ賠償スヘキ債務ニ至テハ更ニ之カ履行ニ付キ遲滞ニ付セラレタル場合ニ非サレハ賣主ハ其損害ニ對シ法定利率ニ相當スル損害金ヲ請求シ得サルモノトス

○履行ノ請求ハ債務ノ履行ヲ促ス意思ノ發表ナレハ給付ノ訴ニ依ル履行ノ請求ト雖モ訴ノ提起カ履行請求ノ效力ヲ生スルモノニ非スシテ訴狀ニ包含スル債務ノ履行ヲ促ス意思ノ發表カ訴狀ノ送達ニ因リ其效力ヲ生スルモノトス故ニ訴ノ提起カ訴訟法上有效ナラサリシト否ト後ニ訴ノ取下アリタルト否トハ履行請求ノ效力ニ何等ノ影響ナシ

○山林ノ立木ヲ賣買シタルニ其一部カ伐採不許可ノ爲メ賣買ノ目的ヨリ除外セラレタル場合ニ於テ裁判所カ其代金請求額ヲ相當額ニ減少シタルトキハ縱令請求ノ數額ニ於テ不當ノ點アリトスルモ買受人ハ相當代金ヲ支拂フヘキ義務アルモノナレハ右相當額ノ限度迄訴狀送達ノ日ヨリ遲滞ニ付セラレヘキモノトス

○合資會社カ其退社員ニ持分ヲ拂戻スヘキ債務ノ履行期ニ付テハ法律ニ之ヲ定ムル所ナキカ故ニ遲滞ノ責任ハ債務者タル會社カ請求ヲ受ケタル時ヨリ生スヘキモノニシテ退社ノ時ヨリ生スヘキモノニ非ス

○不當利得ノ債務ト雖モ遲延利息ノ義務アルモノトス

(參照)

義務履行ニ付キ特約アル場合ハ債務者ヲ遲滞ニ付スルヲ要セス

四三	三四五
二	四六三
二	一〇五
七四	八四
七	二七二
二六	一一〇

三六	七八一
四	二五一
四	一一五
三六	一〇三九
四三	一四〇三

月賦辨濟ノ延滞ヲ以テ遲滞ニ付スルコトヲ約定シタルトキハ更ニ遲滞ニ付スルノ手續ヲ行フヲ要セス
月賦辨濟ノ延滞ニ因リ利息ヲ加フヘキ合意アルトキハ催告ヲ要セスシテ之ヲ請求スルコトヲ得

(刑)

金錢上ノ取引ニ付テハ金圓ノ性質如何ニ拘ハラズ利子ノ契約ナキモノハ債務者カ遲滞ニ付セラレタルトキヨリ法律上ノ利子ヲ生スルヲ以テ一般ノ法理トス
犯罪ヲ原因トシテ損害賠償ヲ請求スル場合ニ在リテハ遲滞ノ條件ヲ要セスシテ當然利息ヲ生スヘキモノトス

立替金ハ利息ヲ附セサル貸金ト同シク遲滞ニ付セスシテ當然利息ヲ生スルモノニ非ス
債務ノ履行ニ付キ確定期限アリ其期限到來シタル上ハ債權者ヨリ特ニ請求若クハ合式ノ催告等ヲ爲スナ候タス債務者ハ當然遲滞ノ責ニ任スヘキモノトス

『第四百十四條』

○債務者カ或物ノ給付ヲ怠リタル場合ニ於テ債權者ハ單ニ直接履行ノミヲ請求シ債務者ノ直接履行ヲ爲スコト能ハサル場合ヲ豫想シ直接履行ノ請求ニ附加シ之ニ代ルヘキ損害賠償ヲ請求シタルトキハ其損害ノ數額ハ判決當時其物ノ有スル價額ヲ以テ標準ト爲スヘキモノトス

(同主旨)

債務者カ任意ニ債務ノ履行ヲ爲ササル爲メ債權者ヨリ單ニ直接履行ノミヲ請求シタル場合ニ於テ債務者ノ履行ヲ爲シ能ハサルコトヲ豫想シ物件給付ノ請求ニ附加シテ之ニ代ルヘキ損害

第四百十四條

四條

賠償ヲ請求シタルトキハ其賠償額ハ判決當時其物ノ有スル價格ヲ標準トシテ之ヲ算定スヘキモノトス

○官有地ノ貸下又ハ山林ノ拂下ヲ出願スル行爲ハ私法上ノ行爲ニ外ナラサレハ其行爲ヲ目的トスル債務ニ付テハ裁判ヲ以テ債務者ノ意思表示ニ代フルコトヲ得

第四百十五條

『第四百十五條』

○債務者カ債務ノ本旨ニ從ヒ履行ヲ爲ササルトキハ其目的物カ不特定物ナルト否ト又滅盡シタルト否トニ拘ハラズ債權者ハ其損害ノ賠償ヲ請求スルヲ得ヘシ

○債權者ハ債權ノ目的物カ滅失シテ履行ノ不能ニ歸シタル場合ニ限り損害賠償ノ權利ヲ有スルモノニ非ス債務者カ債務ノ本旨ニ從ヒタル履行ヲ爲ササルトキ又ハ其責ニ歸スヘキ事由ニ因リテ履行ヲ爲スコト能ハサルニ至リタルトキニモ亦此權利ヲ有ス

○民法施行前ニ於テハ預金返還ノ方法ヲ定メタル契約カ債務者ノ責ニ歸スヘキ事由ニ因リ全ク履行スルコト能ハサルニ至リタルトキハ債權者ハ直ニ預金ノ返還ヲ請求シ得タルモノトス
○賣買契約ノ不履行ヲ原因トスル損害賠償請求ノ訴ニ於テ損害ノ數額ヲ

五	四	三	三	三
二四二	一三六	二二五	一〇九	八一五

七	三	三〇	三〇	二九	二九	二九
五一	七	七	七	七	七	七

○算定スルニハ必スシモ契約履行地ニ於ケル目的物ノ價格ヲ以テ標準ト爲ササルヘカラサルモノニ非ス

三六

九三六

○債務者カ契約ノ履行ヲ怠リタル以上ハ爾後其責ニ歸スヘカラサル事由

ニ因リテ履行不能ト爲ルモ其履行ニ關シテ責任ヲ免ルルコトヲ得ス

三元

一三五八

○債務者ハ履行不能又ハ不可抗力ノ場合ヲ除ク外過失ノ有無ニ拘ハラズ其不履行ノ責ヲ免ルルコトヲ得サルモノトス

四二

一〇一

(同主旨)

債務不履行ノ事實アルニ於テハ其債務者ノ故意又ハ過失ニ基因スルト否トヲ問ハズ債權者ハ民法第四百十五條ニ依リ損害ノ賠償ヲ請求スルコトヲ得

四〇

一〇六七

○商人カ營業ノ目的トシテ或物品ヲ買受ケタルモ賣主カ契約ヲ履行セサル場合ニ於テ其履行期限後ニ至リ目的物ノ價格騰貴シタルトキハ縱令買主ニ於テ實際之ヲ他ニ賣却セサルモ賣主ニ對シテ其騰貴シタル差額ノ賠償ヲ請求シ得ルモノトス

四一

二九〇

(同主旨)

賣買ノ後其目的物ノ價格カ經濟上ノ趨勢ニ因リ自然ニ騰貴シタル場合ニ於テ賣主カ契約ヲ履行セサルトキハ買主ハ買受ケタルト同一ノ代價ヲ以テ他人ニ其目的物ヲ賣渡シタルト否トニ拘ハラズ賣主ニ對シテ騰貴額ノ賠償ヲ請求シ得ルモノトス

三八

一〇七

○無盡講ノ世話人ニシテ約定期日ニ開會ノ手續ヲ爲シ講員ヨリ掛金ヲ徴

集シ之ヲ當籤者ニ交付スルノ義務ヲ負フ者カ其義務ニ違背シ該期日ニ開會ヲ爲ササル爲メ未當籤者タル講員ニ於テ掛込金及ヒ利金ノ辨償ヲ請求スルハ即チ債務ノ不履行ニ基ク損害ノ賠償ヲ要ムルモノニ外ナラス

四二

九六一

○不動産ノ受寄者カ擅ニ其目的物ヲ他人ニ賣渡シテ登記ヲ爲シ買戻其他ノ方法ニ依リテ之ヲ自己ノ手裡ニ回復シ得サル場合ニ於テハ既ニ寄託者ニ對シテ返還ノ義務ヲ履行スルコト能ハサルモノナルハ理論上其不動産ヲ買戻シ得ルノ一事ニ依リ寄託者ハ先ツ物ノ返還ヲ要求シ其不履行アリタルトキ始メテ損害賠償ヲ請求セサルヘカラサルモノニ非ス

四一

一一〇六

○主タル債務ノ不履行ニ因リ相手方ニ損害ヲ生セシメタルトキハ主債務者ハ既ニ契約ノ解除アリタルト否トニ論ナク其損害ヲ賠償スル責任ニ任セサルヘカラス從テ主タル債務ヲ擔保セル保證債務モ亦特別ノ事情ナキ限ハ其損害賠償ノ責任ヲ包含スルモノトス

四三

三三五

○債務者カ自己ノ債務ヲ履行スヘキ日ニ其履行ヲ怠リタルトキハ債權者ハ之カ爲メニ同日ヨリ損害ヲ被フルモノナルハ債權者ニ於テ其日ヨリノ損害ヲ賠償スルヲ當然トス

四三

九五九

○當事者ノ一方カ他ノ一方ニ對シ所有權移轉ノ登記手續ヲ爲スヘキ義務

○ヲ負ヒタル場合ニ在テハ其義務履行ノ當時其目的物ニ付キ所有權ヲ有セサル一事ハ義務履行ノ絕對的不能ノ原因ト爲ラサルヲ以テ法律上爲シ能フ限ハ其義務ヲ履行スルニ必要ナル行爲ヲ爲スヘキヲ當然ノ法則ナリトス

○契約上ノ義務履行ニ付キ特約ニ因リ責任ノ程度ヲ輕重スルコトハ故意ノ責ヲ負ハサル旨ノ特約ヲ除ク外公ノ秩序ニ反スル所ナク又法律ノ禁止スル所ニモ非サルヲ以テ賃借人カ重大ナル過失ナキモ失火ノ責ニ任スヘキ旨ノ特約ハ有效ナリトス

(聯) ○家屋ノ賃借人カ失火ニ因リ其家屋ヲ燒失セシメ因テ之カ返還義務ヲ履行セサルトキハ一面ニ於テ不法行爲タルト同時ニ他ノ一面ニ於テハ債務ノ不履行ナリトス從テ民法第七百九條ノ責任ナキ場合ト雖モ同第四百十五條ノ責任ヲ免ルルコトヲ得ス

○買主カ契約ニ違背シテ目的物ヲ引取ラサルモ賣買契約ノ解除セラレサル限り賣主ハ約定ノ代金ヲ請求スルコトヲ得ルヲ以テ其目的物ノ低落シタルカ爲メ賣主ハ右約定代金ト低落シタル時價トノ差額ヲ損害賠償トシテ請求スルヲ得ス

○請負工事ノ履行不能カ請負人ノ責ニ歸スヘキ事由ニ原因シタルトキハ

元	四五	四五	四
1015	三五	二八四	三七一

注 文 者 ハ 損 害 ノ 賠 償 ヲ 請 求 ス ル コ ト ヲ 得 ル モ 請 負 人 ノ 既 ニ 爲 シ タ ル 工 事 ノ 部 分 ニ 對 シ 報 酬 ノ 幾 部 ニ 相 當 ス ル 金 額 ノ 支 拂 ヲ 免 ル ル コ ト ヲ 得 ス

○ 民 法 第 四 百 十 五 條 同 第 五 百 四 十 三 條 ニ 所 謂 履 行 不 能 ハ 必 ス シ モ 物 理 的 不 能 ヲ 意 味 ス ル モ ノ ニ 非 ス 一 般 取 引 ノ 觀 念 ニ 從 ヒ 之 ヲ 不 能 視 ス ヘ キ モ ノ ナ ル ト キ ハ 其 履 行 ハ 尙 ホ 不 能 タ ル ヲ 妨 ゲ ス

○ 賣 主 カ 賣 買 ノ 目 的 物 ヲ 第 三 者 ニ 讓 渡 シ タ ル 場 合 ニ 於 テ 之 ヲ 第 三 者 ヲ 以 リ 回 復 シ 買 主 ニ 移 轉 ス ル コ ト ハ 取 引 上 ノ 通 念 ニ 於 テ 不 能 ニ 屬 ス ヘ キ モ ノ ト ス 從 テ 買 主 ハ 賣 主 ニ 對 シ 全 部 賠 償 ノ 請 求 權 及 ビ 契 約 解 除 權 ヲ 有 ス ル モ ノ ト 云 ハ サ ル ヘ カ ラ ス

(反 對)

○ 單 ニ 買 戻 特 約 ア ル 不 動 產 特 約 條 件 ナ 附 セ ス 他 ニ 賣 却 シ タ リ ト ノ 事 實 ノ ミ ニ テ ハ 法 律 上 履 行 ノ 不 能 ト 看 做 シ 得 ヘ カ ラ サ ル モ ノ ト ス

○ 債 務 者 ノ 遲 滯 後 ニ 於 ケ ル 給 付 カ 債 權 者 ノ 利 益 ト 爲 ラ サ ル カ 又 ハ 遲 滯 ノ 爲 メ 給 付 不 能 ヲ 生 ス ル カ 如 キ 特 別 ノ 事 由 ナ キ 限 リ 契 約 上 ノ 債 務 ニ 對 シ テ ハ 債 權 者 ハ 契 約 ヲ 解 除 シ タ ル 後 ニ 非 サ レ ハ 履 行 ニ 代 ル ヘ キ 全 部 ノ 損 害 賠 償 ヲ 請 求 ス ル コ ト ヲ 得 サ ル モ ノ ト ス

(反 對)

元	二	二	四
1066	三七	三三七	九三一

債務不履行ニ因リテ生シタル損害ノ賠償ヲ請求スル場合ニ於テ債權者ハ必スシモ之ト同時ニ契約解除ノ請求ヲ爲スコトヲ要セス
債務不履行ノ爲メ損害ヲ被フリタルトキハ債權者ハ契約ヲ解除セスシテ損害賠償ノ請求ヲ爲スコトヲ得

○身體ニ創傷ヲ受ケタルカ爲メニ損害賠償ヲ請求スルニハ債務不履行ノ場合ナルト將タ不法行爲ノ場合ナルトヲ問ハス其創傷ニ因リテ財産上若クハ精神上ノ損害ヲ受ケタル事實アルコトヲ要ス

○債務者ノ遲滞ニ因リテ生シタル損害ヲ賠償スル責任ハ其遲滞カ過失ニ因リテ生シタル場合ニ付テハ契約自由ノ一般ノ原則ニ從ヒ當事者間ノ特約ヲ以テ豫メ之ヲ免ルルコトヲ得ヘシト雖モ其遲滞カ故意ニ因リテ生シタル場合ニ付テハ如上ノ特約ヲ爲スコトヲ得サルモノトス

○委託者カ一定ノ場節ノ成行相場ヲ以テ買埋ヲ注文シタル場合ニ其場節ニ於テ相場カ成立セサルトキハ其履行ハ仲買人ノ責ニ歸スヘカラサル事由ニ因リ不能ト爲リタルモノナレハ仲買人ハ更ニ委託者カ買埋ヲ注文シタルニ拘ハラズ之ヲ履行セサル場合ノ外ハ義務不履行ノ責ニ任スヘキモノニ非ス

○同一事實關係ニシテ一面ニ於テ債務不履行ト爲ルト同時ニ他面ニ於テ不法行爲ト爲リ契約上ノ請求權ト不法行爲上ノ請求權トカ相競合スル

コトアルハ民法上認めラレサルモノニ非ス

○債務者カ或物ノ給付ヲ怠リタルニ因リ債權者ヨリ履行ニ代ルヘキ填補賠償若クハ遲滞ヨリ生スル補充賠償ヲ請求スル場合ニ於ケル賠償額ハ返還義務ノ發生シタル時期ニ於ケル該物件ノ價額ヲ以テ標準ト爲スト又賠償請求當時若クハ判決當時ノ價格ニ依ルトハ一ニ債權者ノ自由選擇ニ屬スルモノトス

○家屋ノ賃借人カ賃借物占據ノ權利ナキニ拘ハラズ之ヲ賃借人ニ返還セス不法ニ其占有ヲ繼續シテ賃借人ニ損害ヲ被ムラシメタルトキハ賃借人ハ一面ニ賃借物返還ノ義務ヲ履行セサルト同時ニ賃借人ノ權利ヲ侵害スル不法行爲タルヲ以テ賃借人ハ債務不履行若クハ不法行爲ヲ原因トシテ損害ノ賠償ヲ請求スルコトヲ得ルモノトス

(參照)

買賣契約ノ豫定期限經過セシ後ト雖モ當事者ノ一方カ他ノ一方ニ對シ何等ノ行爲ヲモ爲サス其契約ヲシテ履行シ能ハサルコトニ至ラシメタルトキハ其一方ハ違約ノ責任アルモノトス
債務者カ預リ證券引替ニ自己ノ倉庫中ニ存在スル物ノ引渡ヲ明約シ乍ラ其物ヲ現存セシメ置ガザル場合ニ於テハ債權者ハ更ニ同品同數量ノ物ヲ要求スルト之カ損害賠償ヲ請求スルトハ其自由ニ屬ス

(第四百十六條)

第四百十六條

民法 債權 總則 債權ノ效力

六	七	七	二九	三
一八二	五二	九七六	六〇	一

六	五	五	三四	三
八九六	二〇〇	四	三九	九九

○債務ノ不履行ヲ原因トシ債務者ニ賠償セシムヘキ損害ハ其不履行ニ由リテ通常生スヘキモノ又ハ特別ノ事情ニ由リ生シタルモ當事者ニ於テ之ヲ豫見シ若クハ豫見シ得ヘカリシモノニ限ルコトハ普通ノ法理ナリトス

○損害賠償請求ノ訴權ハ現ニ損害ヲ受ケタル事實アリテ初メテ發生スルモノナルカ故ニ單ニ損害ヲ受ケタルトキノ豫備トシテ其支拂ヲ爲サシメントスルカ如キハ固ヨリ許容スヘカラサル不當ノ請求ナリトス

○債務ノ不履行ニ因リテ生シタル損害カ通常生スヘキモノナルヤ將タ特別ノ事情ニ因リテ生シタルモノナルヤハ事實上ノ問題ニシテ法律上ノ問題ニ非ス

○契約ノ不履行ニ因リテ生シタル損害賠償ノ責任ハ其不履行ニ基キ該契約ノ解除セラレタルト否トニ從ヒテ之カ範圍ヲ異ニスルモノニ非ス

○民法第四百十六條第一項ニ依ル損害賠償ノ請求ハ債務ノ不履行ニ因リ債權者ニ於テ現ニ損害ヲ蒙リタルカ又ハ現ニ得ヘキ利益ヲ失ヒタル事實アルヲ要ス

○旅客運送契約ノ債務不履行ニ因ル損害ノ賠償ハ被害者ヲシテ其現ニ被ムリタル損失ノ賠償ハ勿論尙ホ將來得ヘカリシ利得喪失ノ賠償ヲモ得

セシムルヲ以テ目的トスルモノトス

○他人ノ身體ヲ侵害シタル場合ニ於テ被害者カ得ヘカリシ利益ノ喪失ニ對スル賠償額ヲ定ムルニ當リテハ一方ニ於テ一時ニ賠償金額ノ支拂ヲ命スヘキ場合ト毎年又ハ毎月支拂ヲ命スヘキ場合トハ其總額ニ於テ多少ノ差異アルヘキコトニ留意シ他方ニ於テ被害者ノ得ヘカリシ收入額中ヨリ其生活ノ爲メニ費消スヘカリシ金額ヲ控除スヘキモノトシテ斟酌セサルヘカラス

○債務ノ不履行ニ因ル損害賠償額ハ不履行ノ爲メ實際債權者ノ利益ニ影響ヲ及ホシタル事實ニ依リテ之ヲ定ムヘキモノナルヲ以テ債權者ノ被ムリタル損害カ其得ヘカリシ利益ノ喪失ニ係ル場合ニ於テモ實際ノ事情ニ基キテ其賠償額ヲ判定セサルヘカラス
○債務不履行ノ結果提起セラレタル訴訟ニ於テ辯護士ニ訴訟代理ヲ委任シタル場合ト雖モ債務者ハ民事訴訟費用法ノ規定ノ範圍外ニ於テ賠償ノ責ニ任セサルヲ以テ辯護士ニ支拂ヒタル報酬及ヒ手数料ハ之ヲ賠償スルノ要ナキモノトス

(同主旨)

辯護士ニ支拂ヒタル報酬ニシテ訴訟費用ノ言渡中ニ包含セサルモノハ損害賠償トシテ相手方ニ對シテ要求スルヲ得ス

二 九一〇

二 九一〇

三 四六

四 七五

三 五八

三 四

三 五

三 二

三 二一〇

三 六五五

○不法行為ヨリ生スル損害ノ賠償ニ付テハ民法第四百十六條ヲ適用スヘキモノニ非ス苟モ其行為ト損害トノ間ニ因果關係ヲ有スル以上ハ其損害力通常生スヘキモノナルト又特別ノ事情ニ因リテ生シタルモノナルトヲ問ハス等シク加害者ニ於テ之カ賠償ヲ爲ス義務ヲ有スルモノトス

○債務不履行ヲ原因トスル契約解除ニ基ク損害賠償タル差額ヲ算定スルニハ必スシモ契約解除當時ノ時價ヲ標準トスルヲ要セス苟モ其差額カ債務不履行ノ爲メニ其不履行ノ事實アリタル以後ニ於テ事物自然ノ趨勢ニ從ヒ生シタル損害額ト爲スニ足ルモノナル以上ハ契約解除以前ニ生シタルモノナルト否トヲ問ハス之カ賠償ヲ求ムルコトヲ得ルモノトス

(同主旨)

賣主カ買主ノ代金支拂ノ債務不履行ヲ原因トシテ賣買契約ヲ解除シタル上多少ノ時日ヲ經過シタル後ニ至リ該賣買ノ目的タリシ物件ヲ下落シタル時價ニテ他ニ賣却シタル場合ト雖モ其代金ト時價トノ差額ヲ以テ契約解除ノ爲メニ事物自然ノ趨勢ニ從ヒ通常生スヘキ損害ト爲スニ足ル以上ハ之ヲ損害額トシテ賠償ヲ求ムルコトヲ得ルモノトス

○契約解除ニ基ク賠償請求權ノ目的タル損害カ苟モ債務不履行ニ因リテ通常生スヘキモノナルニ於テハ縱令契約解除後ニ生シタルモノト雖モ普通ノ取引觀念ニ於テ其間ニ因果關係ノ存スルモノト認ムヘキ以上ハ賠償ノ請求ヲ爲スナ妨ケサルモノトス

七

五

七

六

二六九

一九九

二六〇

一〇三

○不當ノ假處分ニ因リ賣買契約ヲ解除シ手附金倍還シノ損害ヲ被フリシコトニ付テハ假處分申請者ニ於テ其當時手附金ノ關係ヲ豫見シ又ハ豫見シ得ヘカリシ事實アリヤ否ヤヲ確定シ以テ賠償責任ノ有無ヲ判定セサルヘカラス

三七

二七九

○債權者カ民法第四百十六條第二項ノ規定ニ基キ特別ノ事實ヲ主張シテ損害賠償ヲ請求スル場合ニ於テ反對ノ意思表示アラサル限り其請求ハ同條第一項ノ通常生スヘキ損害ノ賠償ヲ請求スル旨趣ヲ包含スルモノトス

四二

四七七

○賣主カ契約ノ目的物タル架橋用石材ヲ期限内ニ引渡ササル爲メ買主ニ於テ其石材ノ供給ヲ約シタル第三者ニ對シ義務ヲ履行スルコト能ハサルニ至リタルヨリ一時履行ノ猶豫ヲ求メ假橋架設ノ用材ヲ供與シタルトキハ其出捐ハ民法第四百十六條第二項ノ所謂特別ノ事情ニ因リテ生シタル損害ニ外ナラス

四一

一〇七三

○特別事情ノ豫見ハ債務ノ履行期迄ニ履行期後ノ事情ヲ前知スルノ義ナレハ豫見ノ時期ハ債務ノ履行期迄ナリト解スルヲ相當トス

七

一六八

(參照)

或場合ニ於ケル利子ノ請求ハ損害賠償ニ異ナラスト雖モ其損害タルヤ未確定ノモノニ非ス必

然發生スヘキモノニシテ唯其目數ノ未定ナルカ爲メ起訴ノ當時ニ於テ其金高ヲ明カニ計算シ能ハサルニ過キサルモノナレハ損害ノ有無判然セサル場合ト同一ニ論スルヲ得ス
出訴後ノ利子ハ必然生スヘキモノナルヲ以テ起訴ノ當時ニ於テ請求權ノ發生セサルモノト云フヲ得ス

〔第四百十七條〕

○民法第四百十七條ニ所謂金錢トハ内國通用ノ法定貨幣ノミヲ指稱セルモノトス從テ被害者カ單ニ加害者ノ不法行爲ヲ原因ト爲シ其損害賠償トシテ外國通用貨幣ノ給付ヲ要メタルハ不合法ナリ

〔第四百十九條〕

○不法行爲ニ因ル賠償ノ遲延ヨリ生スル損害賠償額ハ法定利率ニ依リ之ヲ算定スヘキモノニシテ法定利率ハ年五分ナリトス
○消費貸借ノ場合ニ於テ借主カ遲滯ニ付セラレタルトキハ貸主ハ利息ニ關スル約定ノ有無ニ拘ハラズ法定利率ニ依ル損害ノ賠償ヲ請求スルノ權利アリ

○金錢ヲ目的トスル債務ヲ履行セサル者カ其不履行ニ因ル損害トシテ約定利率ニ相當スル金額ヲ賠償スルノ責ニ任スヘキコトハ民法施行前ニ於テモ是認セラレタル法則ナリ

元	二元	三元	四元	五元	六元	七元	八元	九元	十元
100	200	300	400	500	600	700	800	900	1000

○民法第四百十九條ノ規定ハ債權者カ債務者ニ對シテ有スル權利ノ範圍ヲ定メタルニ過キサレハ金錢カ債務者ノ手ニ在ル間ニ生シタル利益ノ存否多少ヲ定ムル場合ニ當然適用スヘキモノニ非ス

○買主ノ代金不支拂ニ因ル損害賠償ノ額ハ民法第四百十九條第一項ノ規定ノ利率ニ依リテ之ヲ定ムヘキモノニシテ賣主ハ實際ノ損害如何ニ拘ハラズ右利率ニ相當スル賠償額ノ外請求スルコトヲ得サルモノトス

○元本ニ對シ利息ヲ支拂フヘキ場合ニ於テ利息ノ延滯アリタルトキハ債權者ハ特約又ハ法律ノ規定アル場合ノ外其利息ニ相當スル額ヲ以テ當然ニ生シタル損害ナリトシ之カ賠償ヲ受クルコトヲ得サルモノトス

○利息ノ延滯ニ因リ當然生スヘキ損害ノ救済ニ付テハ特別ノ規定アルヲ以テ民法第四百十九條ノ規定ハ利息債務不履行ノ場合ニハ適用スヘキモノニ非ス

○債務不履行ノ爲メ違約金ヲ支拂フヘキ場合ニ於テ其違約金ノ支拂ニ付キ遲滯アルトキハ債權者ハ更ニ其時ヨリ之ニ對スル損害賠償ヲ請求スルコトヲ得ルモノトス

○金五圓ニ對スル一年五分ノ率ニ依ル一日分ノ損害賠償額ハ僅ニ六毛餘ニ過キサレハ之ヲ切捨テタル判決ハ違法ニ非ス

六	六	六	六	元	四三	四三	四三	四三	四三
60	60	60	60	100	105	105	105	105	105

○金銭ノ支拂ヲ目的トスル債務ノ不履行ニ因ル損害賠償ノ額ハ約定ノ利率カ法定利率ヲ超ユルトキハ民法第四百十九條第一項但書及ヒ利息制限法ニ依リ其制限ヲ超エサル程度ニ於テ定ムヘキモノトス

(同主旨)

○金銭ヲ目的トスル債務ヲ負擔シタル者カ履行ヲ爲ササル爲メ債權者ヨリ損害ノ賠償ヲ要メタル場合ニ若シ當事者間約定ノ利率アリテ其額カ法定利率ニ超過スルトキハ裁判所ハ民法第四百十九條第一項但書及ヒ利息制限法ニ依リ其制限ヲ超エサル程度ニ於テ賠償額ヲ量定セサルヘカラス

○金銭ヲ目的トスル債務ノ不履行ニ付テ遲滯後支拂フヘキ損害利子ノ數額ハ其債務ニ付キ約定利率ノ定アルトキハ約定利率ニ依リテ定ムヘキモノトス

○貸金ニ對シ遲延利息又ハ損害金ト稱スルハ貸金債務ノ履行遲延ニ對スル損害ノ補償ヲ謂フモノニシテ即チ期限内ノ利息ハ之ヲ約定利息ト謂ヒ期限後ノ利息ハ遲延利息又ハ損害金ト稱スルヲ通常トス

(同主旨)

○金銭債權ノ債務者カ履行ヲ遲延シタルトキニ於テ民法第四百十九條ニ依リ損害賠償トシテ支拂フ金額ハ所謂遲延利息ニシテ利息タル性質ヲ具有スルモノトス

(參照)

出訴以後ノ利子ハ別段ノ申立ナキモ附從義務ノ性質トシテ義務盡了即チ執行當日迄主タル貸金ニ隨伴スヘキハ當然ノ法理ナリ
遲滯ノ利息トシテ法律上ノ利息ヲ請求スルハ契約ヲ以テ利息ノ割合ヲ定メサル場合ニ限ルモノトス
法律上ノ利子ハ金銭ヲ目的トスル義務ノ遲延ノ損害賠償ナリ故ニ物件ヲ目的トスル義務ニ付テハ之ヲ請求スルヲ得ス

第四百二十條

『第四百二十條』

○民法實施前後ヲ問ハス當事者ハ賣買ノ違約ヨリ生スル損害額ヲ豫定スルコトヲ得裁判所ハ濫ニ其豫定額ヲ増減スルコトヲ得ス

○當事者カ契約不履行ノ際違約者ノ支拂フヘキ金額ヲ豫定セル場合ニハ反對ノ契約ナキ以上ハ損害ノ有無又ハ多少ヲ問ハス違約者ヨリ其豫定金額ヲ支拂フヘキモノトス

○債務不履行ニ付テノ損害賠償額ヲ豫定スルニ當リテハ一定ノ額ヲ確定セシテ宛モ利息計算方法ノ如キ算定ノ準據ノミヲ豫定シ債務ノ履行ヲ爲スニ至ル迄ノ期間ニ應シ債務額ニ對スル一定ノ割合ヲ以テ積算スヘキモノト爲スコトヲ得ルモノトス

○徒弟甲カ契約不履行ノ場合ニ修業中ノ飯料ヲ乙ヨリ丙ニ辨償スヘキ約旨ニ基キ其豫定ノ損害賠償ヲ請求スルトキハ履行ニ代ルヘキ損害賠償

六	二三八
三元	六七五
七	七五六
七	一〇七
四五	六一三

二六	一七三
二元	一六四
三〇	二一八
三二	二〇
四〇	三六
四	一九五七

ヲ請求スルモノニ非サレハ丙ハ契約ヲ解除セサルモ乙ニ對シテ損害賠償ヲ請求スルコトヲ得ルモノトス

○債務不履行ノ爲メ違約金ヲ支拂フヘキ場合ニ於テ其違約金ノ支拂ニ付キ遲滞アルトキハ債權者ハ更ニ其時ヨリ之ニ對スル損害賠償ヲ請求スルコトヲ得ルモノトス

○雙務契約ノ當事者カ一定ノ履行期日ニ債務ヲ履行セサルトキハ違約金ヲ支拂フヘキコトヲ約シタル場合ニ於テ其履行期日ニ雙方共履行ノ提供ヲ爲サス期日ヲ經過シタルトキハ反證ナキ限ハ其後ニ至リ當事者ノ一方カ相手方ヨリ債務ノ履行ノ請求ヲ受ケ相手方カ自己ノ債務ノ履行ヲ提供シタルニ拘ハラズ之ヲ履行セサル爲メ遲滞ノ責ニ任シタル場合ニ於テ該違約金ヲ支拂フヘキ事ヲ約シタルモノト推測スヘキモノトス

(參照)

過意約款ニ定ムル所ノ損害ニ付テハ裁判所ハ之ニ立入り其生否及ヒ多少ヲ審査スルヲ得サルヲ以テ原則トス

組合規定ヲ以テ或行爲ニ過料若クハ沒收ノ制裁ヲ附スル契約ハ過意約款ヲ附シタルニ過キス

第四百二十三條

○民法第四百二十三條舊商法第七百六十五條同第四百條及ヒ民法第四百七十條ハ約束手形ノ讓受人カ讓渡人ヲ強迫シ裏書讓渡ヲ爲サシメタル

ヲ原因トシテ而モ其手形ノ振出人ヨリ讓渡人ト讓受人トニ對シ讓受渡ノ取消ヲ求ムル場合ニ適用スヘキ法條ニ非ス
○民法第四百二十三條第一項ノ規定ハ債權者カ自己ノ利益ノ爲メニ第二債務者ヲシテ債務者ニ辨濟ヲ爲サシメ以テ債務者ノ財産ノ減少ヲ防クコトヲ許シタルニ過キスシテ直接ニ第三債務者ヨリ辨濟ヲ受クルコトヲ許シタルモノニ非ス

(同主旨)

民法第四百二十三條第一項ハ債權者カ債務者ニ代リテ債務者ノ權利ヲ行フコトヲ得ルトノ法意ナリトス

民法第四百二十三條ニ債權者ハ自己ノ債權ヲ保全スル爲メ其債務者ニ屬スル權利ヲ行フコトヲ得トアルハ債務者ニ於テ第三債務者ニ對シ或權利ヲ有スル場合ニ債權者カ債務者ニ代リ其地位ニ立テ第三債務者ニ係リ債務者ノ有スル權利ヲ行フニ過キサレモノトス

民法第四百二十三條第一項ニ該當スル場合ニ於テハ債權者ハ間接ニ債務者ニ屬スル訴權ヲ行フコトヲ得ルモノニシテ其訴追ノ結果判決確定ノ後第三債務者ヨリ債務ノ取立ヲ爲スノ權アリト雖モ自己ノ債權ニ對シ直接ノ辨濟ヲ請求スヘキモノニ非ス

○債權者ハ債務者ノ辨濟資力不十分ナル場合ニ在ラサレハ代位訴權ヲ行フコトヲ得ス從テ債務者カ爲シタル行爲ノ無效ヲ確認セシムルニハ其資力ノ不足ト爲リタルコトヲ立證セサルヘカラス

三三	三七	三九	三六	三六	三四	三九
					二	
					一〇一	
					四一	
					一三八	
					八八四	
					一五三七	

二九	二六	六	六	七
九	四			
三六	一三	一九四	八九九	二四

○債權者ハ民法第四百二十三條同第四百二十四條等ノ場合ヲ除ク外其債權ニ關シ第三者ニ對シテ請求權ヲ有セサルモノトス

三九

一五七

○甲者カ其所有ニ屬スル土地ヲ乙者ニ賣渡シ乙者ハ更ニ之ヲ丙者ニ賣渡シタル場合ニ於テ孰レモ其賣買ニ因ル所有權移轉ノ登記ヲ爲ササルトキハ丙者ハ民法第四百二十三條ニ依リ乙者ニ對スル登記手續ノ請求權ヲ保全スル爲メ乙者ノ甲者ニ對スル登記手續ノ請求權ヲ行使シ得ルモノトス

四三

五三七

○民法第四百二十三條ハ債權者カ保全セントスル債權ニ付キ別ニ制限ヲ設ケサルヲ以テ同條ノ適用ヲ受クヘキ債權ハ債務者ノ權利行使ニ依リテ保全セラルヘキ性質ヲ有スレハ足り其債務者ノ資力ノ有無ニ關係ヲ有スルト否トハ必スシモ之ヲ問フノ要ナシ

四三

五三七

○債權者カ債務者ノ資力ノ有無ニ關係ナキ債權ヲ保全セントスル場合ト雖モ苟モ債務者ノ權利行使カ其保全ニ適切ニシテ且必要ナル限ハ民法第四百二十三條ノ適用ヲ妨ケサルモノトス從テ債務者ノ無資力ナルコトハ必スシモ同條適用ノ要件ニ非ス

四三

五三七

○民法第四百二十三條ハ債權ノ效力ニ關スル規定ニ過キササルヲ以テ抵當權ヲ行使スル場合ニ於テハ其適用ナキモノトス

二

七三

第十四條
第四百二十三條

○未登記不動産ノ賣主ハ先ツ自己ノ所有權ノ登記ヲ爲シテ買主カ所有權ノ取得登記ヲ爲スニ妨ナカラシムヘキモノナレハ若シ任意ニ其義務ヲ履行セサルトキハ買主ハ民法第四百二十三條不動産登記法第四十六條ノ二ニ依リ之ニ代位シテ先ツ賣主ノ所有權ノ登記ヲ爲スコトヲ得ルモノトス

五

七四

○民法第四百二十三條ニ於テ債權者ヲシテ債務者ニ屬スル權利ヲ行フコトヲ得セシムルハ債務者カ債權者ニ充分ナル満足ヲ得サラシムル爲メ自己ノ權利ヲ行ハサルニ依ルモノナルヲ以テ債務者カ既ニ其權利ヲ行ヒタルトキハ債權者ハ之ヲ行フノ必要ナキモノト謂ハサルヘカラス

七

六九四

○債務者カ既ニ其權利ヲ行ヒタルトキハ其行使ノ方法良好ナラサル場合ニ於テモ債權者ハ之ヲ行フコトヲ得サルモノトス

四一

一五〇

民法 債權 總則 債權ノ效力

○民法第八百八十七條第一項ノ取消權ハ未成年者ノ重要ナル動産ニ關シ和解契約ヲ爲シタル場合ト雖モ子ノ一身ニ專屬スル權利ニシテ子又ハ

其法定代理人ニ限り之ヲ行フコトヲ得ヘク同第二百二十條ノ一般規定ニ依リ其他ノ代理人又ハ承繼人ニ於テハ之ヲ行フコトヲ得サルモノト解スルヲ相當トス隨テ未成年ノ子ニ對スル債權者ハ同第四百二十三條第一項但書ニ依リ債務者ニ屬スル如上ノ取消權ヲ行フコトヲ得サルモノトス

(參照)

甲カ乙ニ對スル權利ノ爲メ丙ノ乙ニ負フ所ノ義務即チ乙ノ債權ヲ差押フル場合ニ於テ丙ヨリ金圓ヲ受取ル能ハサル事實即チ再ヒ金圓ヲ返辨シタルコトアルニモ拘ハラズ甲カ當然乙ヨリ得ヘキ權利ヲ有シ如ク乙ノ權利ヲ行ヒタルモノトシテ判決シタルハ事實ヲ不當ニ確定シ法則ヲ不當ニ適用シタルモノナリ
債務者ノ總財產ハ各債權者ノ共同擔保ニシテ債務者ノ債權ノ如キモ亦其財產ノ一部ナレハ債務者カ自ラ其權利ノ行使ヲ拒ミ若クハ之ヲ怠リ爲メニ其財產ニ減少ナ來シ各債權者ノ共同擔保權ヲ害セントスル恐アル場合ニ於テハ債權者ハ自己ノ債權保全ノ爲メ債務者ニ代リ代位訴訟ヲ提起シ得ヘキコトハ一般法理ノ認ムル所ナリ

第四百二十四條

『第四百二十四條』

○債務者カ商法上ノ預證券等ニ裏書ヲ爲シ之ヲ讓渡シタルトキハ縱令其讓渡ハ虛偽ナルニモモヨ其裏書ヲ取消スニ非サレハ債權者ニ於テ之ヲ處分スルヲ得サルニ付キ其裏書ハ所謂詐害行爲ニシテ民法第四百二十

七
一一
二〇九
二五
一一
四二
三一
一
六

○四條ニ依リ之カ取消ヲ求メ得ヘキモノトス

○民法第四百二十四條ノ規定ハ債權者ニ於テ債務者カ其債權者ヲ害スルコトヲ知リテ爲シタル法律行爲ノ取消ヲ請求スルモノタル上ハ其債權ニシテ共同擔保ニ過キサル場合ナルト特別擔保タル抵當權ノ設定アル場合ナルトヲ論セス苟モ債務者カ爲シタル法律行爲ニ出テ債權者ヲ害スルモノナレハ一般ニ通シテ之ヲ適用スヘキモノト解釋セサルヘカラス

○債務者以外ノ者ノ爲シタル法律行爲ニ對シテハ縱シヤ債權者カ間接ニ害セララルモノトスルモ民法第四百二十四條ノ規定ニ基キ其取消ヲ請求シ得ヘキモノニ非ス

○民法第四百二十四條ニ謂フ債務者カ其債權者ヲ害スルコトヲ知リテ爲シタル行爲トハ債權者ノ權利ヲ詐害スル行爲ヲ指シタルモノニシテ債權ノ成立ニハ毫モ影響ヲ及ホスコトナク單ニ其實效上ニ不利益ナル結果ヲ及ホス行爲ヲ云フ

○民法第四百二十四條ノ規定ニ該當スル場合ニ於テ債務者カ債權者ニ對スル辨濟ノ資力ヲ薄弱ナラシメ之カ爲メ債權者ニ現實ノ損害ヲ被ムラシメタル以上ハ縱令受益者又ハ轉得者ヨリ對價ヲ支拂ヒタリトスルモ

三四
九
七六
三六
一一
三三
三六
八〇
一三三
三六
一一
三三
二三五

斯ル事實ハ惡意ヲ以テ爲シタル法律行爲ニ因リ債權者ヲ害シタルヤ否
ヤニ消長ナキモノトス

○詐害行爲取消ノ訴ニ於テ債務者ノ爲シタル行爲ニ因リ利益ヲ受ケタル
者カ民法第四百二十四條ノ適用ヲ受クルニハ債權者ヲ害スルノ意思アル
ルコトヲ必要トセス唯債務者ノ行爲ノ債權者ヲ害スル事實ヲ知ルヲ以
テ足レリトス

○債務者カ抵當權ノ目的タル物件ヲ他ニ賣却セル場合ニ於テ債權者ヨリ
之ヲ詐害行爲トシテ其取消ノ請求ヲ爲シ得ルニハ債務者ニ於テ他ニ完
全ナル辨濟ヲ爲スヘキ資産ヲ有セサルコトヲ要ス

(同主旨)

廢罷訴權ヲ許ス場合ハ債務者カ債權者ニ對シ債務ノ辨濟ヲ爲スヘキ資力ノ足ラサルニ拘ハラ
ス自己ノ財産ヲ他人ニ讓渡シテ之ヲ減少スルカ若クハ他人ニ對シ債務ヲ承諾シテ債權者ノ得
ヘキ利益ヲ少ナカラシムルカ如キ之ヲ廢罷スルニ非サレハ回復ノ途ナキ場合ニ限ルモノトス

○民法第四百二十四條ノ訴ノ要件タル債權者ヲ害スルコトトハ債務者
カ財産權ヲ目的トスル法律行爲ヲ爲シ之ニ因リテ其債權者ノ爲メ一般
擔保ヲ組成スル自己ノ財産ヲ減少シ辨濟ノ資力ヲ薄弱ナラシメタル場
合ヲ云フ

○債務者カ相當代價ヲ以テ或財産ヲ賣却シタル場合ニ其代金ニシテ債務

者ノ手裡ニ現存スルカ又ハ之ヲ有益ニ利用轉換シテ賣却物件ニ代ルヘ
キ價格現存スルカ若クハ其代金ニテ優先權ヲ有スル他ノ債權者ニ辨濟
ヲ爲シタルトキハ未タ以テ債權者ヲ害スルモノト云フヲ得ス

○民法第四百二十四條ニ規定シタル債權者ノ取消權ハ債權者カ其債務者
ヨリ一般擔保ヲ害セラレタルトキニ於テノミ之ヲ有スルモノナレハ債
務者ノ行爲ニシテ債權者カ取消權ヲ有スルハ財産權ヲ目的トスルモノ
ニ限リ又債權者ノ權利モ財産權ニ關スルモノナラサルヘカラス

○遺贈ノ不動産ニ付キ遺贈者カ生前債權者ノ爲メニ抵當權ヲ設定シタル
トキハ受遺者ニ於テ之ヲ他ニ賣渡スト否トニ拘ハラズ債權者ハ其目的
物ニ追隨シテ自己ノ權利ヲ行使シ得ルカ故ニ受遺者カ賣却ヲ爲シタル
爲メ抵當權者ニ損害ヲ生スヘキモノニ非ス從テ抵當權者ハ詐害行爲取
消ノ訴權ヲ有セサルモノトス

○民法第四百二十四條ノ規定ニ依リ有償行爲ノ取消サル場合ハ其對價
カ格外ニ低廉ナルトキノミニ限ラス相當ノ對價ヲ以テシタルトキト雖
モ亦之ヲ適用スヘキモノナリ

(同主旨)

民法第四百二十四條ハ致テ法律行爲ノ有償タルト無償タルト將タ又其行爲ノ相手方カ不當ニ

三九

三六

三六

三七

一三六

七九

一五〇

一四七

三七

三三

三七

三六

三六

一四七

五一

八二〇

一三〇

二四九

利益ヲ受ケタルト否トナ區別セス故ニ相當ノ代金ヲ以テ爲サレタル賣買ト雖モ荷モ共同擔保ヲ減少シ債權者ヲ害スル以上ハ債權者ハ之ヲ取消テ請求シ得ヘキモノトス

○民法第四百二十四條ノ規定ハ債務者カ債權者ヲ害スルノ故意ヲ以テ一般ノ共同擔保タル自己ノ財産ヲ減少スヘキ法律行爲ヲ爲シタル場合ニ限リ其行爲取消權ヲ債權者ニ付與セルモノトス從テ債務者ノ所有ニ屬スル建物ニ對シ一番抵當權ノ設定ヲ目的トシテ爭フ所ノ債權者ノ如キハ其性質上同條ニ所謂債權者ニ非ス

○債務者カ債權者ヲ害スルコトヲ知リテ爲シタル法律行爲ト雖モ民法第四百二十四條ノ規定ニ從ヒ之ヲ取消スニ非サレハ固ヨリ其效力ヲ有スルモノナルヲ以テ縱令詐害ノ事實存在シ轉得者ニモ亦惡意アリトスルモ債權者ハ轉得者ヲシテ直ニ其買受ケタル物件ヲ返還セシムヘキ原由ナシ故ニ其手裡ニ現存セサル物件ニ付テモ損害ノ賠償ヲ求ムルコトヲ得ス

○債務者カ自己ノ財産ヲ他人ニ賣却スルハ正當ノ法律行爲ヲ爲スモノニシテ固ヨリ不行爲ニ非ス唯之カ爲メニ總債權者ノ共同擔保ヲ減少シ債權者ヲ害スルノ虞アルヲ以テ特ニ民法第四百二十四條ノ規定ヲ設ケ之ヲ保護シタルモノトス

三六 一七〇
三元 三五一
三元 二〇六
三元 二〇六

○債權者ハ民法第四百二十三條同第四百二十四條等ノ場合ヲ除ク外其債權ニ關シ第三者ニ對シテ請求權ヲ有セサルモノトス

○第三者カ債務者ヨリ抵當不動産ヲ買受ケ自ラ其債務ヲ辨濟シ抵當權ヲ消滅セシメタル場合ニ於テ裁判所カ普通債權者ノ請求ニ因リ其賣買ノ取消ヲ命スルニハ先ツ抵當權ヲ以テ擔保セラレタル債權額ト其不動産ノ價格トヲ比較審究セサルヘカラス

○債務者カ債權者ヲ害スルコトヲ知リ乍ラ自己ノ不動産ニ付キ抵當權ヲ設定シタル場合ト雖モ爾後隱居ヲ爲シ其旨ヲ債權者ニ通知シ且家督相續人ニ於テ該不動産ヲ債務ト共ニ承繼セル以上ハ債權者ハ隱居者ニ對シテ抵當權設定ノ取消ヲ請求スルコトヲ得ス

○債務者ノ爲シタル法律行爲カ債權者ヲ害スルト否トハ其行爲當時ノ事情ニ依リ之ヲ定ムヘキモノニシテ爾後時勢ノ變遷ニ從ヒ物價ノ騰貴シタル場合ニ比シ不利益ナリシカ如キ事由ハ未タ以テ債權者ヲ害スルモノト云フヲ得ス

○債務者カ一部ノ債權者ノ爲メニ抵當權ヲ設定シタル場合ニ於テ一般擔保減少ノ結果損害ヲ被フルヘキ債權者アルトキハ詐害行爲ヲ構成スルモノトス

三元 一五三七
四〇 二〇八
四〇 三七九
四〇 七四五
四〇 八七七

○民法第四百二十四條ハ法律行為カ有效ニ成立シタル場合ニ之ヲ取消ス
コトヲ得セシムル規定ナレハ法律行為カ假裝ニシテ眞ニ成立セサル爲
メ取消ノ必要ナキ場合ニハ同條ヲ適用スヘキ限ニ在ラス

(同主旨)

債務者ノ爲シタル法律行為カ假裝ニシテ眞ニ成立セサル場合ニ於テハ縱令其行為ノ爲メ債權
者ノ權利ヲ害スルモ民法第四百二十四條ノ廢罷訴權ヲ發生スルコトナシ

○民法第四百二十四條ニ所謂法律行為トハ賣買又ハ贈與ノ場合ニ於テハ
其賣買若クハ贈與行為ヲ指稱シ質權又ハ抵當權設定ノ場合ニ在テハ其
設定行為ヲ指稱スルモノニシテ登記法上ノ行為ハ之ニ包含セス

(同主旨)

民法第四百二十四條第一項ニ所謂法律行為トハ其行為ニシテ賣買若クハ贈與ニ出テタル場合
ニハ其賣買若クハ贈與ヲ指稱シ又其行為カ質權若クハ抵當權ノ設定ニ出テタル場合ニハ其質
權若クハ抵當權ノ設定ヲ指稱セルモノトス

(反對)

債務者カ他人ト共謀シ抵當權設定ノ行為ヲ假裝シ之ヲ登記シタル場合ニ於テハ債權者ハ民法
第四百二十四條ノ規定ニ依リ取消訴權ヲ行フコトヲ得從テ金錢ヲ以テスル賠償ノ外抵當登記
ノ抹消ヲ請求シ得サルモノト爲シタル判決ハ不法ナリ

○債權者カ民法第四百二十四條ニ依リ法律行為ノ取消ヲ求ムル場合ニ於

テ其行為ノ取消サルルニ因リ無原因ニ歸スヘキ登記アルトキハ同時ニ
其抹消手續ヲ請求スルコトヲ得

(同主旨)

民法第四百二十四條ノ規定ニ依リ法律行為ノ取消權ヲ有スル債權者カ後日登記權利者ノ地位
ニ立ツヘキコトヲ豫想シ行為ノ取消ト共ニ登記ノ抹消ヲ請求スルハ違法ニ非ス

○民法第四百二十四條ニ依ル詐害行為ノ取消ハ其目的該行為ニ因リテ生
シタル債權者ノ損害ヲ救済スルニ在リ從テ其行為ノ目的カ分割シ得ル
モノナルトキハ債權者ノ損害ヲ救済スル程度ニ於テ其一部ヲ取消スコ
トヲ得

(同主旨)

民法第四百二十四條ニ於テ債權者ニ對シ債務者ノ爲シタル詐害行為ノ取消ヲ許シタルハ債權
者ノ受クヘキ損害ヲ救済スルニ在ルチ以テ場合ノ如何ト行為ノ何タルヲ問ハズ債務者ノ爲シ
タル行為全部ヲ取消シ全ク行為アラサル最初ノ状態ニ復セシムルモノニ非ス故ニ其行為ノ目
的ニシテ分割シ得ルモノナルトキハ單ニ其一部ヲ取消スコトヲ得ルハ當然ナリ

○債務者カ債權者ヲ害スルコトヲ知リテ法律行為ヲ爲シタルトキハ縱令
其結果ノ一部債權者ヲ害スルニ止マルモ單一ナル詐害行為タルコトヲ
失ハズ

○不動産ノ賃借人カ其賃借權ノ登記ヲ爲ササル爲メ同一ノ不動産ヲ買受

四二 二七二

三元 二五四

四三 五七九

三六 一三三

四三 五七九

三七 一〇七

三元 二五四

四二 二七二

四二 七五九

四二 二七二

○ケテ登記ヲ爲シタル者ニ對抗シ得サル場合ニハ縱令其賣買ニ因リ賃借權ヲ害セラルルコトアルモ民法第四百二十四條ヲ適用スヘキ限ニ在ラ

四三

八七三

(聯) ○詐害行爲ノ廢罷ハ民法カ法律行爲ノ取消ナル語辭ヲ用キタルニ拘ハラ

四

二二七

○債務者ノ財産カ受益者ノ手ヲ經テ轉得者ノ有ニ歸シタル場合ニ債權者カ受益者ニ對シテ廢罷訴權ヲ行使シ法律行爲ヲ取消シテ賠償ヲ求ムルト轉得者ニ對シテ同一訴權ヲ行使シ直接ニ該財産ヲ回復スルトハ全ク其自由ノ權内ニ在ルモノトス

四

二二七

○債權者カ民法第四百二十四條ニ依リ請求シ得ヘキ詐害行爲ノ取消ハ絶對的取消ニ非スシテ其取消請求權ハ惡意ノ受益者又ハ惡意ノ轉得者ノミニ對シテ存シ債務者ニ對シテハ之ヲ行フコトヲ得サルモノトス

四

五九三

○詐害行爲ノ目的タル不動産上ニ他ノ債權者カ抵當權ヲ有シ取消權ヲ有スル債權者ニ優先スヘキモノナルトキハ詐害行爲ノ取消訴權ハ其不動産ノ價格ヨリ抵當債權額ヲ控除シタル殘餘ニ付テノミ成立スルモノトス

四

七二五

○抵當權ハ其目的タル不動産ノ全部ニ及ヒ不可分ナルヲ以テ前項ノ場合ニ於テハ縱令其不動産カ數筆ノ地所ナリトスルモ之ヲ分割シ其一部ニ對シ詐害行爲ニ因ル所有權移轉ノ登記抹消ヲ許スヘキモノニ非ス但詐害ノ限度ニ於テ不動産ノ回復ニ代ヘ價額ノ賠償ヲ許スコトヲ妨ケス

四

七二五

○民法第四百二十四條ノ規定ニ依リ債權者ノ取消權ノ目的タル行爲ハ受益者カ轉得者ト爲シタル法律行爲ヲ包含セス故ニ債權者カ受益者又ハ轉得者ニ對シ詐害行爲ノ目的タル財産ノ回復又ハ之ニ代ルヘキ損害賠償ヲ求メント欲セハ其受益者又ハ轉得者ニ對スル關係ニ於テ詐害行爲ノ取消ヲ請求スヘキモノトス

五

六七一

○不動産買主ノ代金ニ對スル抵當權ノ設定ニシテ賣買成立ト同時ニ行ハレタル以上ハ其豫約ナルト否トヲ問ハス之カ爲メ債務者ノ資産状態ニ損喪ヲ來スコトナケレハ民法第四百二十四條ニ依リ詐害行爲トシテ取消ヲ許スヘキモノニ非ス

五

一〇三三

○詐害行爲取消權ノ成立ニハ債務者カ其行爲ニ依リ債權者ヲ害スヘキコトヲ現ニ知リタルコトヲ要スルモノナレハ縱令相當ナル智慮ヲ有スル者ナルニ於テハ其損害ヲ生スヘキ事實ヲ知り得ヘキ場合ニ於テモ現ニ債務者カ之ヲ知ラサル以上ハ其過失ニ出ツルト否トヲ問ハス詐害行爲

取消權ノ成立ヲ來ササルモノトス

○債權者ハ其債權ヲ保全スルノ必要アル場合ニ於テハ自己ノ債權ノ數額ヲ超越シテ詐害行爲ヲ行使スルモ妨ナキモノトス

○詐害行爲ヲ取消請求事件ヲ審理スルニ付キ其取消スヘキ詐害行爲ノ範圍如何ヲ定ムルニハ須ク其行爲當時ニ於ケル債務者ノ財産竝ニ其債務ノ多寡ヲ標準トシテ判定スヘク其行爲以後判決ニ至ル迄ノ間ニ於テ發生シタル債務ノ數額ヲ加算シテ之ヲ定ムヘキモノニ非ス

(聯) ○債權者カ債務者ノ財産ヲ讓受ケタル受益者又ハ轉得者ニ對シテ訴ヲ提起シ之ニ對スル關係ニ於テ法律行爲ヲ取消シタルトキハ該財産ノ回復又ハ之ニ代ルヘキ賠償ヲ得ルコトニ因リ其擔保權ヲ確保スルニ足ルヲ以テ特ニ債務者ニ對シテ訴ヲ提起シ其法律行爲ノ取消ヲ求ムルノ要ナキモノトス

(同主旨)

債權者カ詐害行爲ノ取消ヲ請求スルニ當リ轉得者アル場合ニ於テ之ヲシテ直接讓受財産ヲ復舊セシメントセハ其轉得者ヲ相手方トシ之ニ對シテ請求スルヲ以テ足り債務者及ヒ受益者ヲ相手方ト爲スコトヲ要セサルモノトス

○鑛業權ノ賣買ハ其契約成立ト同時ニ鑛業權ヲ移轉スヘキ債權的效力ヲ生シ其登録ニ因リテ行爲ノ效力始メテ發生スルモノニ非サレハ契約成

五	二〇六九
五	二〇七〇
六	八
四	二一七
六	五九六

○立ト同時ニ債務者ノ資産ニ減少ヲ來ス效果ヲ生スルモノトス隨テ債權者ノ取消權ハ此時ニ於テ發生シ移轉登録ニ因リテ發生スルモノニ非ス

○裁判所カ債權者ノ請求ニ依リ債務者ト受益者間ノ賣買行爲ヲ取消シタルハ鑛業權移轉ノ債權的效力ノ外物權的效力ヲ生シタル賣買契約ヲ取消シタルモノニシテ其結果受益者ノ承繼人ニシテ債務者ヨリ直接移轉登録ヲ受ケタル轉得者ニ於テ其登録抹消手續ヲ爲スヘキハ當然ニシテ斯ル請求ハ詐害行爲ノ取消トシテ爲スコトヲ得サルモノニ非ス

○詐害行爲ノ取消權ハ其性質形成權ニ屬スルト否トヲ問ハズ債務者ノ資産ヲ詐害以前ノ状態ニ回復シ債權者ノ一般擔保權ヲ確保シ其正當ナル辨濟ヲ得セシムルヲ以テ目的トスルモノナレハ債權者ハ受益者又ハ轉得者ノ受ケタル利益若クハ財産ヲ直接自己ニ請求スルコトヲ得スト雖モ之ヲ債務者ノ資産ニ復歸セシムルコトヲ受益者又ハ轉得者ニ對シ債務者ニ代位セス自己ノ權利トシテ請求スルコトヲ得ルモノトス

○債務者カ既ニ履行期限ノ到來セル債務ノ辨濟若クハ公租公課ノ支出其他必要ナル資ニ供スルカ爲メ相當價額ヲ以テ不動産ヲ賣却スルカ如キハ債務者カ自己ノ財産ニ對シテ有スル正當ナル處分權ノ行使ニ出ツルモノナレハ他債權者ニ於テ狼ニ容喙スルコトヲ許ササルモノトス

六	五九六
六	五九六
六	五九六
六	五九六
六	九三三

○公有水面埋立免許權ハ普通財産權ト同シク融通性ヲ有シ權利者ノ一身ニ專屬スルモノニ非サレハ債權者ノ共同擔保トシテ強制執行ノ目的ト爲ルコトヲ得ルモノトス從テ埋立權者カ債權者ヲ害スル意思ヲ以テ此共同擔保ヲ處分シタルトキハ之ヲ詐害行爲トシテ取消スコトヲ得ヘク偶々免許ヲ得タル一事ヲ以テ其處分ノ詐害行爲タル性質ヲ否定スヘキモノニ非ス

○公有水面埋立免許權讓渡ノ官許ハ權利ノ讓渡ヲ是認スルモノニシテ讓受人ノ爲メニ新ナル權利ヲ付與スルモノニ非サレハ讓渡行爲カ詐害行爲トシテ取消サレ無効ト爲リタル以上其讓渡ノ有效ヲ前提トシテ許可シタル行政處分ハ根底ヲ缺クヲ以テ當然無効ニ歸シ讓渡ノ目的タリシ權利ハ讓渡人ニ復歸スルモノトス

○受益者カ債務者ヨリ讓受ケタル不動産上ニ他人ノ爲メニ抵當權ヲ設定シタル場合ニ於テ其抵當權ヲ存立セシムルモ債權者ノ取消ノ目的ヲ達スルコトヲ得ルトキハ債權者ハ轉得者タル抵當權者ニ對シ抵當權設定ノ取消ヲ請求セサルモ受益者ニ對シ右不動産ノ讓渡行爲ノ取消ヲ請求スルコトヲ得ルモノトス

○債權ヲ詐害スヘキ法律行爲ノ取消ハ債權者ニ對スル相對的ノモノニシ

テ受益者ト債務者間ニ於テハ仍ホ存續スルヲ以テ其間ニ不動産讓渡行爲ノ取消アルモ受益者ノ該不動産上ニ設定シタル抵當權ハ當然消滅セサルモノトス

○債務者ノ行爲カ債權者ノ債權ヲ詐害スルモノトシテ民法第四百二十四條ヲ適用スルニハ其行爲カ取消權ヲ行使スル債權者ノ債權發生ノ後ナルコトヲ要ス從テ債權カ其行爲以後ニ發生シタルモノナルトキハ縱令其行爲ニ基キタル登記ノミカ債權發生ノ後ナルトキト雖モ取消ノ目的ト爲スコトヲ得サルモノトス

(同主旨)

詐害行爲取消權ハ債權者カ債務者ノ財産ニ對シテ豫期シタル擔保ノ利益ヲ阻害セララルナラ止スルヲ目的トスルモノナルヲ以テ詐害行爲取消權ヲ行使スル債權者ノ債權ハ其行爲以前ニ發生シタルモノナルコトヲ要シ其以後ニ發生シタルモノハ詐害ノ目的タルヲ得サルモノトス

○詐害行爲數箇アル場合ニ於テモ民法第四百二十四條ニ依ル取消ノ判決アル迄ハ執レモ有效ナル行爲ナリトス

○遲延利息ノ債務ハ債務ノ不履行ニ因リテ新ニ成立スル債務ナレハ民法第四百二十四條ニ依リ取消スヘキ行爲以後ニ發生スル遲延利息ノ債務ハ詐害行爲ノ範圍ヲ定ムルニ際シ之ヲ加算スヘキモノニ非ス

○民法第四百二十四條ニ依ル債權者ノ請求アリテ裁判所カ債務者ノ爲シ

六

一三三

六

一六四

六

八

六

一九八七

七

七〇三

六

一三八

六

一三八

六

一三八三

○タル法律行為ヲ取消ストキハ其法律行為ハ訴訟ノ相手方ニ對シテ全然無効ニ歸スヘク從テ債權者ハ其相手方トノ關係ニ於テハ直接間接ニ債務者ノ財産上ノ地位ヲ行為以前ノ狀態ニ復セシメ以テ擔保權ヲ確保スルコトヲ得ルモノナンハ他ノ關係人等ノ間ニ該法律行為ヲ存立セシムルモ妨ナキモノトス

(同三首)

債權ヲ詐害スヘキ法律行為ヲ轉得者アル場合ニ於テ受益者ト轉得者トノ間ノ法律行為ヲ存立セシムルモ債權者ノ利害ニ影響ヲ及ホササルトキハ之ヲ取消スノ必要ナキモノトス

○未タ成立セサル法律行為ハ民法第四百二十四條ニ依リ之ヲ取消スノ必要ナキモノトス

○甲ヨリ乙ニ乙ヨリ丙ニ不動産ヲ賣渡シタルニ甲ヨリ丙ニ直接賣渡シタルカ如キ登記ノ記載アルニ過キサルトキハ甲丙間ニ該不動産賣買契約ノ成立シタルコトヲ前提トシ其取消ヲ求ムル請求ハ之ヲ棄却スヘキモノトス

○民法第四百二十四條ニ依ル債權者ノ取消權カ其詐害行為ニ因リ受益者カ債務者ヨリ取得シタル目的物ノ全部ニ及フコトナク其一部ニノミ及フ場合ニ於テハ其目的物カ可分のモノナルトキハ一部ニ付キ然ラザ

ル場合ハ全部ニ付キ之ヲ取消スヘク其取消サルヘキ範圍ハ該法律行為ノ目的物ニ付キ之ヲ具體的ニ明確ニセサルヘカラス

○甲ノ取消權ハ乙カ訴外丙ヨリ賣買契約ニ因リ取得シタル不動産數筆ノ價額中或金額ニ相當スル部分ニ付テノミ存スルモノナルトキハ之カ取消ヲ爲スニハ其取消サルヘキ行為ノ目的物タル不動産數筆中ノ孰レノ不動産ニ付キ之ヲ取消スヘキヤ其取消サルヘキ目的タル不動産及ヒ取消サルヘキ筆數ヲ明確ニセサルヘカラス

○縱令債務者カ詐害ノ意思ヲ以テ法律行為ヲ爲シタリトスルモ事實上債權者ヲ害スルニ至ラサル以上ハ其行為ヲ以テ詐害行為ナリト謂フヲ得サルモノトス

○詐害行為取消權ハ債務者カ債權者ヲ害スルノ惡意ヲ以テ爲シタル法律行為ノ取消ヲ目的トスルモノニシテ債務者カ既存ノ義務ヲ履行スルカ爲メニ適法ニ爲シタル行為ノ取消ヲ爲スコトヲ得ルモノニ非ス

(同三首)

民法第四百二十四條ニ所謂債務者カ其債權者ヲ害スルコトヲ知リテ爲シタル法律行為トハ債務者カ之ヲ爲シ若クハ爲ササルヲ得ヘキ自由ヲ有スル時ニ於テ債權者ヲ害スルコトヲ知リテ任意ニ之ヲ爲シタル場合ノミヲ指稱シ法律上履行スヘキ義務ヲ履行シタル場合ノ如キハ之ヲ包含セス

七	七	七	七	七
九六	九三	九三	九三	九三
一四三	一四三	一四三	一四三	一四三
二五三	二五三	二五三	二五三	二五三

七九一

一三八三

九一五

九一五

詐害行爲取消權ハ債務者カ債權者ヲ害スルコトヲ知リテ爲シタル法律行爲ノ取消ヲ目的トスルモノナレハ債務者カ他ノ債權者ヲ害スルノ意思ヲ有セス單ニ既存ノ義務ヲ其時期ニ於テ履行スルカ爲メ適法ニ爲シタル行爲ノ取消ヲ請求スルコトヲ得サルモノトス

債務者カ多數債權者ヨリ辨濟ノ請求ヲ受ケ居ルニ拘ハラス其内ノ一債權者ト共謀シ他債權者ヲ害スルノ目的ヲ以テ特ニ一債權者ニ辨濟ヲ爲スカ如キ場合ハ格別單ニ自己ノ負擔スル既存ノ義務ヲ履行スルカ爲メニ誠意ヲ以テ爲シタル行爲ヲ目シテ直ニ詐害行爲ト做シ之カ取消ヲ許スヘキモノニ非ス

○數人カ連帶債務ヲ負擔スルトキハ債權者ハ其債務者ノ一人ニ對シ又ハ同時若クハ順次ニ總債務者ニ對シテ債權ノ全部又ハ一部ノ履行ヲ請求スルコトヲ得ルモノナレハ債權者ハ連帶債務者ノ一人カ債權者ヲ害スルコトヲ知リテ爲シタル法律行爲ノ取消ヲ請求スルコトヲ得ヘク他ノ連帶債務者カ債務ノ辨濟ヲ爲スニ十分ナル資力ヲ有スルコトハ債權者ノ廢罷訴權ノ行使ヲ妨クルモノニ非ス

○債務者カ他ニ債權ヲ辨濟スル資産ナキニ拘ハラス其所有ノ不動産ヲ賣却シ消費シ易キ金錢ニ代ユルカ如キハ其價額ノ相當ナルト否トヲ問ハ

ス債權者ヲ害スルコトヲ知リテ爲シタル法律行爲ナリト推定スヘキモノトス

(同義語)

民法第四百二十四條ノ規定ハ債務者カ他ニ債權ヲ辨濟スヘキ目的ナクシテ自己ノ財産ヲ賣却スルトキハ其價格ノ相當ナルト否トヲ論セス債權者ヲ害スルコトヲ知リテ爲シタル法律行爲ト推定スヘキ法意ナリ

債務者カ其有スル或不動産ノ外ニ債務ヲ辨濟スヘキ資力ヲ有セサル場合ニ於テ其不動産ヲ賣却シテ費消シ易キ金錢ニ代フルハ債權擔保ノ效力ヲ削減スルモノナルヲ以テ其代價ノ相當ナルト否トヲ問ハス其實質ハ債權者ヲ害スルノ行爲ナリトス

○債務者ノ爲シタル法律行爲カ債權者ヲ害スルノ意思ニ出テサルコト明カニシテ如上推定ヲ覆スニ足ルヘキ事由ノ存スル場合ニハ須ク取消ノ請求ヲ受ケタル相手方ニ於テ之ヲ主張シ且立證スヘキモノトス

○民法第四百二十四條第一項本文ハ原則トシテ債務者カ債權者ヲ害スルコトヲ知リテ法律行爲ヲ爲シタル場合ニハ受益者又ハ轉得者モ亦其情ヲ知リテ受益行爲又ハ轉得行爲ヲ爲シタルモノト推定シ債權者ヲシテ其行爲ノ廢罷ヲ請求スルコトヲ得セシメタルモノトス

○民法第四百二十四條第一項但書ハ受益者又ハ轉得者ニ於テ行爲ノ當時債權者ヲ害スヘキ事實ヲ知ラザリシ場合ニ限り債權者ノ請求ヲ拒否ス

七	七	四	三	七
一七三〇	一七三〇	五三八	一三三	一七三〇

五	六	六	七
二三八	一九七	九三二	一七三〇

ルコトヲ得ヘキ例外規定ナルヲ以テ如上ノ推定ヲ覆サントスルニハ受益者又ハ轉得者ニ於テ行爲當時債權者ヲ害スルコトヲ知ラサリシコトヲ主張シ且立證スヘキ責ニ任セシメタルモノトス

(同主旨)

民法第四百二十四條ハ債務者ニ惡意即チ債權者ヲ害スルコトヲ知リテ爲シタル行爲アルコトヲ認ムレハ債權者ハ其行爲ノ廢罷ヲ訴求シ得ヘキ規定ナルニ依リ法律ハ債務者ノ行爲ヲ以テ其相手方即チ受益者又ハ轉得者ニ於テモ情ヲ知テ爲シタルモノト一應推定シ得ヘキコトヲ認メタルモノナリ故ニ此推定ニ反スル同條但書ノ場合ニハ受益者又ハ轉得者ニ於テ其情ヲ知ラサリシコトヲ舉證スヘキ責任アリ

民法第四百二十四條ノ規定ニ該當スル場合ニ在リテハ法律ハ債務者ノ行爲ヲ以テ其相手方即チ受益者又ハ轉得者ニ於テモ情ヲ知リタルモノト一應推定シ得ヘキコトヲ認メタルモノナレハ受益者又ハ轉得者ニ於テ其善意ナルコトヲ立證セサルヘカラス

民法第四百二十四條ハ債務者カ債權者ヲ害スルコトヲ知リテ法律行爲ヲ爲シタルトキハ相手方ナル受益者若クハ轉得者モ亦其情ヲ知リタルモノト推定シ此推定ニ反スル但書ノ場合ニ於テハ受益者又ハ轉得者ヲシテ其情ヲ知ラサリシコトノ立證責任ヲ負ハシメタルモノトス

(聯)

○詐害行爲ノ取消權ハ債務者カ一般債權者ノ共同擔保ヲ害スル法律行爲ヲ爲シタル場合ニ於テ債權者ニ救済ヲ與フルヲ目的トスルモノニシテ其債權者ハ詐害行爲取消ノ結果債務者ニ復歸シタル財産ヨリ平等ノ割合ヲ以テ辨濟ヲ受クルニ依リ救済ヲ得ヘキモノナレハ詐害行爲ノ取消

權ヲ有スル債權者ハ金錢ノ給付ヲ目的トスル債權ヲ有スル者ナラサルヘカラス

(反對)

立木ノ賣主カ引渡約定ノ期間中買主ノ權利ヲ害スヘキ惡意ヲ以テ自己ノ不動産ヲ賣却シ又ハ抵當權ヲ設定シテ無資力ト爲リ買主ヨリ損害賠償ヲ請求スルモ其效ナキニ至ラシメタルトキハ買主ハ民法第四百二十四條ニ依ルノ外其債權ヲ保全スル方法ナシ故ニ同條ノ規定ハ右等ノ場合ヲモ亦之ヲ包含スルモノニシテ直接ニ金錢上ノ債權關係ニノミ限定シタル精神ニ非ス

(聯)

○特定物ノ引渡請求權ヲ有スル債權者ハ民法第四百二十四條ニ基ク取消權ヲ有セサルモノトス

○抵當權設定行爲カ詐害行爲タル要件ヲ具備スル以上債權者ハ民法第四百二十四條ニ依リ之カ取消ヲ訴求スルコトヲ得ヘク抵當權カ爾後目的不動産ノ競賣ニ因リ消滅スルモ債權者ハ其訴權ヲ喪失スルモノニ非ス
○受益者カ詐害行爲ノ取消ヲ免レントスルニハ債權者ヲ害スヘキ事實ヲ知ラサリシコトヲ證明セサルヘカラサルモノトス

(同主旨)

民法第四百二十四條ニ於ケル詐害行爲ノ取消ハ債務者カ債權者ヲ害スルコトヲ知リテ法律行爲ヲ爲シタル以上ハ其一事ヲ以テ債權者ヨリ之ヲ請求シ得ヘキ法意ニシテ若シ受益者又ハ轉得者カ債權者ヲ害スヘキ事實ヲ知ラサリシトキハ例外トシテ其取消ヲ免レシタルモノトス故

七	七	七	三五	七
			二	
			九	
			二〇三	
			二〇七	
			二〇九	
			二二五	

七	三六	三七	三九	七
			二四九	
			一五七	
			八〇〇	

ニ轉得者等ニ於テ其取消ヲ免レントスルニハ右事實ノ不知ヲ證明セサルヘカラス

○會社カ詐害行爲ニ依ル受益者タル場合ニ於テ其會社カ債權者ヲ害スル事實ヲ知リタルヤ否ヤノ問題ハ會社ノ社員其他ノ代表者カ之ヲ知リタルヤ否ヤニ依リ決スヘキモノトス

○會社ノ設立行爲カ詐害行爲ナル場合ニ於テハ設立者カ債權者ヲ害スヘキ事實ヲ知リタルトキハ會社ニ於テ之ヲ知リタルモノト認ムルヲ相當トス

○民法第四百二十四條第一項但書ハ受益者又ハ轉得者カ詐害行爲ノ取消ヲ免ルヘキ例外ノ場合ヲ定メタルニ過キスシテ詐害行爲ノ成立要件ヲ規定シタルモノニ非ス

○債權者カ民法第四百二十四條ニ依リ取消ヲ請求シ得ルハ債務者ノ爲シタル法律行爲ニシテ受益者ノ爲シタル法律行爲ノ取消ヲ請求シ得ルモノニ非ス

(參照)

幼者ノ最近親族ハ幼者ノ財産權上ニ關係ヲ有セサルモノト雖モ後見人ノ幼者ニ對スル詐害行爲ニ付テハ資格上之カ救濟ヲ求ムル訴權ヲ有スルモノトス

抵當地ニ對シ他人ト永小作ノ契約ヲ爲ストキハ抵當物ノ價格ニ影響ヲ生スヘキハ必然ニ付キ抵當取主ハ之ヲ詐害行爲ナリトシテ取消ヲ求ムルノ權アリ

甲者カ乙者ニ對シ債權アル場合ニ於テ丙者カ乙者ヨリ貸金名義ノ債權ヲ取得シタルモ別ニ乙者ニ十分ノ財産アリテ甲者ノ債權ニ損害ヲ及ボササル以上ハ丙者ト乙者トノ貸借ハ好シ現實金圓ノ授受ナシトスルモ甲者ニ詐害行爲取消ノ訴權ヲ發生スヘキモノニ非ス今ヤ丙者ハ乙者ノ財産ニ餘裕アリテ甲者ニ損害ナキコトヲ立證シ甲者ハ乙者ノ負債其資産ニ超過スルコトヲ立證シタル場合ニ方直ニ乙者ノ立證ノミヲ採リ甲者ニ詐害行爲取消ノ訴權アルモノト判定セシハ理由ナキ裁判ナリ

同一ノ地所チ甲乙二者ニ小作セシムルノ契約ヲ爲シタル者カ更ニ之チ甲者ノミニ小作セシムル契約ヲ爲シ其目的乙者ヲ詐害スルノ意ニ出ツルモ乙者ハ詐害行爲トシテ之カ廢罷ヲ請求スルノ要ナシ

詐害行爲廢罷ノ訴權ハ債務者カ債權者ヲ害スル爲メ自己ノ財産ヲ他ニ讓渡シテ之ヲ減少スルカ又ハ他人ニ債務ヲ約シ債權者ノ利益ヲ寡少ナラシムルカ如キ場合ニシテ其行爲ヲ廢罷スルノ外他ニ回復ノ道ナキトキニ限り適用スルコトヲ得ルモノトス

債務者ノ財産讓與カ自然債權者ノ損失ニ歸スルコトアルモ其讓與ノ當時他ニ債務ノ抵償タルヘキ財産ナカリシトノ證據ナキ上ハ讓與ノ所爲ハ詐害行爲ト爲ラストノ裁判ハ相當ナリ

債務ノ辨償ニ不足ヲ生スヘキコトヲ知リテ財産ヲ無償ニテ他ニ讓與シタルトキハ意思ノ有無ニ關セス詐害行爲タルヘキモノトス

債務者唯一ノ財産タル地所買戻權ヲ以テ債權者中一部ノ債權辨濟ニ充當センコトヲ圖リ他ノ債權者ニ辨濟ヲ爲サシメサル爲メ債權者中一人ノ名義ヲ以テ該買戻權ヲ買取り其代金ヲ支拂ハスシテ之ヲ支拂フタルモノノ如ク爲シタル行爲ハ詐害行爲ナリトス

訴訟ニ於テ被告ノ地位ニ立ツ者カ或契約ヲ詐害行爲ナリトシテ廢罷セシメントスルニハ之ニ

三七	二九六
七	二九五
七	二九五
七	二九五
七	二九五
七	二九五
七	二九五
二六	一五五
二七	一七
二九	二二
二九	二八
二九	二〇
二九	一四五
三〇	五

困リ不當ニ利得シタル者ニ對シ尙ホ債務者ヲ參加セシメ更ニ訴ヲ提起シテ判決ヲ受クルカ又ハ其行為カ事件ノ裁判ニ影響ヲ及ホス場合ニ於テハ第一審ノ審理中右ト同一ノ訴訟手續ヲ履キ反訴ヲ提起シテ判決ヲ受クヘキモノトス

第四百二十六條

○民法第四百二十六條ニ規定セル二年ノ時効ノ起算點タル取消ノ原因ノ覺知シタル時トハ債務者ノ法律行為カ詐害ノ目的ニ出テタルコトヲ債權者カ覺知シタル時ヲ謂フモノニシテ受益者ニ對スルト轉得者ニ對スルトニ依リ其起算點ヲ異ニスルモノニ非ス
○取消權ノ二年ノ時効ハ債權者カ取消ノ原因ヲ覺知シタル時ヨリ進行スルモノニシテ行為成立ノ時ヨリ進行スルモノニ非サルモ債權者カ詐害ノ事實ヲ知ルニ非サレハ取消ノ原因ヲ覺知シタルモノト謂フヲ得サルモノトス

第三節 多數當事者ノ債權

第一款 總則

第四百二十七條

○民法第四百二十七條ノ原則ハ數人ノ主タル債務者ノ爲メニ保證ヲ爲シタル者カ債務ノ履行ヲ爲シタルニ因リ主タル債務者ニ對シテ求償權ヲ

行フ場合ニ於テモ亦適用セラレヘキモノトス

○數人ノ債務者アル場合ニ於テ別段ノ意思表示ナケレハ各債務者ハ平等ノ割合ヲ以テ其債務ヲ負擔シタルモノト推定スヘキ法則ハ裁判所カ數人ノ債務者ニ對シ或金額ノ支拂ヲ命シタル場合ニモ亦之ヲ適用スヘキモノトス

○數名ノ保證人カ各自主タル債務者ト連帶シテ債務ヲ負擔シタル場合ニハ保證人ハ債權者ノ請求ニ應シ一人ニテモ債務全部ノ履行ヲ爲ササルヘカラス從テ民法第四百二十七條ノ規定ハ此場合ニ適用スルコトヲ得ス

○收用地ノ共有者ハ收用者ニ對シ其收用ニ因リ支拂フヘキ對價金ニ付キ債權ヲ有シ其債權ノ目的物可分ナルヲ以テ各共有者ハ其持分ニ應スル金額ヲ請求スルノ權利ヲ有スルモノトス

○契約ニ依リ連帶債務ヲ負擔シタルト爲スニハ當事者カ連帶債務ヲ負擔スルノ意思ヲ明示若クハ默示シタルコトヲ要スルモノニシテ其表示ナキニ之ヲ推定スルコトハ許ササルモノトス

(參照)

債務者ノ財産ハ總債權ノ共同擔保ナルヲ以テ其財産カ總債權ニ對スル義務ヲ辨濟スルニ足ラ

三〇九 五

四 二〇九

六 五九六

三七 三

三六 一三〇五

三九 一六七六

三 一四七

四 一四八六

サル場合ニ於テハ其債權額ノ割合ニ應シ平等ニ之ヲ分配スヘキハ法律ノ原則ナリ

第二款 不可分債務

第四百二十八條

『第四百二十八條』

- 民法施行前ニ在リテモ債務ノ目的不可分ナル以上ハ其各債權者ハ債務者ニ對シ債務全部ノ請求ヲ爲スコトヲ得タルモノトス
- 數十筆ノ地所ヲ賣買シタル場合ニ於テ當事者カ單ニ之ヲ一括シテ其代價ヲ定ムルモ其目的物ハ元來可分ナルカ故ニ之ヲ以テ直ニ不可分ノ合意ナリト云フコトヲ得ス
- 貸借上債權者二名宛ニテ抵當附借金證書ヲ交付スヘキ旨ノ契約ヲ取結ヒタル場合ニ於テハ民法典不可分ノ原則ニ從ヒ二名ノ債權者中其一名ヨリ債務者ニ對シテ二名宛ノ抵當附借金證書ノ交付ヲ請求スルコトヲ得
- 數人共同シテ供託ヲ爲シタル場合ニ於テ其目的カ性質上不可分ナルトキハ各供託者ハ民法第四百二十八條ノ規定ニ依リ總債權者ノ爲メニ供託物ノ返還ヲ請求スルヲ得ルモノトス

(參照)

商業取引上ノ殘額ハ合意ニ因テ不可分ト爲ササル以上ハ其性質可分ナリ

第四百三十一條

『第四百三十一條』

- 不可分債務カ變シテ可分債務ト爲リタルトキハ各債務者カ其負擔部分ノ履行ヲ爲スニ付キ何等ノ障礙ナケレハ本來ノ債務ハ此時ヲ以テ連合債務ニ變シ債務者ハ各自其負擔部分ノミニ付キ履行ノ責ニ任スルモノトス
- 頼母子講會ノ講員カ數名ノ世話人ニ對シ其義務不履行ヨリ生シタル損害ノ賠償トシテ金額ノ支拂ヲ要求シ裁判所之ヲ正當ト認メテ其支拂ヲ命シタル場合ハ民法第四百三十一條ノ所謂不可分債務カ可分債務ニ變シタルモノニ該當ス

第三款 連帶債務

- 連帶債務ハ當事者ノ意思若クハ法令ノ規定アルニ非サレハ存立スヘキモノニ非ス

- 連帶債務ト保證債務トハ各々法律關係ヲ異ニシ前者ニ非サルコトハ後者ニ非サルコトヲ包含セス故ニ被告カ連帶債務者ニ非サル理由ヲ以テ原告ノ請求ヲ却下シタル判決ハ被告ノ保證債務者ニ非サル點ニマテ其確定力ヲ及ホスヘキモノニ非ス

(參照)

三〇九 五

三三〇 六

三四二 六二

三五九 一七四

三九 一〇六

二九 二九

四四 七四

四四 七四

三三 二四

四二 八三

連帶義務ハ平等分擔ノ常態ニ反スル變體ナリ故ニ此變體ノ義務ヲ認ムルニハ必ス法文若クハ契約ノ文詞ニ於テ明記アルヲ要ス
連帶義務ハ法律ノ規定又ハ特約ニ依リ發生スルモノトス

第四百三十二條

○主タル債務ニ付キ連帶ノ義務アル者ハ之ニ附隨スル債務ニ付テモ亦連帶ノ義務アリ從テ連帶債務者ハ訴訟費用ニ付キ連帶ノ義務ヲ負フモノトス

(同主旨)

訴訟費用ハ債權ノ行使ニ因リテ生スル費用ナルヲ以テ當事者間ニ在リテハ利息ト均シク附從ノ債務タルニ外ナラス故ニ連帶債務者ハ債權者ニ對シテ其債務ニ關スル訴訟費用ニ付テモ亦根本ノ債務ト均シク連帶ノ義務ヲ負擔セサルヘカラス

○連帶債務者タルニハ必スシモ常ニ自己ノ負擔部分アルコトヲ要セス

○債務ノ目的カ金錢ナルトキハ其債務ハ可分的ナルカ故ニ債務ハ單一ナリトスルモ連帶債務者ノ責任ノ限度ハ債務者ニ依リ各異ナルコトアリ得ヘキハ當然ナリトス

○如上ノ場合ニハ債務ハ唯一ニシテ數箇成立スルモノニ非サレハ連帶債務者ノ一人カ他ノ債務者ノ意思ニ反シ其限度ヲ超越シタル額ノ債務ヲ負擔シテ債務ヲ成立セシメタル場合ト雖モ他ノ債務者ハ其責任限度内

ニ於ケル債務ヲ負擔スヘキハ勿論ナリトス

○數人カ連帶債務ヲ負擔スルトキハ債權者ハ其債務者ノ一人ニ對シ又ハ同時若クハ順次ニ總債務者ニ對シテ債權ノ全部又ハ一部ノ履行ヲ請求スルコトヲ得ルモノナレハ債權者ハ連帶債務者ノ一人カ債權者ヲ害スルコトヲ知リテ爲シタル法律行為ノ取消ヲ請求スルコトヲ得ヘク他ノ連帶債務者カ債務ノ辨濟ヲ爲スニ十分ナル資力ヲ有スルコトハ債權者ノ廢罷訴權ノ行使ヲ妨クルモノニ非ス

第四百三十四條

第四百三十四條

○民法施行前ニ在リテモ債權者カ連帶債務者ノ一人ニ對シ債務ノ履行ヲ請求シタル場合ニ其債務者カ債權者ノ承諾ヲ得テ延期證ヲ差入レタルトキハ他ノ債務者ニ對シテモ亦出訴期限ノ進行ヲ中斷スルモノトス

(同主旨)

連帶債務者ノ一人カ債權者ニ對シ延期證書ヲ差入ルルモ他ノ連帶債務者ニ對シテ時効中斷ノ效ヲ生セサルモ連帶債務者ノ一人カ債權者ヨリ債務履行ノ請求ヲ受ケ延期證書ヲ差入レタル場合ニ於テハ他ノ連帶債務者ニ對シ時効中斷ノ效ヲ生スルモノトス

○差押ハ債權者カ其債權ノ辨濟ヲ得ル爲メ自ラ行フモノニシテ本來債務者ニ對スル意思表示ノ方法ト爲スモノニ非サレハ之ヲ請求ト同一視スヘキモノニ非ス

二九
二一
一六七

三六
六五六

三六
一六六
五四

七
一三六

七
一三八

七
一七〇

四〇
一一三

三
一

三
七七

○民法第四百三十四條ハ連帶債務者ノ一人ニ對スル請求ノミニ付キ他ノ債務者ニ對シテモ效力ヲ生スルモノト爲シタルニ止マリ請求以外ノ時効中斷ノ事由ニ付テハ其效力ヲ生セザラシムル法意ナリトス

(第四百三十五條)

『第四百三十五條』

○手形ノ共同振出行爲ハ振出人總員ノ爲メ商行爲ナルヲ以テ約束手形ノ共同振出人ハ連帶債務ヲ負擔スヘキモノナレハ其一人ト受取人トノ間ニ手形ノ書換ニ因リテ更改ノ行ハレタルトキハ民法第四百三十五條ニ依リ連帶總債務者ノ利益ノ爲メ效力ヲ生シ舊手形債務ハ他ノ共同振出人ニ對シテモ消滅スルモノトス

(第四百三十七條)

『第四百三十七條』

○債權者カ連帶債務者中ノ一人ニ對シテ分擔ヲ許シ其餘ノ債務ヲ免除シタルトキハ其債務者ノ負擔部分ニ付テハ他ノ債務者ノ利益ノ爲メニ其效力ヲ生スヘキモ之カ爲メ他ノ債務者カ債務ノ總額ヲ平分シテ一部ツツ負擔スヘキ條理ナシ

民法第四百三十七條ニ所謂連帶債務者ノ負擔部分ハ債務者間ノ合意又ハ各債務者カ其債務ニ付キ實際利益ヲ受ケタル割合等債務者ノ間ニ存スル事實ニ依リテ定マルモノトス

三	七七
三	二〇
三	三
四	六九七
五	二三四

(同左)

民法第四百三十七條ニ所謂連帶債務者ノ負擔部分ハ債務ニ付キ各債務者ノ利益ヲ受ケタル割合ニ應シ又ハ債務者間ノ合意ニ依リテ定マルヘキモノトス

○債權者カ連帶債務者ノ一人ニ對シ債務ノ免除ヲ爲スニ當リ其債務者ノ負擔部分ノ割合ヲ知ラサルモ之カ爲メ他ノ債務者ニ及ホスヘキ免除ノ效力ニ何等ノ消長ヲ來スヘキモノニ非ス

○共同不法行爲ニ因リ連帶債務ヲ負擔スル數人中其一人ニ對スル債務免除ノ效力ニ關シテハ民法第四百三十七條ノ規定ヲ適用スヘキモノトス

○債權者カ一部ノ連帶債務者ニ對シ他ノ連帶債務者カ支拂ヲ爲ササル場合ノ外其請求權ヲ行使セサルコトヲ約スルハ契約當事者タル債務者ニ對シ債權者ノ契約違反ノ場合ニ一ノ抗辯權ヲ付與スルニ止マリ債務ヲ免除シタルモノニ非ス

(第四百三十九條)

『第四百三十九條』

○民法第四百三十九條ニ所謂連帶債務者ノ負擔部分ハ債務者間ノ合意又ハ各債務者受益ノ割合等債務者間ニ存スル事實ニ依リテ定マルモノニシテ之ヲ定ムルニ付キ債權者ノ合意ヲ要スルモノニ非ス

○甲乙兩者カ連帶債務ヲ負擔シタル場合ニ於テ甲ノ債務カ商行爲ニ因ル

三七	六五
四二	六九七
三	八三四
七	一七三〇
四	五四